



=「協育」事例集=

教育の創造

～地域「協育」のススメ（第3巻）～

大分大学高等教育開発センター

Center of Development and Research for Higher Education, Oita University

= 「協育」事例集 =

教育の創造～地域「協育」のススメ（第3巻）～の発刊にあたって

大分大学高等教育開発センター

センター長 山 下 茂

* * * * 教育の創造～地域「協育」のススメ（第3巻）の内容 * * *

「第3巻」は、大分大学の第2期中期計画で大分大学高等教育開発センターが取り組んできた実践を中心に、大分県教育委員会の資料も掲載させていただいている。

「教育の創造」という本事例集の題名につきましては、第1巻でも述べさせていただきましたが、戦後の教育改革によって日本の教育は大きく前進し、素晴らしい学校教育制度を確立してきた、まさに、日本流の「教育の創造」であったということによります。言い換えれば、「教育の創造」の中心は学校教育であり、そのことによる大きな成果をもたらしてきました。

しかし、平成18年度の教育基本法の改正以後、国は教育に関わる新しい方向性を示して来たように感じます。教育基本法第13条で新たな「家庭、学校、地域社会の教育の協働」を規定し、地域社会からの子育ての取り組みとしての、学校支援地域本部事業や放課後子ども教室の拡大、地域の教育力を学校運営に導入するコミュニティ・スクールなど、様々な施策が取り組まれるようになりました。大分大学高等教育開発センター（以下「本センター」という）では、改正教育基本法の趣旨を踏まえ、平成20年度から教育の協働に関する調査研究と指導者の育成事業を実施してきました。

= 「協育」事例集= 教育の創造～地域『協育』のススメ～は、本センターの調査研究や指導者育成事業などの主催事業を中心に、県内の各種団体等の活動事例や大分県教育委員会の取り組みを紹介して、教育の協働を推進する資料としていただくことを目的に刊行してきました。

「地域総参加で子育てのまちづくり」は多くの地域でアドバルーンを挙げています。しかし、どうすれば「総参加が推進できるのかわからない」という悩みもよく聞きます。様々な情報を活用しながら、大分県における「教育の協働」の第1歩、さらに「前進」の取り組みが進めることを願って「地域『協育』のススメ（第3巻）」を発刊することとしました。

「第3巻」は、これまで本センターが取り組んできた実践を中心に、大分県教育委員会の取り組みも紹介することとしました。「第1巻」「第2巻」と併せて今後の取り組みの資料としていただければ幸いです。

県内の行政・機関・学校・企業・地域住民、そして各種団体・グループのネットワークによる「地域総参加で子育てのまちづくり」は始まったばかりですが、着実に広がり、定着していくことだと思います。しかし、それは子どもたちを育てる役割を担う大人の意識次第であり、そのための資料としてご活用いただくことをお願いして、発刊のご挨拶とします。

平成26年3月

目 次

第1章 教育の創造～地域「協育」のススメ・その3～

本を結ぶあなたへ～童話作家　あまんきみこ氏の世界から学んだもの～1

第2章 大分大学高等教育開発センターの取り組み

第1節 主催者として実施した事業のあゆみ

事例1 「『協育』アドバイザー養成講座」の取り組みの紹介19

事例2 地域発「活力・発展・安心」デザイン実践交流会での「協育」の事例紹介37

第2節 協働の主体として別府市で実施した文部科学省事業の推進事例

事例1 学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究50

(学校・家庭・地域の連携協力推進事業)

※大分県における事業名：泉都別府「協育」プロジェクト事業

事例2 平成25年度「成長分野における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」...56

※大分県における事業名：おんせん県おおいた・別府型ドリームプロジェクト事業

第3節 大分大学生の学びの事例報告

1. 地域住民の中で学ぶインターンシップ授業に関する調査分析の報告

事例1 社会人基礎力の育成に係るインターンシップと学習ボランティアの比較研究 ...61

事例2 キャリア形成に有効的に働くインターンシップ授業に関する研究64

2. 大分大学生学習ボランティアサークル「フォーバル」の紹介

事例1 読み聞かせサークル「結（ゆい）」68

事例2 地域住民との交流を進める「WITH」70

事例3 別府市出身の学生による、後輩の小中学生の学びを支援する「コネクト」 ...72

第3章 大分県教育委員会が進める「協育」ネットワークの推進について

1 大分県における地域「協育」推進の取り組み74

2 大分県立社会教育総合センター調査研究事業79

資料1：コミュニティ・スクール実施のための資料86

資料2：おおいた「協育」ポータルの紹介90

第1章 教育の創造～地域「協育」のススメ・その3～

～童話作家 あまんきみこ氏の世界から学んだもの～

大分大学高等教育開発センター教授 中川忠宣

NPO法人大分県協育アドバイザーネット佐藤真由美

はじめに

2013年10月30日(水曜日)に大分大学高等教育開発センター及び大分大学学術情報拠点(大学図書館)の主催、NPO法人大分県「協育」アドバイザーネットの共催で「あまんきみこ氏講演会『子どもと本を結ぶあなたへ』童話作家の想い～一冊の本ができるまで～」を開催しました。「『協育』事例集第3巻」では、その講演会から得たものを整理しながら、読み聞かせ等の「子どもと本を結ぶ活動」をテーマにして「地域『協育』のススメ」を考えてみたいと思います。

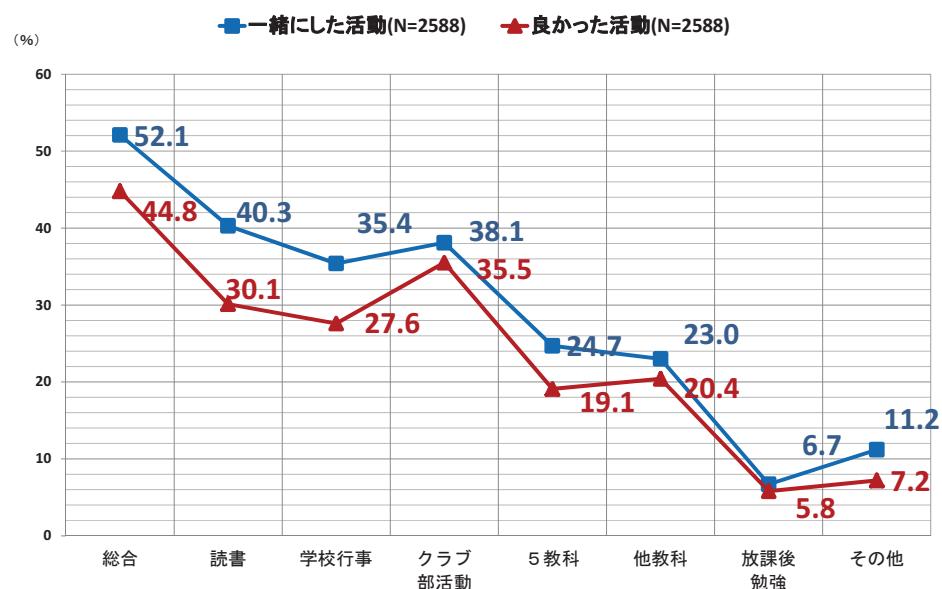
大分大学高等教育開発センターでは、平成20年度から教育における現代的な課題である「教育の協働」の推進に関する調査研究と、推進役を担うコーディネーターの養成講座(「協育」アドバイザーネット)
養成講座<「協育」事例集第2巻に紹介>)を実施しています。「教育の協働」は、平成18年の教育基本法改正によって第13条に新たに規定されたものであり、それまでの学校教育及び社会教育において取り組まれてきた事業を「教育の協働」という観点から、家庭、学校、地域社会の3者が協働して子育てを行うシステム作りの重要性を明確にしたものであると考えています。

「教育の協働」による事業として、コミュニティ・スクールや学校支援地域本部事業、放課後子どもプラン、さらに来年度から予定されている「土曜学習事業」など、様々な取り組みがおこなわれていますが、こうした全ての事業を推進するために必要な考え方の一つとして重要なものが子どもたちの学びを豊かにする「支援内容」ではないでしょうか。

右のグラフ1は、 グラフ1：小中学生が地域の人から指導してもらった活動

平成23年度に大分県の小中学生を対象にした「学校支援内容」に関する調査結果です。このグラフからも学校教育活動への支援内容として「読み聞かせ」や「図書館の整理・貸し出し」等の読書支援を受けていると回答した小中学生が40.3%もあり多くの学校での取り組みがあることがわかります。さらに、読書嫌いな小中学生がいるにもかかわらず、30.1%が「良かった」と回答しています。

読書支援活動も含めて、こうした地域住民による学校支援活動は学校教育活動に大きな効果をもたらしていることは、各種調査でも明らかにされています。



右のグラフ2は「良かった理由」を表しています。子どもたちは、教職員以外の地域の方と一緒に学ぶことによって「分かるようになる」「楽しい」「褒めてくれる」などの肯定的な感情を持っていることが分かります。

本センターにおいてはこうした現状を基盤において、前述した「『協育』アドバイザー養成講座」を開講して5年目になります。第5期生を迎えての今年の養成講座<基礎講座>において、「支援内容」の重要な領域となっています「読み聞かせ（子どもと本を結ぶ）」をテーマにして開講し、読み聞かせ活動等をしている一般の方々にも公開しました。

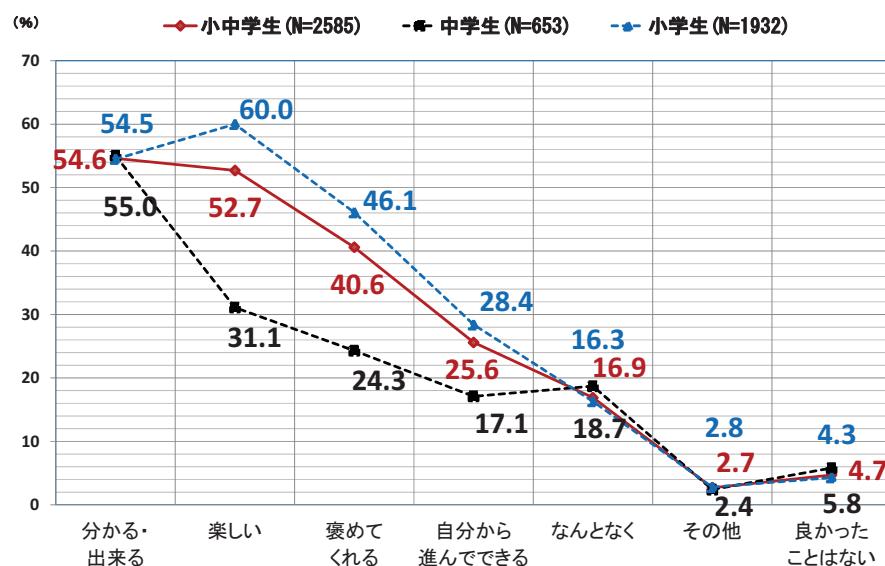
随分以前から学校や図書館、児童館等での読み聞かせが推進されてきました。国は2,000年を「子ども読書年」、さらに2,008年を「国民読書年」と定め、多くの事業が行われました。特に2,000年の子ども読書年を機に、読み聞かせ等の「ボランティア育成講座」が日本各地で開講され、また、幼稚園、保育園、小学校において、PTA活動の一環としての保護者の読み聞かせや有志による読み聞かせグループの発足等、この十数年で読書支援に関わる人数は拡大されています。しかし、子どもたちに関わる時間や回数が多くなればなるほど、読書支援活動をされる方々は達成感と共に、不安や問題点などいろいろな課題も生まれています。変化していくこれからの時代の中で、私たちはどのように読書支援に関わっていくのかも考えていかなければならないと思います。

さらに、親が子どもにおこなう「おやすみの読み聞かせ」「お腹の中からの我が子への読み聞かせ」等の推進も行われています。読み聞かせは、家庭における親と子の関係においても大切にすべきものだと考えます。それぞれの立場の大人たちが未来を担う子どもたちのために何ができるかを共に集い、共に考えてきたいと思います。

そこで、これまでの「協育」事例集第1巻及び第2巻の第1章では、「教育の協働」に関する調査分析を報告して、その重要性について説明する内容を掲載させていただきましたが、今回の第3巻では、子どもたちの学びの「支援内容」の1つである「読み聞かせ（子どもと本を結ぶ）」を進めることをとおした「地域『協育』のススメ」を考えてみたいと思います。

グラフ2：地域の人から指導されて良かった理由

「学校支援が良かった理由」



あまんきみこ氏講演会『子どもと本を結ぶあなたへ』

童話作家の想い～一冊の本ができるまで～



本講演会は、童話作家「あまんきみこ」氏の童話への想いをとおして、学生の教養としての学びを深めるとともに、地域でのボランティア活動として大切にされている「読み聞かせ」についての意識の醸成を目的として、一般のボランティアの方々にも作家の生の声（「想い」）を聞いていただき、読み聞かせの悩みも語り合うなどして、みなさんの横の繋がりを作るお手伝いをしながら、これから活動に役立てていただければと願って開催しました。

「子どもたちにたくさんの本と出会って欲しい」と読書支援に関わる者として常に考えています。子どもたちが本に出会うには、文章や絵を書く作家、本という形にする出版関係者、そして、その本を子どもに手渡す者（子どもと本を結ぶ）が必要です。「子どもと本を結ぶ」手段として、読み聞かせや朗読をしている私たちにとって、「作品に込められた想い」を伝えたい、また、そうすることが読み手の役割だと考えます。一冊の本ができ上がるまでの苦労とその過程を経て出来上がった作品への想いを聞かせていただくことは、私たちのこれから活動にとって大変貴重で意義あるものだと思います

今回、小学校の教科書でもなじみ深く、読み聞かせでも多くの作品を使わせてもらっています童話作家「あまんきみこ」氏に作家としての想いや作品の成り立ちなどのお話をうかがいたいと思いました。そして講演会終了後の交流会は、「読書に関わる方々が繋がり、本を通して子育てを！」という想いを語り合い、からの活動に生かしていただきたいと願って開催しました。

主催 大分大学高等教育開発センター 大分大学学術情報拠点（図書館）

共催 NPO法人大分県『協育』アドバイザーネット

「ゆい（結い）」人と本を結ぶ読書支援プロジェクト

会場：大分大学学術情報拠点（図書館）

日時：平成25年9月30日（水）10：00～12：30

第1部 講演（対談）

内容：あまんきみこさんの友人の「鬼が島文庫主宰 千葉八重子」（由布市で活動中・紙芝居文化の会おおいた代表）と対談しながら童話への想いを語ってくれました。

*講師紹介 大分大学2年 外池夏子 *謝 辞 大分大学4年 松尾美幸

第2部 交流会（参加者交流会）

内容：1グループ10人程度で8グループになって、各グループ進行役を中心にして、日常の活動の喜びや悩み、選書の工夫等の活動を交流しました。

* *あまんきみこ氏プロフィール* *

1,931年満州に生まれる。児童文学作家。京都在住。日本女子大学児童学科卒業。与田準一に出会い児童文学の道にはいる。坪田穣治主宰の「びわの実学校」に「くましんし」を投稿したのが掲載される。小学校の国語の教科書にも作品が多数使われている。代表作品「車のいろは空のいろ」第1回児童文学新人賞 第6回野間児童文芸推奨作品賞 その他「おにたのぼうし」「おはじきの木」「ちいちゃんのかげおくり」「ぽんぽん山の月」「こぐまのくうちゃん」2,13年8月30日出版 等

千竈八重子氏プロフィール

1,934年生まれる。由布市湯布院町在住。北九州市役所（主に市立図書館児童室）に勤務し、退職後、湯布院に子どもの本の文庫「鬼が島文庫」設立した。紙芝居文化の会おおいた代表として活動し、県内外及び海外での紙芝居の普及活動をはじめ全国的な読書支援活動を行っている。

第1部 あまんきみこ氏と千竈八重子氏のトーク

1. 講演の概要



あまん氏からの申し入れにより、トーク形式の講演会となりました。

当日は、1時間20分という短い時間でしたが、あまん氏の生き方、考え方、作者本人の想いが一冊の本になるまでの過程、それぞれの作品への想いを、聞き役の千竈氏に絶妙なタイミングで引き出してくださいました。満州から引き上げ船に乗って日本に帰ってこられたという話は、最初、目の前で静かに、ゆっくりとお話をされるその雰囲気から想像しがたいものでしたが、語られる内容と

作品が重なり、優しさの中の凛としたものが伝わってきました。お話してくださる作品については、会場の参加者の希望に添いたいというご本人の希望でしたので、当日の参加者は、いきなりの問い合わせに驚かれたことと思います。会場にいる自分たちが聞きたいことを話してくださる「あまん」氏に感謝し、講演者であるあまん氏を一層身近に感じる事ができたのではないかと思います。その上、作者本人による「きつねのおきやくさま」の朗読は、会場のリクエストに応えていただいたもので、最高のサプライズでした。



大分大学読み聞かせグループ
「結」(ゆい)の学生による受付、
謝辞等がおこなわれました。



大分県立図書館のご厚意によって受
けて近くに展示された、あまんきみ
こ氏の作品に多くの方が目を通し
ていました。



2. 参加者の感動と思い

以下、あまんきみこ氏と千竈八重子氏のトーク形式での講演会から、今後の活動へ参考（学んだこと）になったことについて、アンケートの全てを紹介します。

(1) あまんきみこ氏〈雰囲気等〉自身から学んだこと

- ・先生の両親が素敵です。また、先生の感性に安らぐを感じました。幼年時代の大切さを改めて感じました。
- ・1993年生まれの私の母は、妖怪化してますが、先生は若かったです。「魔女」なのでしょうか。でもその魔女をマトリョーシカのように開けていくと、とてもこわがりのやさしい女の子が出てきました。たぶんその母上の面白い人なのだろうと感じました。「生まれたくて生まれたのだろうか?」という問いかけについて、大きなお世話とも思えますが先生の場合は何に対しても平等な眼を向けて様々なデータを高い画素数でメモリしているのだと思いました。
- ・幼い頃の想いは忘れてしまった方がいいのかと、迷いながら大人になりました。でも、お話を聞きして、大人だからこそ子どもの頃の想いを上手に表現し、伝えることもできるというお話を聞き、子どもの頃の想いを大事にしていこうと思いました。
- ・子どもの頃の思い出などを話していただいて参考になりました。お若いです。
- ・幼少時代の自分にもどりながら、その時に言いたかったことを書いているとおっしゃっていましたが、とても感性が豊かで優しい気持ちをお持ちになっているのだと思いました。
- ・3回目の出会いでした。いつお会いしてもすばらしい、あまんワールドがあり、とても幸せな時間を共有することができました。
- ・幼少時代の想いを大人になっても、繊細に物を語りかけるのがすばらしいと思いました。
- ・82歳には感じられなかった。目を閉じて聞いていると不思議な声、話し方に聞こえました。作品に心が入っていると感じました。
- ・あまんさんの幼少時代が絵本の原点になっているのだと感じました。選ぶことのできない命の考え方の話を聞き、懸命に生きていくこと、生かされていることを深く感じました。
- ・素敵な女性で、すべてのお話に感動しました。
- ・自分の中にあるものを表面化している事に感動しました。
- ・先生の声が素敵でした。
- ・はじめてお会いしました。若々しくやさしいお人柄が伝わってきました。
- ・とても心の優しい先生です。まっすぐな気持ちで、そのような気持ちを私も持ちたいです。
- ・想像していた方とは違い、とてもやさしそうで、本に対する愛情を強く感じました。
- ・あまん先生のふわふわしたやさしい感性がお話の仕方で伝わってきました。
- ・ふわふわした雰囲気がありました。少女のような方です、清々しいです。
- ・純粋な方にしか作品を生み出すことはできないと深く感じました。
- ・82歳とは思えない心を頂きました。お元気でいて下さい。
- ・やさしい雰囲気のなかであまんさんの人間味あふれるお話が聞けて大変良かったと思いました。
- ・静かな中でずっと体の奥の方でしっかりとした想いを感じました。
- ・誰の中にも、心と寄り添って下さる方でした。人間としての生き方を学ばせて頂きました。
- ・とってもいやされました。作者としての想いを感じました。
- ・本当にかわいらしい方だと感じました。作品のファンタジックな風景と心にしみる作品が生まれる理由がよく理解できました。
- ・普通の人と違うと感じました。だからこそこれらの作品を作れるのだと思いました。

(2) あまんきみこ氏と童話作家としてのイメージから学んだこと

- ・先生の人柄と本の内容とイメージされる楽しい内容とが一致し、今後も楽しく読ませて頂きたい

と思いました。

- ・幼かった頃の自分の想いを忘れないで本の中にいっぱいいつめているのだと思いました。
- ・お話の中でいろいろな物事を深く読みとり、そこからお話の世界が広がることによって、やしさを感じられた。
- ・あまん先生の作品をご自分で読まれしっとりと心をこめて読んで下さいました。私は心に染みました。
- ・あまん先生の「作品はその人その人の人生で読めばいい」という言葉に感動しました。今後の読み聞かせに活かしたいです。
- ・作品はその人の人生で読むものだという温かい人柄がうかがえる言葉を聞いて、よみきかせでの参考になりました。
- ・柔らかい口調の中にどこかしんの強さを感じました。読み手の（聞き手の）人生が大きく影響するのだろうと、心に響きました。
- ・あまんさんのあたたかい人物が作品を作っているのだと確信しました。
- ・読み聞かせは人生、の言葉に触れて感動しました。
- ・一文一文ゆっくり読み聞かせすることの大切さを感じました。
- ・吸い込まれるような、あまんさんの読み聞かせが心に染みました。
- ・あまんさんの世界にどんどん引き込まれました。
- ・実際にあまん先生の声で、大好きな本を読んでいただき、幸せです。読み方の優しさと間の取り方、気持ちを忘れたくないです。
- ・ふんわりやさしい、あまん先生がますます好きになりました。
- ・作品にイメージがぴったりで、とても素敵な方でした。
- ・あまんさんの童話がどうしてこうも心にしみるものなのか、講義を聞き心にすとんと入りました。

(3) あまんきみこ氏の作品や読み聞かせへの想いから学んだこと

- ・あまん氏の作品の土台になった部分をたくさん引き出して下さって、作品に対する理解が深まりました。
- ・「ちいちゃんの（～かけおくり）きつねは死ななければならなかったという部分」について、本の読解の基本を考えさせられました。
- ・あまん先生が、「きつねのおきゃくさま」の読み聞かせの時を見ず語ったのは言葉がじんと心にしみたようです。
- ・「きつねのかみさま」というのはこういう読み方もあるということを学びました。あまん先生の読み聞かせはじんわりと言葉の重みが伝わってきました。
- ・絵本作家の方々が、ご自身の内面を十分にだして作ってくださった作品を大切に読んできたいと思いました。
- ・人それぞれの経験した思いを込めて、それぞれ読んでもらえればというお話がとても参考になりました。
- ・「きつねのおきゃくさま」が心に染みました。朗読のあり方を考える参考になりました。
- ・人生最初に、絵本としてきちんと意識した作品が妹と私も、父からもらった「ちいちゃんのかけおくり」でした。その作者の先生に思いがけず出会えたことは本当に大切な財産となりました。
- ・作品を書いたときの、心を聞かせていただいてよかったです。
- ・作品を書く時の思いがよくわかり、あまんさんの作品を読む時の参考になりました。
- ・作品の中にある、あまん先生の思いをお聞きすることができてよかったです。
- ・本の読み方や味わい方、読み聞かせの仕方などとても心に響きました。
- ・作者の絵本への思いがよくわかり、今後の参考になりました。
- ・先生の読みをお聞きし、いかに内容を理解し読むことが大切かわかりました。

- ・本人からその作品ができるまでの話が聞けてよかったです。
- ・本の作者の背景について聞けたことが大変良かった。
- ・作者の先生から直接お話を聞いて、作品への思いが伝わってきました。
- ・作家としての思いを聞くことができ、とても参考になりました。
- ・幼年時代の純真な思いをずっと作品に表現してこられたことに感動しました。
- ・作品の中にあまんさんの赤ちゃん時代、幼少時代が出ているのだとわかりました。
- ・命に対する深い愛情からすばらしい作品がたくさんできただったことがよくわかりました。
- ・先生の読み聞かせがとても心に残りました。絵を見なくてもその絵が思い浮かび、次はどうなるのかと楽しみにしながら聞くことができました。先生ならではの読み方に感動しました。
- ・1つ1つの本に色々な思いが込められている事が、本当によくわかりました。
- ・あまん氏の人生、作品への想いが分かって感動しました。
- ・作品とは、その人その人の人生を読むものという、あまんきみこ氏のお言葉が心に残りました。
- ・作品への思いがわかりました。

(4) 今後の読み聞かせの方法について

- ・作家の作品にたいする思いやエピソードを知ることができて、読み聞かせや活動をする際の作品を選択する参考になりました。
- ・読み聞かせしている時の作品は、その人その人の人生で読んで下されば、それが作者の心にかなうとのお話を悩みが消えました。
- ・人それぞれの思いで読めば良いというのが参考になりました。
- ・読み聞かせをする際、作品の成り立ちについても話せることで、より親しみが持てるということを感じました。
- ・学校の図書館で、本の紹介や読み聞かせをする時に、ご本人から直接聞くことのできたエピソードや思いなどを子どもに伝えます。
- ・あまん氏の本への思いを伺うことができ、今後の読み聞かせの参考になりました。
- ・自分の読み方で良いといわれて、今後の読み方が今まで良いと思いました。
- ・こんなふうに読むといいと、あまん先生の読み語りを聞いて思いました。朝の読みかたりでは、よくぱってたくさん読むので一冊をじっくり、余韻を持たせるのもすごく良いと感動しました。
- ・作者の方の色々なエピソードを聞けたことは本を読む時、または練習する時の参考になり良かったです。
- ・今後の読み聞かせに大いに力がわいてきました。嬉しい気分です。
- ・読み聞かせする時、子ども達が「心地よくなる」ような読み聞かせができるよう努力したいともいました。
- ・作品を大切に読んでみたいと思いました。
- ・作家の思いを少しでも多くくみ取り、自分の人生も重ねて、豊かな読書絵本の読み聞かせをやっていきたいです。
- ・作品を読むときの作家の気持ちを考えてみたいと思いました。
- ・作者の想いを感じながら子ども達に、自分の言葉と読み方で話していきたいです。

(5) 今後の読み聞かせ活動への自分の思いについて

- ・お話をただ読むのではなく、本の情緒を感じながら、読み聞かせをしたいと思いました。
- ・絵本それぞのたくされた思いを伝えられれば良いと思いました。
- ・たくさんの本を子ども達にも読んでいきたいです。
- ・実際に作品を作った先生のお話も伝えていきたいと思いました。
- ・作者の心を少しでも伝えることができる読みをしていきたいです。

- ・絵本を読むときに感情を今までより楽しく取り入れて読むことができそうです。
- ・もっともっとあまんさんの本を読んでみたいと思います。
- ・自分の思いをのせて読んでいいということが分かりました。色々な読み聞かせの方法があり、迷う気持ちがありましたが、自分らしく活動に参加していきたいと思います。
- ・本をたくさん読み、やさしい気持ちを持ちたいです。
- ・あまんさんの作品の思いをお聞きし、読み聞かせの時に重ねながら伝えていきたいと思いました。
- ・図書館に携わる者として、本の一冊一冊を大切にする心を改めて肝に銘じたいです。
- ・絵本のなりたちなどがわかり、内容をもっと深く勉強したいと思いました。
- ・豊かな言葉で、感情で、子どもたちとふれあっていきたいと改めて思いました。
- ・子どもたちそれぞれの受け取り方を大切にしたいです。
- ・絵本と絵童話を意識したいです。作品はその人の人生を読むものだということが分かりました。
- ・作者の想いを考えながら、本を読んでみたいと思いました。
- ・当たり前の毎日に色々な物事を感じることから、いろいろなものが見えてくるような気がしました。これからの活動につなげていきたいです。
- ・毎日忙しい中で私も、もっと子どもの心によりそって、ゆっくりとした時間を先生のように大切に過ごしていきたいと、強く思いました。
- ・心を伝えたいといつも考えています。もっともっと深く読みこんで子どもに接したいと思います。
- ・作家さんがこの本をどういういきさつで書いていくのか等のことを分かりやすく、話して下さいました。その気持ちを大切にして、本を読んでいく上で心と合わせて読み聞かせをしていきたいです。
- ・作家のやさしい思いを子どもたちにも伝えたいです。
- ・大変楽しいあまん氏の素顔に触れて、作品を読むときその想いを思い返しながら読みたいと思いました。
- ・私なりに、本の想いを子ども達に届けたいと思います。
- ・作家の方の創作にあたっての気持ちを大切にしようと改めて思いました。
- ・本のできた経緯が分かって、改めて絵本を読んでみたいと思いました。
- ・幼少のとき疑問に思ったこと、思い出をいつまでも大事にしていることを、今後の活動に活かさせて頂きたいと思いました。

(6) その他、講演会の感想

- ・こんなにやさしい気持ちになったのは久しぶりでした。
- ・自分の気持ちに素直になれた感じがしました。
- ・あまんさんの読み聞かせで、この作品の良さや大切さ、作者の思いが伝わってとてもよかったです。また、読む歳で感じ方が違うんだなあと改めて感じました。
- ・読み聞かせでは絶対に教育的な内容があるものだと思っていましたが、特にそうでなくてもよいのだと思いました。
- ・あまん先生の作品はほとんど読んでいますが、もう一度子ども達に読み聞かせてあげたいと思いました。
- ・作品はその人の人生であることを学びました。
- ・読み聞かせをする際に、お2人のやり取りの中から学んだことを念頭に置き読むことができます。とても貴重な講演でした。
- ・実際の読み聞かせがよかったです。
- ・心の暖かい、あまん先生のお話を聞きとっても心地よくなりました。
- ・改めて、日頃讀んでいる本だと思いながら、その作品を興味深く感じました。
- ・作品はその人の人生で読むものだ、という言葉が印象に残りました。

- ・聞き手がよかったです。対等とか親密とか、年下の方では引き出せないものもあった気がします。
- ・今、手元に私の幼年時代に母が読ませてくれた、あまんせんせいの「どんぐり」が残っています。現在3児の母ですが、孫に読ませなさいと実家からおくってくれました。読み聞かせの活動をしていますが、共に母親として、良書を子どもに送ってあげることは非常に大切と今回の機会に改めて思いました。
- ・作家さんのお話はいつも楽しみです。シャイなあまんさんのお話を聞くためトーク形式がよかったです。
- ・あまん氏の読み聞かせは、身にしました。
- ・心豊かで重厚な内容に心ふるえる想いです。
- ・作品というのは、自分の心で読む（タクトをふる）ものであると感じた。
- ・本の読み方についてそれぞれの人生を重ねて読むなど参考になりました。
- ・作品は歳をとったその人その人の思いや歩いてきた人生によって、それぞれ感じてもらえばよいとのお言葉にとても感じ入りました。
- ・あまんさんがよく言われた心の中の核の部分がとても作品を書く上で大きな部分であることがわかりました。
- ・作者は作品の前に出ないという言葉、それぞれの人の人生・感性で読む物という言葉に納得しました。
- ・あまんさんの人柄に触れることができて、とても素敵な時間が過ごせました。
- ・小さいときの生活背景が大切なことが改めて感じました。
- ・幼少時代や赤ちゃん時代の自分の大事な時期が内側にある、とのお話や様々な深い思いが理解できとても勉強になりました。
- ・作品を読んだ事はありますが本人についてのことは全く知りませんでした。しかし今回先生の人柄に触れられてよかったです。
- ・思いが大事だということがわかりました。
- ・子どもの音読（教科書）からファンになりました。
- ・満州での戦争時の出来ごとについては、体験所の話をかつて NHK が取材に放送していたものを PC で見ました。気持ちのすり合わせができないという気持ちがとてもよくわかります。
- ・作品の生まれた作者の思いを聞いて、感動しました。
- ・満州国に生まれ育った経験から「今までの折り合いがついておりません」との一言が大変心に残りました。学生時代に、日中戦争時の中国東北部の歴史についての研究をしたことがあるからです。
- ・作家は作品の前に出ていかないという言葉が素敵であると思いました。
- ・子育ては大変ですが、かけがえのないものだから前向きに、その子を信じて頑張らないといけないと思いました。
- ・私は、1923年生まれ、先生のお話は身にします。ご健康をお祈りします。
- ・とても、素敵なお話をうながしていただき、ありがとうございました。
- ・犬の死の話では、自分のかつていた犬のことと重なり涙が出ました。
- ・数々の児童文学を送り出している、あまんさんの直接の声で本に対する気持ちを聞くことができて大変うれしかった。
- ・「きつねのお客様」の絵本の絵と、読み聞かせ「まんまるおつきさま」の画家の二俣秀明さんは絵が似ているので、読み聞かせ「まんまるおつきさま」の画家の絵が変わっていてよかったです。
- ・先生の読み聞かせが心に残りました。
- ・鬼は鬼として生まれたかったのか、という質問をもたれたことにハッとさせられました。動物にしろ、人間にしろ、生まれるということを選べない事って、ある意味恐怖なのだなと思いました。

- ・自分の幼児期の体験を大切に、現在の自分と結び付けて再考する重要性が分かりました。
- ・大変楽しいお話でした。本はその人の読み方で良い、人生感が大切、幼い時の想いが大切等勉強になりました。
- ・子どもの頃の体験に基づいての作品内容の話が心に残りました。
- ・ちかま先生の引きだしがとてもよかったです。2人の先生の話がよかったです。
- ・また大分にきてほしいです。
- ・心がいやされました。

これまでの参加者の感想から、あまんきみこ氏の「童話への想い」から様々なことを学んだことがわかります。参加者の方々においては、短い時間の中で、大変多くの貴重な感想を書いていただきましたことで、このような報告書を作成することができました。当日の参加者だけでなく、この報告を読んでくださる方々とも講演会の感激や本に対しての想いを共有できることを感謝します。

大分市は初めてという「あまんきみこ」氏に来ていただけたのは、講演会にて聞き役をしてくださった千竈氏のご尽力のおかげです。そして「子どもと本」をこよなく愛している多くの人たちの強い想いのおかげだと思います。当初80名の予定で募集しましたが「あまんきみこ先生にお会いしたい」「お話を伺いたい」という多くの方々の強い想いによって、急遽、150名の参加者を受け入れました。それでも予定よりかなり早い時点で締め切らせていただきました。お断りさせていただいた方々には大変申し訳なく思っています。そして、参加された方々には、窮屈な会場で申し訳ありませんでした。

さて、大分県においても各教育機関や公共図書館、学校を中心に読書支援に力を入れ、ボランティアの支援もあり、子どもたちの読書離れが食い止められつつあると思います。しかし「子どもたちと本」を目の前にして、これでいいのかと不安をもって活動している人も多いかと思います。どのように絵本（本）を子どもたちに読んであげたらよいのか、手渡してあげたらよいのか、どのような悩みはたくさん聞こえきます。今回、あまん氏は、そんな私たちの進む道の扉をそっと押してくださいました。ゆっくりと丁寧にして、ひとつひとつの言葉を大切にしながら語りかけてくださるお話は、私たちの心に静かに染み込んできました。いくつかの作品について、その作品ができるまでの過程やご自分の想いなど貴重なお話をしてくださいました。あまん氏のふんわりとした雰囲気と優しさに溢れた作品の奥にある強い想いを感じました。また、作者自身による絵本の朗読は、改めて「言葉の重み」と「生の声の素晴らしさ」を感じることができました。生の声による「読み聞かせ」が、聞く者の心にどれほどの感動を与えるかを会場の誰もが経験したことと思います。あまんきみこ氏の「作品のファン」で参加させた会場の皆さん全員が「あまんきみこファン」になられたのではないかと思います。



第2部 参加者の交流会について

第2部では、80名ほどの方に参加していただき、学校などでの読み聞かせ活動や読み聞かせ活動の悩みなどについて8グループに分かれて日常の地域での読み聞かせ活動の情報交換をしました。全体会は佐藤真由美をチーフファシリテーターとして、各グループの情報交換は、NPO法人大分県「協育」アドバイザーネットのメンバーや、同大分大学の学生サークル「ゆい（結い）『人と本を結ぶ読書支援プロジェクト』」のメンバーがファシリテーターをおこない、すごい熱気の中で意見交換が進められました。

1時間という大変短い時間でしたので、細かい時間設定をさせていただくことになりました。まずは、日頃の活動紹介を兼ねた自己紹介、次に、読み聞かせ活動の情報交換として、嬉しかったことや悩みなど、日頃感じていることを出し合いました。その中で、選書の悩み、読み聞かせの手法は？などの悩みも出され、解決にむけての意見交換をしながら会が進められていきました。

以下、交流会の参加者の全ての感想を掲載させていただきました。

(1) 選書について

- ・本は沢山読み込んだ上で選びたいです。
- ・選書の仕方、よく読み込むこと、読み手側、聴き手側として選んで良いかなどの話が特に印象的でした。
- ・高学年の読み聞かせで何を読んだらいいのか迷っていましたが、自分の読みたいものを子どもと一緒に楽しんだらいいことをお話を聞くことが出来てよかったです。
- ・相手に障害があったり、家庭環境がそれであったりしても、作品を選ぶのは自由に選んだほうがよいことや、気をつかいすぎるのではなくないことなど参考になりました。

(2) 参加者の「思い」から学べた（共感）できたこと

- ・読み方に悩んでいましたが、その人その人の人生で読めばよいといわれ納得しました。
- ・初めてお会いしたにもかかわらず、素直に話が出て、同じ道を歩む方々であるなと思いました。また会いたいです。

(3) 今後の読み聞かせの方法について

- ・本の選び方や、読み方などとても参考になりました。
- ・読み方の勉強になりました。
- ・先生の読みをお聞きし、いかに内容を理解し読むことが大事か分かりました。

(4) 今後の読み聞かせ活動への自分の思いについて

- ・読み聞かせや朗読をする方々も、想いは同じようで本や絵本が好きです。また読み聞かせする前の読みこみが大切だと思いました。



- ・本の気持ちをもう一度かみしめて読んでいきたいと思います。
- ・本を読みこんで、読み聞かせをしたいです。
- ・作者の思いを心において、読み聞かせを深めたいです。
- ・もう少しやさしいこころになりたいです。
- ・技法にこだわることなく、誰でも読み聞かせに取り組めるようにファジーに対応していきたいです。
- ・子ども達に本を手渡すときに、作家さんの想いも一緒に渡すことができればと思いました。
- ・先生の「きつねのお客様」の読み聞かせが、すばらしかったです。わたしもそんな読み聞かせをしてみたいと思いました。
- ・年間300冊から500冊読んで、自分も楽しんできたいと思いました。

(5) その他、交流会の感想

- ・もっと楽しんで自分らしくしようと思いました。
- ・各地で取り組みをされている方々の悩みが皆共通していると感じました。
- ・読み聞かせのことをよく知ることができました。
- ・来年度から読み聞かせをしたいと思っているので勉強になりました。
- ・わらべうたを学んで、それを読み聞かせに活かしていることを聞いて参考になりました。
- ・日頃考えていたことを話し、皆さんのお話を伺いこれからも頑張ろうと思いました。
- ・いろんな会があり、悩みもあるということがわかりました。新しいメンバーもきっとそういう思いがあろうかと思います。
- ・様々なボランティアの方々の話を聞きとても参考になりました。
- ・ざくばらんに話をする上で向上するという気がしました。
- ・小学校の読み聞かせではもう少し子ども達の反応を知りたいと思いました。
- ・子ども達の反応がないことについて、情報の共有が必要だと感じました。
- ・「よみきかせ」への情熱が伝わってきました。色々な意見が出て具体的な悩みの解決などが話されました。
- ・「本は食事と一緒に」「本は心の栄養になる」を心がけたいと思いました
- ・いろんなところで読み聞かせが出来ているのだなと驚きました。
- ・皆さんの経験豊かな活動の様子を聞くことができて参考になります。
- ・選書、読み方が等、いろいろ意見を聞いて良かったです。
- ・いろんな活動をしている方々と交流ができ、参考になりました。
- ・それぞれの人の生き方が分かりよかったです。
- ・ベテランのいろんな話が聞けて楽しかったです。
- ・色々な方とお話ができるで楽しかったです。
- ・他の方の情報交換が出来て良かったです。
- ・たくさんの活動をされている方とのふれあいに励まされた思います。
- ・おなじ読み聞かせの人達と交流で来てよかったです。
- ・形は違いますが、様々な方法があると思いました。
- ・とてもいろんな意見がありました。みなさん熱心に勉強をしています。
- ・色々な活動をしている方々とお話で来て参考になりました。
- ・たくさんの方が読み聞かせの取り組みをしておられることがわかってとても心強く思いました。
- ・いろいろな立場で活動している方々とお話ができる良かったです。
- ・いろいろな場所からこられているみなさん熱心で、勉強をしながら自分も高め、いい本との出会いを子どもたちにも伝えられたらと思います。
- ・皆さん熱心に活動されていて、無理なく自分も活動していきたいと思いました。

- ・交流会を持てるような、イベントがあればもっと良いと思いました。
- ・絵本、子ども達を愛する方々にたくさんふれられてよかったです。
- ・大変人が多く、みんな熱心なので驚きました。男の子には導入部分に歌や手遊びを入れるとよいことが分かりました。また女子はよく聞く、男子は興味のある本がいいと思いました。
- ・坂の市中学校の1、2年生に月2回、金曜日に（8時から8時20分）読み聞かせに絵本を読んでいるということを聞き、中学校にも必要だと思いました。
- ・若い人の活動の想いを聞き参考になりました。
- ・皆様のパワーに圧倒されました。
- ・読み聞かせの方々はアツかったです。
- ・みんなすごい人で、遠方から来られていて熱意を感じました。
- ・ネットワークや選書が大切だと感じました。
- ・全部参考になりました。

(6) 意見交流会の課題について

- ・時間が余りなかったです。各地域の活動の仕方が違うので、話が多方面にわたりすぎてまとまりがなかったです。
- ・他のグループと近すぎて、グループ内で声が聞きとれませんでした。
- ・会場がせまく、隣のテーブルの方の声が大きく聞こえて、逆にグループ内の話が聞こえませんでした。時間が少なかったので全体ファシリテーターは余り役に立たず、各テーブルでやることに任せた方がよかったです。
- ・1つのグループの人数が多く、かつ時間設定が1時間という短いものでしたので、十分話したり、聞いたりする事が難しかったです。
- ・もっと時間がほしかったです。
- ・時間が短かったです。まだ解決できていない点もいくつかありました。
- ・時間が足りなかったです。
- ・時間が短くてもったいないと思いました。
- ・もっと時間が欲しかったですが、短い中でもとても参考になりました。

今回の交流会で改めて感じさせていただいた様々なことがあります。

まず、「読み聞かせ」の活動に関わっている人たちの熱い思いに圧倒されました。その熱気の中、各グループ10人程の熱い思いをまとめることは大変なことと思われましたが、やはり、日々、限られた時間内で子どもたちに本を読んでいる参加者の皆さんのはげはげしさがさすがでした。どの班からも、読み聞かせボランティアの皆さん方が悩みをかかえながらも子どもたちに本を読んであげるということに喜びを持って活動していることがひしひしと伝わってきました。日々の多くの想いが一気に噴出されたような活気の満ちたこの会は、参加者同士がお互いに高め合うことができ、これか



らの活動のスキルアップにつながるような1時間になったのではないでしょか。

ほとんどの読み聞かせグループが、それぞれの組織の中で独自に活動をしている現状において、グループの横の繋がりの必要性を改めて強く感じました。

おわりに

大分大学高等教育開発センターで進める「教育の協働」は、こうした研修会や交流会等を通じて、夢を持って地域活動を続けられておられる様々な方々や機関、団体とのネットワークづくりを進めることを目指しています。今回の研修会においても50数名の方々から「情報が欲しい」「交流をした」という趣旨で連絡先も教えていただきました。子どもたちの学びの支援内容の1つとしての「読み聞かせ（本と子どもを繋ぐ）」ですが、1つのジャンルを進めることの重要性に加えて、キャンプやエコ教育、安全教育、国語教育等のジャンルとのネットワークを作りながら、子どもたちとの関わりを広げていくことへの応援団として、大分大学高等教育開発センターも微力ながら関わりたいと考えています。この報告が「小石を水面に投じると、静かな水面に『波紋』が広がるように、『協育』という波紋となって子どもたちのまわりに広がっていく」ネットワークづくりの一石になり得れば幸いです。

お宅訪問！－あまんきみこ氏の素顔－

今年の1月27日午後、私たちは講演会の「報告集」の作成と、刊行物への掲載をご了解していただきましたために、京都府長岡京のあまんきみこさんの自宅に伺いました。



「ねえ、ねえ～自慢していい？」。あまん氏のお気に入りは、陶器でできた親指の爪の長さほどの繊細で愛らしい男の子。ドイツ製のこのお人形もきっとご主人のお土産なのでしょう。写真のお人形ですが、大きさがわかりやすいように私が掌にのせての写真撮影となりました。ちなみに私の手は、上品で可憐とは言い難いですが、ガリバーの手程ではないので、ご想像ください。

私たちが通された部屋は、お人形と花でいっぱいでした。

「主人に「お土産は何がいい？」と聞かれたから「お人形がいい！」って答えたの。だって荷物にならないし・・・」と、はにかんだように微笑んで話してくださいました。日本各地のお人形と世界各地のお人形がそれぞれの棚に並べられ、幸せそうに肩を寄せ合っていました。ソファにもたくさんのぬいぐるみたちがいました。もしかするとこの子たちの誰かがお話の主人公になっているのかもしれません。

そこでお話し、応接間の風景などから、改めて、あまんさんの児童文学の世界を感じさせていただきました。さらに、厚かましいお願ひとは知りつつ、この「報告集」への添え書きをお願いしたところ、自分の童話作家の原点ともなる、「四行詩」のお話しをしていただき、後日、その「四行詩」を直筆で書いた「添え書き」を送っていただきました。

この「四行詩」への想いは、23年ほど前にエッセイとして、雑誌「日本児童文学」に書かせていただいているということで、添え書きの「四行詩」と共に送っていただきましたので、この「四行詩」へのあまんさんの想いに触れていただきたく、エッセイの一部を紹介します。

このエッセイは「ファンタジー作法」についての原稿を執筆する際の想いについて、あまんさんが「2Bの鉛筆を握った手がうごきだすのは、書きたいことが、『ありえないこと』ではなく『ほんと



うのこと』だと信じられた時からです。」と書かれています。その原点がこの四行詩にあるように理解しました。

「ほんとう」にこだわりながら＜雑誌「日本児童文学」より＞

* 概要

この四行詩（ウイリヤム・ブレイク作）にであったのは、終戦の日から二、三ヶ月たったころの女学校（現在の中学校）二年生の時でした。国語の担任の若い杉田先生が、教室の黒板に書かれたものでした。

一粒の砂に 世界を見

一輪の野の花に 天国を見る

掌（たなごころ）のうちに 無限を掴み

一瞬に 永遠を知る

「杉田先生の手の下から見えてくる文字を、目で追っていくうちに、この言葉の持つ力に打たれてふるえた。これが、物語、童話、小説ではなく、言葉そのものに感動してふるえた、私の初めての体験です。」と書かれています。

さらに後段で、「十年ほど間に、少女時代にもらった四行詩が、私が求めていたファンタジーを、言いあらわしていた。しかも、書くという行為の中で、こだわりつづけている『ほんとう』を言いあらわしていたことに気づき、薄暗い野原で、稻妻が光ったようだ。」という意味の文章を書かれています。そして、このことに関する最後の文章を紹介します。

—抜粋—

「ほんとう」には、事実と、真実があります。

「一粒の砂」は、事実で、「世界を見る」のは真実です。「一輪の野の花」は、事実で、「天国を見る」のは真実です。

「掌（たなごころ）のうちに」は、事実で、「無限を掴む」のは、真実です。そして、「一瞬」は、事実で、「永遠を知る」のは、真実でしょう。

このように考えていくと、「事実」と「真実」のあいだ、「真実」と「事実」のあいだには、限りない想像の世界があり、だからこそさまざまな想像の世界があるわけです。

そのことに気づいたとき私は、少女期にもどり、ファンタジーを書きつづけている喜びをあらためてもらったことを知りました。

—以下、略—

あまんきみこさんの「四行詩」をご堪能下さい。

一粒の砂に 世界を見る

一輪の野の花に 天国を見る

掌のうちに 無限を摑み

一瞬に 永遠を知る

ウイリアム・ブライア

あまくまみ

第2章 大分大学高等教育開発センターの取り組み

第1節 主催者として実施した事業のあゆみ

【事例1】 「『協育』アドバイザー養成講座」の取り組みの紹介

改正教育基本法や教育振興基本計画をふまえ家庭・学校・地域が一体となり、地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりを目的として「学校支援地域本部事業」が始まり6年が経過しました。その間、家庭、学校、地域社会の相互の連携協力を促し、それぞれの教育力を向上させるとともに、教育を協働して行う取り組みが急激に進んできました。大分県教育委員会は、それ以前の平成17年度から施策として取り組み始め、子どものために家庭・学校・地域が協働する「教育の協働（協育）」を推進してきました。

本講座は、こうした取り組みに対して民間の教育力を發揮し、「家庭、学校、地域社会の教育の協働」を推進するために、地域ぐるみでの学校や地域での子どもの健全育成や家庭教育への積極的な支援、福祉と教育の融合、及び大人社会の再構築を推進する中核的な人材の養成を行うことを目的として平成21年度から開講しました。受講者はこれまでに123名で、開講する「基礎編」「中級編」「上級編」の3



つの講座すべてを受講した方は25名になります。職業や地域活動を持ちながら日程を調整しての受講ですが、徐々にネットワークが広がっています。

さらに、受講者で組織する「NPO法人大分県『協育』アドバイザーネット」は、大分県教育委員会が進める、子どものために家庭・学校・地域が協働する「教育の協働（協育）」を、民間団体として推進する法人として平成22年に設立しました。会員は、日常的に地域活動をしている方が、大分大学高等教育開発センターが実施する「『協育』アドバイザー養成講座」を受講して、その趣旨を理解し、会員のネットワークを活用してそれぞれの活動を充実しようとするメンバーです。

法人としての活動は「高まろう（学ぶ）」「広めよう（事業）」「繋がろう（情報）」の3つの柱で、特に「広まろう」の活動をとおして、「協育」のためのコーディネートの大切さを探っている最中です。今年度の具体的な事業としては、文部科学省の2つの事業を受託して、別府市における「地域からの学校支援事業」や「温泉コンシェルジュの養成事業」を行っています。また、子どもゆめ基金の補助を受けて、県内の小・中・高・大学生で国東半島の中心、両子山周辺での2泊3日の宿泊自然体験事業を行いました。さらに、昨年度からの県事業（幼児エコ活動）の受託、法人としての指導者研修など、大分大学高等教育開発センターの支援を受けながら「協育」の推進を行っています。



NPO法人大分県「協育」アドバイザーネットの「襟章」

以下、これまでの研修プログラムを紹介します。

「『協育』アドバイザー養成講座」の実施について

〈平成21年度要綱センター決済〉

〈平成23年度改正センター決済〉

1. 趣旨

改正教育基本法や教育振興基本計画をふまえ家庭・学校・地域社会が一体となり、地域ぐるみで子どもを育てる体制づくりを目的として「学校支援地域本部事業」が始まった。これまでには、家庭、学校、地域社会がそれぞれの取り組みとして行うことにしており、もはや単独での取り組みは限界にきていると言わざるをえない状況であることから、家庭、学校、地域社会の相互の連携協力を促し、それぞれの教育力を向上させるとともに、教育を協働して行う必要性が明確になったと言える。これからの中等教育が、「青少年を育成する学校教育、社会教育、家庭教育の連携」、「家庭教育を支援するための福祉活動との連携」、「高齢者の生きがいを創出するための福祉活動の連携」等々、地域全体が連携協力して、縦割りの取り組みから、「横の接続」を促進する取り組みの重要性が認識されてきたと言える。

そこで、こうした取り組みに対して民間の教育力を發揮し、「家庭、学校、地域社会の教育の協働」を推進するために、地域ぐるみでの学校や地域での子どもの健全育成や家庭教育への積極的な支援、福祉と教育の融合、及び大人社会の再構築を推進する中核的な人材の養成を行うことを目的として開講する。

さらに、受講修了者のネットワークを組織化し、受講生の職場や地域での日常的な活動を支援するととともに、受講生の活動情報を収集・分析し、「協育」コーディネーター育成プログラムの開発や関係者へ提供することによって、本県における「家庭、学校、地域社会の教育の協働」システムの構築に寄与する。

2. 主催 大分大学高等教育開発センター

3. 協力 NPO法人大分県「協育」アドバイザーネット

4. 内容・時期

- ①（基礎編）協育アドバイザー基礎研修：11月頃実施
- ②（中級編）協育アドバイザー専門研修：基礎編修了者で希望する者を対象に3月頃実施
- ③（上級編）協育アドバイザー実践研修：基礎編・中級編修了者で希望する者を対象に次年度の9月頃実施

5. 対象者

学校や地域における各種コーディネーター

各種団体・グループ、NPO等の活動者

社会教育主事等社会教育関係職員及び指導主事等学校教育関係職員

その他、趣旨に賛同し、職場及び地域等において受講したことを活用できる者 等

6. 修了証

各コースの講座を受講した者には、コースごとに大分大学学長の修了証を授与する。

7. 経費

教材、先進地視察に係る交通費等の実費を徴収する。

8. 修了者のネットワーク化

修了者が、それぞれの職場や地域での日常的な活動を充実するための活動情報の収集・提供、それぞれの活動の情報交換、及び各種研修、モデル事業の実施、県内活動組織のネットワークの促進等を行うNPO法人「大分『協育』アドバイザーネット」を支援する。

平成 21 年度大分大学「『協育』アドバイザー養成講座」
第 1 期生「協育」アドバイザー基礎研修（基礎編＊後の中級編）実施要項

1. 趣旨

家庭・学校・地域社会が一体となり、地域ぐるみで子どもを育てる「家庭、学校、地域社会の育の協働」を推進し、学校や地域における子どもの健全育成や、家庭教育への積極的な支援を行う体制の整備のため、その中核的な人材の養成を行うための基礎的な研修を実施する。

さらに、受講修了者のネットワークを組織し、受講生の職場や地域での日常的な活動を支援する。

2. 主催 大分大学高等教育開発センター

3. 期日 平成 22 年 3 月 6 日（土）・7 日（日）

4. 会場 大分大学 教室

5. 対象者 学校支援本部事業に係るコーディネーター

各種団体・グループ、NPO 等の活動者

社会教育主事等社会教育関係職員

指導主事等学校教育関係職員

その他、趣旨に賛同し、職場及び地域等において受講したことを活用できる者 等

6. 修了証 講座の全日程を受講したものには、大分大学長の修了証を授与する。

7. 講座の内容

- ①家庭教育の現状・課題と協働（家庭教育への支援と家庭からの協働）方策に関すること
- ②学校教育の現状・課題と協働（学校教育への支援と学校からの協働）方策に関すること
- ③地域社会の現状・課題と協働（地域社会への支援と地域社会からの協働）方策に関すること
- ④教育の協働システムの構築とアドバイザーの役割に関すること

時間	内 容
9:00	開講式（挨拶・日程説明）
9:10	講座の概要説明 大分大学高等教育開発センター教授 中川忠宣
一日目	9:30～ 講義 1 家庭教育の現状・課題と教育の協働方策 12:00 講師 大分大学教育福祉科学部教授 山岸治男
	13:00～ 講義 2 学校教育の現状・課題と教育の協働方策 15:50 講師 大分大学教育福祉科学部教授 山崎清男
	16:00 協議1 大分県「協育」アドバイザーネットの組織化について ～16:30 司会 大分大学高等教育開発センター教授 中川忠宣
	9:00～ 講義 3 地域社会の現状・課題と教育の協働方策 12:00 講師 大分大学高等教育開発センター准教授 岡田正彦
	13:00～ 講義 4 教育の協働システムの構築とアドバイザーの役割 15:50 講師 大分大学高等教育開発センター教授 中川忠宣
	16:00 協議 2 「協育」アドバイザーとしての役割を果たすために ～16:30 司会 大分大学高等教育開発センター教授 中川忠宣
	16:30 閉講式（修了証授与・挨拶）

平成 22 年度大分大学高等教育開発センター「『協育』アドバイザー養成講座」【上級編】
第 1 期生「協育」アドバイザー実践研修実施要項

1. 目的

本研修は『協育』アドバイザー養成講座の基礎編（中級編）を修了し、「大分県『協育』アドバイザーネットに登録した者を対象に、県内外での「教育の協働」を推進・実践する先進地を視察し、地域づくりや青少年の健全育成に関する中心的指導者・コーディネーターとしての資質を向上させ、以て、「教育の協働」の推進に関するアドバイスの力量を高めることを目的とする。

2. 主催 大分大学高等教育開発センター

(協力：大分県「協育」アドバイザーネット)

3. 期日 平成 22 年 9 月 28 日 (火) 7 : 30 大分大学発～

29 日 (水) 17 : 00 大分大学着 (1 泊 2 日・北九州泊)

4. 観察先

平成 22 年 9 月 28 日 (火) 11 : 00 ~ 14 : 30

①福岡県飯塚市立高田小学校

飯塚市内の全ての小学校で実施されている「学校開放事業『マナビ塾』」の視察・交流及び
『マナビ塾』の取り組みに関する研修

平成 22 年 9 月 29 日 (水) 10 : 00 ~ 12 : 00

②北九州市若松区「若松みらいネット」の取り組みに関する研修及び活動グループとの意見交換

5. 参加対象

○大分県「協育」アドバイザーネットメンバー 18 名

○事務局：大分大学高等教育開発センター

6. 参加費 13,000 円程度 (宿泊費・1 日目昼食 (給食) ・その他雑費)

7. 修了証 講座の全日程を受講し「研修レポート」を提出した者に大分大学長の修了証を授与する。

8. 申し込み (問合せ) 方法

①別紙「申し込み書」に必要事項を記入する。

②受付：平成 22 年 9 月 6 日 (月) ~ 9 月 15 日 (水)

※郵送・ファックス・メール可

③申し込み先：大分市旦野原 700 番地 大分大学教育支援課 (公開講座担当)

④電話：097-554-8522 FAX：097-554-7445

⑤E メール：kyokikss@oita-u.ac.jp

9. その他

○本研修終了後に、「研修レポート」を提出する

平成 22 年度大分大学高等教育開発センター「『協育』アドバイザー養成講座」【基礎編】

第 2 期生「協育」アドバイザー基礎研修（キャリア教育コーディネーター研修）実施要項

1. 趣旨

子どもは人間社会（地域社会）で教育され、「子ども自身が生き方を学ぶ」（キャリア教育）ための様々な教育活動や生きた体験が求められている。そのために家庭・学校・地域社会が一体となり、地域ぐるみで子どもを育てる「家庭、学校、地域社会の教育の協働」を推進し、学校や地域における子どもの生きた教育活動支援が重要となっている。

よって、別添「『協育』アドバイザー養成講座」の実施についてにより、教育の協働を推進する中核的な人材を養成するための基礎的な研修を実施する。

2. 主催 大分大学高等教育開発センター

3. 日時 平成 22 年 11 月 13 日（土）9：00 開講～16：30 閉講

4. 会場 大分大学 教養教育棟（学生センター）

5. 対象者 学校支援や地域活動支援、家庭教育支援等に関わるコーディネーター

各種団体・グループ、NPO 等の活動者

社会教育関係、学校教育関係者

その他、趣旨に賛同し、職場及び地域等において受講したことを活用できる者 等

6. 申し込み（問合せ）方法

①受付：平成 22 年 9 月 21 日（火）～10 月 27 日（水）※郵送・ファックス・メール可

②申し込み先：大分市旦野原 700 番地 大分大学教育支援課（公開講座担当）

③電話：097-554-8522 FAX：097-554-7445

④E メール：kyokikss@ad.oita-u.ac.jp

7. 修了証 講座の全日程を受講したものには、大分大学長の修了証を授与する。

8. 講師 特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク（東京都杉並区）

生重幸恵（統括マネージャー） 井上尚子（統括サブマネージャー）

京都高度技術研究所

石川 陽（ネットワークマネージャー）

8. 講座の内容

研修 1：キャリア教育（子どもの生き方の学び）についての基礎知識

1. 我が国の社会・産業の現状と課題

2. 「キャリア教育」「キャリア教育支援」「キャリア教育コーディネーター」の意味

3. 本研修が目指す方向としての我が国のキャリア教育の現状と課題

研修 2：地域におけるキャリア教育（子どもの生き方の学び）及び支援の実践

1. キャリア教育に関わる全国的な取り組み状況

2. キャリア教育と学校教育・社会教育

研修 3：キャリア教育コーディネーターの機能と役割

1. コーディネーターの機能

2. キャリア教育コーディネーターの役割

研修 4：学校と地域・企業等とのネットワーク構築方法（地域資源の理解とネットワークの構築）

1. コーディネーターの業務

2. 地域における人的ネットワーク構築の必要性

3. コーディネーターのネットワーク化

平成 22 年度大分大学高等教育開発センター「『協育』アドバイザー養成講座」【中級編】
第 2 期生「協育」アドバイザー専門研修実施要項

1. 趣旨

家庭・学校・地域社会が一体となり、地域ぐるみで子どもを育てる「家庭、学校、地域社会の教育の協働」を推進し、学校や地域における子どもの健全育成や、家庭教育への積極的な支援を行う体制の整備のため、その中核的な人材の養成を行うための専門的な研修を実施する。その際、コーディネート能力の養成とともに、キャリア教育や体験活動に関するプログラム企画力を養成し、提案し、実践するためのスキルの向上を図ることを目的とする。

さらに、受講修了者のネットワークを拡大し、受講生の職場や地域での日常的な活動を支援する。

2. 主催 大分大学高等教育開発センター

協力：大分県「協育」アドバイザーネット

3. 期日 平成 23 年 3 月 19 日（土）・20 日（日）

4. 会場 大分大学 教養教育棟 2 F 25 教室

5. 対象者 次の条件を満たし、2 日間とも受講できる方

①『協育』アドバイザー養成講座【基礎編】を受講した方

②基礎編の受講は出来なかつたが、今後、基礎編及び上級編を受講予定の方

学校支援地域本部事業や放課後子ども教室、家庭教育支援等に係るコーディネーター

各種団体・グループ、N P O 等の活動者

社会教育主事等社会教育関係職員

指導主事等学校教育関係職員

その他、趣旨に賛同し、職場及び地域等において受講したことを活用できる者 等

6. 申し込み（問合せ）方法

①受付：平成 23 年 3 月 4 日（金）※郵送・ファックス・メール可

②申し込み先：大分市旦野原 700 番地 大分大学教育支援課（公開講座担当）

③電話：097-554-8522 / FAX：097-554-7445

④E メール：kyokikss@ad.oita-u.ac.jp

7. 修了証 講座の全日程を受講したものには、大分大学長の修了証を授与する。

8. 講座の内容

	時間	内 容
一 日 目	9:00～ 9:20 ～11:20	開講式（挨拶・説明） 講義 1 家庭教育の現状・課題と教育の協働の視点 講師 大分大学教育福祉科学部教授 山岸治男
	11:30 ～ 14:20	講義 2 地域社会の現状・課題と教育の協働の視点 講師 大分大学高等教育開発センター准教授 岡田正彦
	14:30 ～16:30	講義 3 学校教育の現状・課題と教育の協働の視点 講師 大分大学教育福祉科学部教授 山崎清男 ※事例発表 佐伯市立蒲江小学校教諭 伊東俊昭
二 日 目	9:00 ～ 14:00	講義 4 子どものための「協育」を推進するコーディネーターの実際 ～全国のキャリア教育コーディネーターの活動事例を含めて～ 講師 特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク理事長 生重幸恵氏 講義 5 身近なエリアの人を巻き込んで企画する「子どものためのプログラム」作成 (演習) 講師 特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク理事長 生重幸恵氏 特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク 井上尚子氏
	14:10 ～16:10	講義 6 「協育」アドバイザーとしての基礎的スキルの学び (演習) 講師 大分大学高等教育開発センター教授 中川忠宣
	16:20～	閉講式（修了証授与・アンケート等）

平成 23 年度大分大学高等教育海発センター『協育』アドバイザー養成講座【上級編】
第 2 期生「協育」アドバイザー実践研修実施要項

1. 目的

本研修は『協育』アドバイザー養成講座の基礎編・中級編を修了し、「大分県『協育』アドバイザーネット」に登録した者等を対象に、県内外での「教育の協働」を推進・実践する先進地を視察し、地域づくりや青少年の健全育成に関する中心的指導者・コーディネーターとしての資質を向上させ、以て、「教育の協働」の推進に関するアドバイスの力量を高めることを目的とする。

2. 主催 大分大学高等教育開発センター

(協力: 大分県「協育」アドバイザーネット)

3. 期日 平成 23 年 9 月 27 日(火) 9:00 大分大学発～(1泊 2 日・山口県山口市泊)
28 日(水) 16:00 大分大学着

4. 視察先

平成 23 年 9 月 27 日(火) 13:00～16:00

①財団法人山口県ひとづくり財団 県民学習部「生涯学習推進センター」秋本 修センター長
山口県山口市秋穂二島 1061 (山口県セミナーパーク内)

TEL 083-987-1730

○山口県民の学びを支援すると共に、「人づくり・地域づくりフォーラム」を開催し地域活動リーダーの育成を行うなど、県民の生涯学習・社会教育活動の推進状況について学びます。

平成 23 年 9 月 28 日(水) 9:30～12:00

②山口市鋳銭小学校 赤田博夫 校長
山口県山口市大字鋳銭司 4010

TEL 083-986-2609

○平成 21 年度から先導的に取り組み始めた、地域住民が学校教育にどうか関わり、支援していくかというコミュニティースクールの取り組みについて学びます。

5. 参加対象

○大分県「協育」アドバイザーネットメンバー
○事務局: 大分大学高等教育開発センター

6. 参加費 13,000 円程度(宿泊費、夕食代・朝食代、その他雑費)

※交通手段(貸し切りバス)は大学で準備します。

7. 修了証 講座の全日程を受講し「研修レポート」を提出した者に大分大学長の修了証を授与する。

8. その他

○本研修終了後に、「研修レポート」を提出する

平成 23 年度大分大学高等教育開発センター「『協育』アドバイザー養成講座」【基礎編】
第 3 期生「協育」アドバイザー基礎研修実施要項

1. 趣旨

子どもは人間社会（地域社会）で教育され、「子ども自身が生き方を学ぶ」ための様々な教育活動や生きた体験が求められている。そのために家庭・学校・地域社会が一体となり、地域ぐるみで子どもを育てる「家庭、学校、地域社会の教育の協働」を推進し、学校や地域における子どもの生きた教育活動支援が重要となっている。

よって、別添「『協育』アドバイザー養成講座」の実施についてにより、教育の協働を推進する中核的な人材を養成するための基礎的な研修を実施する。

2. 主催 大分大学高等教育開発センター

3. 連携校 別府大学

4. 日時 平成 23 年 11 月 19 日（土）9：00 開講～16：30 閉講

5. 会場 大分大学会場（別府市を除く方を対象）及び 別府大学会場（別府市の方を対象）

6. 対象者 学校支援や地域活動支援、家庭教育支援等に関わるコーディネーター

各種団体・グループ、NPO 等の活動者、社会教育関係、学校教育関係者

その他、趣旨に賛同し、職場及び地域等において受講したことを活用できる者 等

7. 申し込み（問合せ）方法

①受付：平成 23 年 9 月 5 日（月）～11 月上旬まで延期※郵送・ファックス・メール可

②申し込み先：大分市旦野原 700 番地 大分大学教育支援課（公開講座担当）

③電話：097-554-7641 / 8522 FAX：097-554-7445

④E メール：kyokikss@oita-u.ac.jp

8. 修了証 講座の全日程を受講したものには大分大学学長の修了証を授与する。

9-①大分大学会場の講座の内容

研修 1：子どもの「生き方」の学びを支える地域の教育資源と大人の役割

特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク（統括マネージャー）生重幸恵氏

研修 2：地域の教育資源としての企業の役割

高橋水産（株）（佐伯市）社長 高橋 治人 氏

研修 3：企業としての幼稚園、教育機関としての幼稚園＝地域の子どもを育てるために＝

学校法人渕野学園 富士見が丘幼稚園 理事長 渕野 二三世 氏

研修 4：企業のCSR活動（企業の社会的責任）＝学校教育の職場体験活動の支援の取り組み＝

（株）翼 社長 麻生 雅憲 氏

9-②別府大学会場の講座の内容（予定）

午前 ①「教育の協働」の推進に関する講演（別府大学教授）を予定しています。

②別府市における教育の協働の取り組みについてのディスカッションを予定しています。

午後 ③子どもの「生き方」の学びを支える地域の教育資源と大人の役割

特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク（統括マネージャー）生重幸恵氏

④教育の協働に関する、大分県の取り組みなどの報告を予定しています

10. その他

本講座は、「とよのまなびコンソーシアムおおいた連携講座」として、大分大学高等教育開発センターが別府大学と連携して実施しますので、次の点に留意ください。

② 務手続きは上記 6 のとおり、大分大学教育支援課（公開講座担当）が一括して行います。

②本基礎講座については、別府市の方は別府大学会場で受講していただきます。

大分大学高等教育開発センター「『協育』アドバイザー養成講座」【中級編】
第3期生「協育」アドバイザー専門研修実施要項

1. 趣旨

家庭・学校・地域社会が一体となり、地域ぐるみで子どもを育てる「家庭、学校、地域社会の教育の協働」を推進し、学校や地域における子どもの健全育成や、家庭教育への積極的な支援を行う体制の整備のため、その中核的な人材の養成を行うための専門的な研修を実施する。その際、コーディネート能力の養成とともに、キャリア教育や体験活動に関するプログラム企画力を養成し、提案し、実践するためのスキルの向上を図ることを目的とする。

さらに、受講修了者のネットワークを拡大し、受講生の職場や地域での日常的な活動を支援する。

2. 主催 大分大学高等教育開発センター

協力：NPO法人大分県「協育」アドバイザーネット

3. 期日 平成24年3月17日（土）・18日（日）

4. 会場 大分大学 教養教育棟2F 27教室

5. 対象者 次の条件を満たし、2日間とも受講できる方

①『協育』アドバイザー養成講座【基礎編】を受講した方

②基礎編の受講は出来なかったが、今後、基礎編及び上級編を受講予定の方

学校支援地域本部事業や放課後子ども教室、家庭教育支援等に係るコーディネーター
各種団体・グループ、NPO、企業等の地域活動者

社会教育主事等社会教育関係職員及び指導主事等学校教育関係職員

その他、趣旨に賛同し、職場及び地域等において受講したことを活用できる者 等

6. 申し込み（問合せ）方法

①受付：平成24年3月8日（木）※郵送・ファックス・メール可

②申し込み先：大分市旦野原700番地 大分大学教育支援課（公開講座担当）

③電話：097-554-8522/FAX：097-554-7445

④Eメール：kyokikss@ad.oita-u.ac.jp

7. 修了証 講座の全日程を受講したものには、大分大学長の修了証を授与する。

8. 講座の内容

	時間	内 容
一 日 目	9:00～ 9:20 ～11:20	開講式（挨拶・説明） 講義1 家庭教育の現状・課題と教育の協働の視点 (予定) 講師 大分大学教育福祉科学部教授 山岸治男
	11:30 ～ 14:20	講義2 地域社会の現状・課題と教育の協働の視点 講師 大分大学高等教育開発センター准教授 岡田正彦
	14:30 ～16:30	講義3 学校教育の現状・課題と教育の協働の視点 講師 大分大学教育福祉科学部教授 山崎清男 ※事例発表 佐伯市立蒲江小学校教諭 伊東俊昭
二 日 目	9:00 ～ 14:00	講義4 子どものための「協育」を推進するコーディネーターの実際 ～全国のキャリア教育コーディネーターの活動事例を含めて～ 講師 特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク理事長 生重幸恵氏 講義5 身近なエリアの人を巻き込んで企画する「子どものためのプログラム」作成 (演習) 講師 特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク理事長 生重幸恵氏 特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク 井上尚子氏
	14:10 ～16:10	講義6 教育資源のネットワーク化のための「協育」アドバイザーとしての役割 (演習) 講師 大分大学高等教育開発センター教授 中川忠宣
	16:20～	閉講式（修了証授与・アンケート等）

※第1日目の講座修了の後に、自由参加の活動情報交換会を実施します。

平成 24 年度大分大学高等教育開発センター「『協育』アドバイザー養成講座」【上級編】
第 3 期生「協育」アドバイザー実践研修実施要項

1. 目的

本研修は『協育』アドバイザー養成講座の基礎編・中級編を修了し、「大分県『協育』アドバイザーネット」に登録した者等を対象に、県内外での「教育の協働」を推進・実践する先進地を視察し、地域づくりや青少年の健全育成に関する中心的指導者・コーディネーターとしての資質を向上させ、以て、「教育の協働」の推進に関するアドバイスの力量を高めることを目的とする。

よって、「『協育』アドバイザー養成講座の実施について」により、教育の協働を推進する中核的人材を養成するための実践的な研修を実施する。

2. 主催 大分大学高等教育開発センター

(協力：NPO法人 大分県「協育」アドバイザーネット)

3. 期日 平成 24 年 9 月 25 日（火） 9：00 大分大学発～（1泊 2 日・佐賀市内泊）
26 日（水） 17：00 大分大学着

4. 視察先 佐賀県佐賀市

①佐賀市立嘉瀬公民館 館長 城野眞澄（じょうのますみ）

〒840-0862 佐賀市嘉瀬町大字扇町2624-21 TEL・FAX 0952-26-5208

◎地域の現代的課題に自主的に取り組む住民参加型まちづくり講座（子どもたちを真ん中に置いた 町づくり）など、「快適で住みよい町」「活気のある町」にするための公民館活動の視察と交流

②佐賀市立嘉瀬小学校 学校長 大久保美奈子（おおくぼみなこ）

〒840-0863 佐賀県佐賀市嘉瀬町大字十五12-1 TEL 0952-23-6400

◎嘉瀬小学校ボランティアネットワーク（KSVN）の嘉瀬小学校教育活動への支援活動の視察と交流

※KSVN 会長 今泉正喜（いまいはずみまさき）

5. 参加対象

①「協育」アドバイザー養成講座受講 3 期生（2 期生も含む）

②NPO 法人 大分県「協育」アドバイザーネット会員

6. 申し込み（問合せ）方法

①別紙「申し込み書」に必要事項を記入する。

②受付：平成 24 年 8 月 9 日（木）～8 月 31 日（金）

※郵送・ファックス・メール可

③申し込み先：大分市旦野原 700 番地 大分大学教育支援課（公開講座担当）

④電話：097-554-8522 FAX：097-554-7445

⑤E メール：kyokikss@oita-u.ac.jp

7. 参加費 13,000 円程度（宿泊費、夕食代（懇親会含む）・朝食代、その他雑費）

※交通手段（貸し切りバス）は大学で準備します。

8. 修了証 全日程を受講し「研修レポート」を提出した者に大分大学長の修了証を授与する。

9. その他

○本研修終了後に、「研修レポート」を提出する

平成 24 年度大分大学高等教育開発センター「『協育』アドバイザー養成講座」【基礎編】
第 4 期生「協育」アドバイザー基礎研修実施要項

1. 趣旨

子どもは人間社会（地域社会）で教育され、「子ども自身が生き方を学ぶ」ための様々な教育活動や生きた体験が求められている。そのために家庭・学校・地域社会が一体となり、地域ぐるみで子どもを育てる「家庭、学校、地域社会の教育の協働」を推進し、学校や地域における子どもの生きた教育活動支援が重要となっている。

よって、「『協育』アドバイザー養成講座の実施について」により、教育の協働を推進する中核的な人材を養成するための基礎的な研修を実施する。

2. 主催 大分大学高等教育開発センター

3. 連携校 別府大学

4. 日時 平成 24 年 11 月 23 日（金）9：00 開講～16：30 閉講

5. 会場 大分県立社会教育総合センター
〒874-0903 別府市野口原 3030-1（大分県ニューライフプラザ内）

6. 対象者 学校支援や地域活動支援、家庭教育支援等に関わるコーディネーター
各種団体・グループ、NPO 等の活動者、社会教育関係、学校教育関係者
その他、趣旨に賛同し、職場及び地域等において受講したことを活用できる者 等
※推薦者が必要ですので了解願います。

7. 申し込み（問合せ）方法

- ①受付：平成 24 年 9 月 3 日（月）～10 月 31 日※郵送・ファックス・メール可
- ②申し込み先：大分市旦野原 700 番地 大分大学教育支援課（公開講座担当）
- ③電話：097-554-7641 / 8522 FAX：097-554-7445
- ④E メール：kyokikss@oita-u.ac.jp

8. 修了証 講座の全日程を受講したものには大分大学学長の修了証を授与する。

9. 講座の内容

研修 1 : 9:00～9:40 「『協育』アドバイザー養成講座」について
大分大学高等教育開発センター 教授 中川忠宣

研修 2 : 9:45～11:05 講義①東京都杉並区立杉並第一小学校学校支援本部の取り組み
～学校支援地域本部の取り組みと、学校運営協議会・PTA・放課後子ども教室等との連携～
杉並区立杉並第一小学校学校支援本部長 伴野博美氏

研修 3 : 11:15～12:30 講義②子どもの学びを支えるコーディネーターに求められる役割について
特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク（統括マネージャー）生重幸恵氏

研修 4 : 13:30～16:00 「ワールドカフェ」の集い～「協育」見本市～
趣旨：子どもの様々な体験、文化の伝承、生きたキャリア教育、多くの人の交流等は単独機関・団体だけでは担いきません。ましてや、地域にはどんな教育資源があり、教育現場が何を求めているのかなど、基本的な事項の共通認識が無ければ一步前へ進めません。
そこで、供給する教育資源が需要者に対して自らの活動を提示して、提供内容やサービスなどをパンフや実物で紹介、あるいはデモンストレーションをして、子どもを育てるプログラムを広げる機会を体験します。

方法：ワールドカフェでは、参加者（教員や NPO、地域指導者等）数名が同じテーブルについて、ニーズとシーズを語り合う中で様々なプログラムのイメージを広げていくもので、数クールする中でプログラムの広がりと、人のつながりの広がりを作っています。

10. その他

受講申し込みは全て受け付けて、11月初旬に詳細な案内を送ります。

平成24年度大分大学高等教育開発センター「『協育』アドバイザーネットワーク養成講座」【中級編】
第4期生「協育アドバイザーネットワーク養成講座」実施要項

1. 趣旨

家庭・学校・地域社会が一体となり、地域ぐるみで子どもを育てる「家庭、学校、地域社会の教育の協働」を推進し、学校や地域における子どもの健全育成や、家庭教育への積極的な支援を行う体制の整備のため、その中核的な人材の養成を行うための専門的な研修を実施する。その際、コーディネート能力の養成とともに、キャリア教育や体験活動に関するプログラム企画力を養成し、提案し、実践するためのスキルの向上を図ることを目的とする。

さらに、受講修了者のネットワークを拡大し、受講生の職場や地域での日常的な活動を支援する。

2. 主催 大分大学高等教育開発センター

協力：NPO法人大分県「協育」アドバイザーネット

3. 期日 平成25年3月16日（土）・17日（日）

4. 会場 大分大学 教養教育棟2F 27教室

5. 対象者 次の①又は②条件で、2日間とも受講できる方

①『協育』アドバイザーネットワーク養成講座【基礎編】を受講した方

②基礎編の受講は出来なかったが、今後、基礎編及び上級編を受講予定の方

学校支援地域本部事業や放課後子ども教室、家庭教育支援等に係るコーディネーター

各種団体・グループ、NPO、企業等の地域活動者

社会教育主事等社会教育関係職員及び指導主事等学校教育関係職員

その他、趣旨に賛同し、職場及び地域等において受講したことを活用できる者 等

6. 申し込み（問合せ）方法

①受付：平成25年3月1日（金）※郵送・ファックス・メール可

②申し込み先：大分市旦野原700番地 大分大学教育支援課（公開講座担当）

③電話：097-554-8522／FAX：097-554-7445

④Eメール：kyokikss@ad.oita-u.ac.jp

7. 修了証 講座の全日程を受講したものには、大分大学長の修了証を授与する。

8. 講座の内容

時間	内 容
一 日 目 9:00～ 9:20 ～11:00	開講式（挨拶・説明） 講義1 家庭教育の現状・課題と教育の協働の視点 講師 大分大学教育福祉科学部教授 山岸治男
11:15 ～ 14:00	講義2 地域社会の現状・課題と教育の協働の視点 講師 大分大学高等教育開発センター准教授 岡田正彦
14:15 ～16:15	講義3 学校教育の現状・課題と教育の協働の視点 講師 大分大学教育福祉科学部教授 山崎清男 ※実践報告 「コミュニティースクールの取り組みから目指す教育活動」 玖珠町立玖珠中学校長 梶原敏明
二 日 目 9:00 ～10:15	講義4 子どものための「協育」を推進するコーディネーターの実際 ～全国のキャリア教育コーディネーターの活動事例を含めて～ 講師 特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク理事長 生重幸恵氏
10:30 ～15:00	講義5 地域の人の支援を広げて企画する「子どものためのプログラム」作成 (演習) 講師 杉並区立杉並第一小学校学校支援本部長 伴野博美氏 特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク理事長 生重幸恵氏
15:15 ～16:10	講義6 教育資源のネットワーク化のための「プラットホーム」の役割 講師 大分大学高等教育開発センター教授 中川忠宣
16:20～	閉講式（修了証授与・アンケート等）

※第1日目の講座修了の後に、自由参加の活動情報交換会を実施します。

中央講師紹介資料

講義4 子どものための「協育」を推進するコーディネーターの実際
～全国のキャリア教育コーディネーターの活動事例を含めて～
講師 特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク理事長 生重幸恵氏

P T A会長時代から学校を支援する活動を積極的に行ない、区内の他校P T A会長経験者と共に平成14年7月にスクール・アドバイス・ネットワークを設立し、杉並区教育委員会との協働や東京都内各区の教育委員会とも連携したり、さらには全国各地での「学校支援」「地域活性化」のプロジェクトに参画したりして、活動の範囲を広げています。一方、企業の地域教育貢献の必要性とその方法などについてアドバイスし、企業の持っているノウハウを学校授業に繋げるためのプログラム作成なども手がけています。平成22年2月から文部科学省第6期中央教育審議会中央委員として活躍しています。

「子ども達の成長に町ぐるみで関わることで、大人もパワーをもらいましょう。大人も子どもも、自分達の住む町に愛着が持てる・誇りが持てる学校教育支援活動で異世代の交流・自慢の町おこしが生まれます。」と、熱く語ってくれます。

役職 文部科学省 中央教育審議会 中央委員
特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク 統括マネージャー
社団法人キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会 理事長
その他の各種役職を担うと共に、全国各地の講演会や研修で活躍中

講義5 地域の人の支援を広げて企画する「子どものためのプログラム」作成
(演習) 講師 杉並区立杉並第一小学校学校支援本部長 伴野博美氏

平成14年から杉並区学校教育コーディネーターとして活動をはじめ、東京都杉並区で最初の地域子ども教室「すぎっ子クラブ」を立ち上げ、平成16年から拠点リーダーとして子どもの居場所づくりに関わってきました。平成19年度からは杉並第一小学校の学校支援地域本部長として学校と地域の連携・協働活動のプログラムを開催しています。最近では「学校のすき間支援」として地域の方の参画による「朝先生プログラム」(HP : <https://www.kyouiku-portal.net> (協育関連ビデオに掲載))は多方面からの高い関心と評価を受けるとともに、コミュニティースクールとの連携も積極的に進めています。

役職 文部科学省 社会教育アドバイザー
杉並区立杉並第一小学校学校支援本部長
杉並区立杉並第一小学校学校運営協議会委員
その他、東京都の学校支援コーディネーター企画委員等、実践的な活動を推進中

平成 25 年度大分大学高等教育開発センター「『協育』アドバイザー養成講座」【上級編】
第 4 期生「協育」アドバイザー実践研修実施要項

1. 目的

本研修は『協育』アドバイザー養成講座の基礎編・中級編を修了し、「大分県『協育』アドバイザーネット」に登録した者等を対象に、県内外での「教育の協働」を推進・実践する先進地を視察し、地域づくりや青少年の健全育成に関する中心的指導者・コーディネーターとしての資質を向上させ、以て、「教育の協働」の推進に関するアドバイスの力量を高めることを目的とする。

2. 主催 大分大学高等教育開発センター
(協力: NPO法人大分県「協育」アドバイザーネット)

3. 期日 平成 25 年 9 月 20 日(金) 9:00 大分大学発~(1泊2日)
21 日(土) 17:00 大分大学着(予定)

4. 視察先

平成 25 年 9 月 20 日(金) 13:00~16:00

① 熊本県益城町立益城中央小学校

〒861-2244 熊本県上益城郡益城町寺迫 1142 番地 tel : 096-286-2031

○益城町は、学校支援地域本部事業においてコーディネーターを中心とした学校支援システムが充実しており、平成 24 年度の文部科学大臣表彰を受賞しました。その中心的な学校の取り組みとコーディネーターの活動などについて学びます。

平成 25 年 9 月 21 日(土) 10:00~14:00

② 福岡県久留米市の子育てグループ「パパラネットくるめ」等の方々との交流

○久留米市は子育てサークルの活動が進んでおり、その中の「父親の子育て参画」の推進を行っているサークルメンバーを中心に、様々な活動を行っている方々との交流を行います。

5. 参加対象者

①平成 21 年度受講生(1期生)~平成 24 年度受講生(4期生)で、上級編の未受講者

②上級講座の受講修了者で、NPO 法人「大分県『協育』アドバイザーネット」等で活動しつつ、再度の参加・交流を希望される方

※事務局: 大分大学高等教育開発センター

6. 参加費 13,000 円程度(宿泊・朝食代、懇親会費、その他雑費)

※交通手段(貸し切りバス)は大学で準備します。

7. 修了証 講座の全日程を受講し「研修レポート」を提出した者に大分大学長の修了証を授与する。

8. その他

○本研修終了後に、「研修レポート」を提出する。

平成 25 年度大分大学高等教育開発センター「『協育』アドバイザー養成講座」【基礎編】
第 5 期生「協育」アドバイザー基礎研修実施要項

1. 趣旨

子どもは人間社会（地域社会）で教育され、「子ども自身が生き方を学ぶ」ための様々な教育活動や生きた体験が求められている。そのために家庭・学校・地域社会が一体となり、地域ぐるみで子どもを育てる「家庭、学校、地域社会の教育の協働」を推進し、学校や地域における子どもの生きた教育活動支援が重要となっている。

よって、「『協育』アドバイザー養成講座の実施について」により、教育の協働を推進する中核的な人材を養成するための基礎的な研修を実施する。なお、今回の特色として「本を通じたネットワーク化」をテーマに教育の協働を考えてみるとする。

2. 主催 大分大学高等教育開発センター

3. 協力 NPO法人大分県「協育」アドバイザーネット

4. 日時 平成 25 年 10 月 30 日（水）9：00 開講～16：30 閉講

5. 会場 〒870-1192 大分市大字旦野原 700 番地
大分大学旦野原キャンパス教養教育棟

6. 対象者 学校支援や地域活動支援、家庭教育支援等に関わるコーディネーター
各種団体・グループ、NPO 等の活動者、社会教育関係、学校教育関係者
その他、趣旨に賛同し、職場及び地域等において受講したことを活用できる者 等
※推薦者が必要ですので了解願います。

7. 申し込み（問合せ）方法

- ①受付：平成 25 年 9 月 9 日（月）～10 月 18 日（金）※郵送・ファックス・メール可
- ②申し込み先：大分市旦野原 700 番地 大分大学教育支援課（公開講座担当）
- ③電話：097-554-7641 / 8522 FAX：097-554-7445
- ④E メール：kyokikss@oita-u.ac.jp

8. 講座の内容

研修 1 : 9:00～9:40 「『協育』アドバイザー養成講座」について
大分大学高等教育開発センター 教授 中川忠宣

研修 2 : 「子どもと本を結ぶあなたへ」の講演会へ参加(チラシ又は大分県「協育」ポータルHP参照)
研修 2-1 : 10:00～11:20 インタビューダイアローグ

子どもと本を結ぶあなたへ「あまんきみこ氏」

「童話作家の想い～一冊の本ができるまで～」

講師：あまんきみこさん（児童文学作家）

インタビュアー：千竈八重子さん（鬼が島文庫主宰・紙芝居文化の会おおいた 代表）

研修 2-1 : 11:30～12:30 読書活動のネットワークづくりのための交流会

※読み聞かせなどのボランティアの方々にも、作家の生の声（「想い」）を基にして悩み語りあいながら、みなさんの横の繋がりを作るお手伝いをさせていただきます。

担当：NPO法人大分県「協育」アドバイザーネット 佐藤真由美

研修 3 : 13:30～15:20 教育の協働の必要性と大分県・全国の状況

※教育の協働に関する大分県及び全国調査から、その意義や推進方策等についての研修
講師：大分大学高等教育開発センター 中川忠宣

研修 4 : 15:30～16:10 NPO法人大分県「協育」アドバイザーネットの活動について

※教育の協働を支援・推進することを目的にして活動する NPO法人大分県「協育」アドバイザーネットの方針や事業に関する研修

講師：NPO法人大分県「協育」アドバイザーネット 梅野悦子

平成 25 年度大分大学高等教育開発センター「『協育』アドバイザー養成講座」【中級編】
第 5 期生「協育」アドバイザー専門研修実施要項

1. 趣旨

家庭・学校・地域社会が一体となり、地域ぐるみで子どもを育てる「家庭、学校、地域社会の教育の協働」を推進し、学校や地域における子どもの健全育成や、家庭教育への積極的な支援を行う体制の整備のため、その中核的な人材の養成を行うための専門的な研修を実施する。その際、コーディネート能力の養成とともに、キャリア教育や体験活動に関するプログラム企画力を養成し、提案し、実践するためのスキルの向上を図ることを目的とする。

さらに、受講修了者のネットワークを拡大し、受講生の職場や地域での日常的な活動を支援する。

2. 主催 大分大学高等教育開発センター

協力：NPO法人大分県「協育」アドバイザーネット

3. 期日 平成 26 年 3 月 15 日（土）・16 日（日）

4. 会場 大分大学 教養教育棟 2F 26 号教室

5. 対象者 次の①又は②条件で、2 日間とも受講できる方

①『協育』アドバイザー養成講座【基礎編】を受講した方

②基礎編の受講は出来なかったが、今後、基礎編及び上級編を受講予定の方

学校支援事業や放課後子ども教室、家庭教育支援等に係るコーディネーター

各種団体・グループ、NPO、企業等の地域活動者

社会教育主事等社会教育関係職員及び指導主事等学校教育関係職員

その他、趣旨に賛同し、職場及び地域等において受講したことを活用できる者 等

6. 申し込み（問合せ）方法

①受付期限：平成 26 年 3 月 11 日（火）※郵送・ファックス・メール可

②申し込み先：大分市旦野原 700 番地 大分大学教育支援課（公開講座担当）

③電話：097-554-8522 / FAX：097-554-7445

④E メール：kyokikss@ad.oita-u.ac.jp

7. 修了証 講座の全日程を受講したものには、大分大学長の修了証を授与する。

8. 講座の内容

	時間	内 容
日 目	9:00～ 9:20 ～11:00	開講式（挨拶・説明） 講義 1 学校教育の現状・課題と教育の協働の視点 講師 大分大学教育福祉科学部 教授 山崎清男
	11:15 ～ 14:00	講義 2 地域社会の現状・課題と教育の協働の視点 講師 大分大学高等教育開発センター 准教授 岡田正彦
	14:15 ～16:15	講義 3 教育の協働を推進するコーディネート機能の現状 講師 大分大学高等教育開発センター 教授 中川忠宣 演題：「全国調査から見える教育の協働推進システムと大分県の取組」 講師 大分県立社会教育総合センター 矢野 修 社会教育主事 演題：「大分県におけるコーディネートの現状調査から見えるもの」
	9:00 ～10:30 10:45 ～ 12:00	講義 4 不登校やひきこもりの若者たちを応援する教育の協働の視点 講師 NPO法人ピアサポートしぶや 理事長 相川良子氏 講義 5 子どものための「協育」を推進するコーディネーターの実際 ～全国のキャリア教育コーディネーターの活動事例を含めて～ 講師 特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク理事長 生重幸恵氏
	13:00 ～16:00	熟議 地域の人の支援を広げて企画する「子どものためのプログラム」作成 講師 NPO法人ピアサポートしぶや 理事長 相川良子氏 特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク 理事長 生重幸恵氏
	16:20～	閉講式（修了証授与・アンケート等）

※第 1 日目の講座修了の後に、講師を交えて自由参加の活動情報交換会を実施します。

中央講師紹介資料

講義4 不登校やひきこもりの若者たちを応援する教育の協働の視点

講師 N P O 法人ピアサポートしぶや 理事長 相川良子氏

10代の少年をめぐる凶悪事件が多発した10年前、地域の有志と共に中高生の居場所「ファンイン」を立ち上げ現在に至る。また、不登校・引きこもりや問題を抱えた子ども・若者を、世代の近い若者がピア（仲間）として自宅訪問や居場所でかわる「ピアサポート」活動を通して、学校を支援する傍ら若者の「自立支援」を取り組む。小中学校に総合的な学習、高校に「教科奉仕」が導入されたことをきっかけとして、小中高校の教育支援を行う傍ら、地域で「体験的な学習活動」プログラムの企画、教育コーディネートの活動を行っています。

公立中学校校長を経て、現在、特定非営利活動法人ピアサポートネットしぶやを設立して、引きこもり、フリーター、ニートなど若者が抱える問題を社会の課題としてとらえ、それらの若者が再び生き生きと社会とつながりながら生きていくことが出来るようお手伝いをしています。そのために、青少年が抱える諸問題を学校、行政、民間団体、N P O、企業等の幅広い機関の連携を促進し、居場所づくりや体験活動を進めている団体や個人が青少年の主体的な活動をサポートするためのネットワーク化を図る活動や実際の相談活動、訪問サポートなどをしています。

役職 青山学院大学「ヒューマンイノベーション研究センター」客員研究員
子ども・若者の居場所「渋谷ファンイン」事務局
文部科学省「家庭教育支援の推進に関する検討委員会」委員

講義5 子どものための「協育」を推進するコーディネーターの実際

～全国のキャリア教育コーディネーターの活動事例を含めて～

講師 特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク理事長 生重幸恵氏

P T A会長時代から学校を支援する活動を積極的に行ない、区内の他校P T A会長経験者と共に平成14年7月にスクール・アドバイス・ネットワークを設立し、杉並区教育委員会との協働や東京都内各区の教育委員会とも連携したり、さらには全国各地での「学校支援」「地域活性化」のプロジェクトに参画したりして、活動の範囲を広げています。一方、企業の地域教育貢献の必要性とその方法などについてアドバイスし、企業の持っているノウハウを学校授業に繋げるためのプログラム作成なども手がけています。平成22年2月から文部科学省第6期中央教育審議会中央委員として活躍しています。

「子ども達の成長に町ぐるみで関わることで、大人もパワーをもらいましょう。大人も子どもも、自分達の住む町に愛着が持てる・誇りが持てる学校教育支援活動で異世代の交流・自慢の町おこしが生まれます。」と、熱く語ってくれます。

役職 文部科学省 中央教育審議会 中央委員
特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク 統括マネージャー
社団法人キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会 理事長
その他の各種役職を担うと共に、全国各地の講演会や研修で活躍中



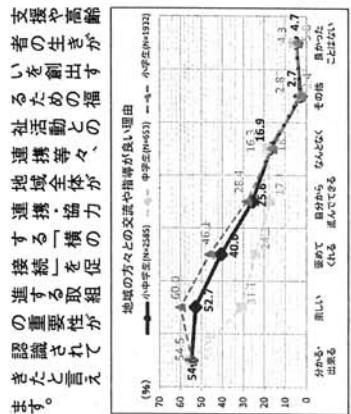
連載 地域と協働する大学

「家庭・学校・地域社会の教育の協働」システムづくりの展開へ大分大学高等教育開発センターへ「協育」アドバイザーの養成講座まで

地域貢献する大学一 大学の持つ多様な知的資源を生かした様々な取組に取り組んでいる大学の取組についてご紹介します。

大分県における「協育」のはじまり

大分県教育委員会は平成17年度から家庭・学校・地域社会の教育の協働を推進するために、「教育の協働」を「協育」という造語で象徴化し、「コードネイターの配置」を中心とした「地域「協育」振興モデル事業」を始めました。その後、改正教育基本法や教育振興基本計画により、「教育の協働」の取組が加速し、子どもたちが地域の方々との交流や指導を肯定するという調査結果が生まれました(大分県内調査)。これからの教育が、青少年を育成する家庭教育・学校教育・社会教育の協働、さらに、家庭教育支援や高齢者者の生きがいを創出するための福祉活動とともに、地域全体が連携・協働する「横の連携」を促進する取組が進められています。



ている様々な「協育」実践を交流し合い・深め合い・広め合いを促進することを目的とした会員同士のネットワーク組織を作り、平成23年12月にNPO法人として認証されました。活動の柱は「高まろう」「広めよう」「繋がろう」の3つです。

「高まろう」は、指導者の意識を高めるための養成研修講座や指導者相互の交流情報交換を行うものです。「広めよう」は、教育の協働を広めるための実践的な取組をモデル的研究的に実践していくとともに、指導者などの直接的なアドバイスをするものです。「繋がろう」は、ネットワークを広げるために会員及び市町村、団体グループ・企業などが行う様々な活動の情報を収集し、発信するものです。こうした取組を行つたために月1回の企画会議で様々な協議を行つとともに、会員としての「襟章」を作成するなどして、意見溝通を図りながら活動を広げています。

さらに、平成23年12月に県内の機関や企業、NPO等が組織する「大分県「協育」ネットワーク協議会」を設立し、その事務局となるなつて「「協育」の啓発」に取り組むことになりました。

「協育」アドバイザーの養成講座

本セミナーが平成20年1月に署への「大学教育内度に求められる生涯学習支援」を基にして、平成21年度から、中核的な人材を養成するための「「協育」アドバイザーネットワークづくり」を始めました。本学の第2次中期計画においても、「高等教育開発センター」を拠点とした大分県における生涯学習・社会教育推進のためのネットワークシステムづくりの取組を行つことしています。また、講座ごとに大分大学長の修了証を授与し、地域活動への参画意識の醸成を図っています。

- ①(基礎編)「協育」アドバイザーネットワークづくりの3つです。
- ②(実践編)「協育」アドバイザーネットワークづくりの3つです。
- ③(実践編)「協育」アドバイザーネットワークづくりの3つです。

「ネットワーク」は、様々な活動をするための基礎です。これまでの縦の情報に加えて「横の情報」をどう繋ぐかが大切な時代です。国立系の地方の大学が果たす大きな役割がここにあり、ネットワークづくりがCOOCとしての大きな成果になると考えます。そうした意味で、「アドバイザーネットワーク」に加えて、「エコアコードネーター」としての役割を果たすことが、これからも高等教育機関に求められるようになります。

(大分大学高等教育開発センター長 教授 中川忠宣)

問い合わせ先

NPO法人「協育」アドバイザーネット
会員登録

大分大学高等教育開発センター
〒870-1192
大分市大字自駒原100番地
TEL: 097-1554-7641
FAX: 097-1554-7445
〔教育支援課〕開発課担当

「教育の協働」を研究する事例集

【事例2】 「地域発『活力・発展・安心』デザイン実践交流会」の開催

行財政改革の中で、平成の大合併が一応終結しましたが、このことによる地域の活性化の取り組みにもさまざまな課題が浮き彫りになり、今まさに、地域づくりは「官から民へ」の時代となりました。

そこで、「民」という立場でアイディアを発揮し、ネットワークを築き、素晴らしい「デザイン」を描きながら取り組んでいる県内の個人・団体・グループの活動情報を共有し、新たに「我がまちづくり」に生かしていくエネルギーを高めていくために実践交流会を開催するものです。

【言葉の意味】

- 「地域発」：県内18市町村のいろんな地域から活動情報を発信する交流会とする。
- 「活力」：参加者が活力を貢献する交流会とする。
- 「発展」：「次世代を担う子どもたちの育成による地域の発展」をテーマとする。
- 「安心」：テーマ実現により、子どもや高齢者の安全・安心、地域産業等の発展による安心な地域づくり等を目指した交流会とする。
- 「デザイン」：新しい発想、地域の個性・独自性等がデザインされた交流会とする。
- 「実践」：実践していることの交流会とする。

【対象】

- (1) 大分県内の地域活動をする個人・団体・グループ及び行政・学校関係者等、趣旨に賛同する幅広い人たちを対象とする。
- (2) 趣旨に賛同する県外の関係者の参加も歓迎する。

【主催】 東国東地域デザイン会議 大分大学高等教育開発センター

【主管】 「地域発『活力・発展・安心』デザイン実践交流会」運営委員会

6 組織

- (1) 運営委員会を組織し、運営委員と実行委員を置く。
- (2) 運営委員会の中に事務局を置き、大会の運営を行う。
- (3) 県内に実行委員を置き、県内の実践事例を収集する。
※趣旨に賛同する県外者を特派員とすることとする。

【内容】

- (1) 大分県内の個人・団体・グループ及び行政、学校等の取り組みの活動発表と、研究・協議をメインとする。
- (2) 先進的な実践事例等の事例発表・基調講演（提案）を行う。
- (3) 交流会の成果を広く広報する。

【会場】

「梅園の里」（国東市安岐町富清2244 Tel0978-64-6300）

【期日・日程】

- (1) 毎年、2月最終土・日曜日又は3月第1土・日曜日に実施する。
- (2) 次の内容を基本とする。
①全体会 ②事例発表 ③特別講演 ④基調講演 ⑤研究協議 ⑥交流・懇親会

【経費】

- (1) 依頼した講師を除き、発表者及び運営関係者等への謝礼、旅費等は大会から負担をしない。
- (2) 必要経費は、参加費、協賛金（品）、補助金、その他を以て充てる。

「協育」見本市<2014年（H26年）>第7回 地域発『活力・発展・安心』デザイン実践交流会

共催事業：NPO法人幼老共生まちづくり支援協会移動フォーラム

近年、青少年を取り巻く様々な課題や団塊世代・高齢者の地域参加の促進等が指摘されているところであり、学校や家庭、地域における様々な取り組みの連携・協力の必要性が言われています。こうした現状の中、県内各地で各種団体等の独自の取り組み、地域が学校と連携した取り組みなどが行われています。

本交流会は、こうした県内各地の実践者が自主的に集い、実践事例を交流することによって大人自身の活動エネルギーを蓄えるために、大分県生涯教育学会や、福岡県を中心に活動する「NPO法人幼老共生まちづくり支援協会」などの協力をいただき、さらに、地元教育委員会・生涯学習団体等と協力して開催するものです。多くの方々の参加をいただき事例を基にして地域づくりを熱く語りましょう。

運営委員長 林 浩昭（東国東地域デザイン会議会長）

テーマ 「大いに語ろう～大人がする子ども育て、そして、子どもが活躍するまちづくり～」

主 催 東国東地域デザイン会議 大分大学高等教育開発センター
NPO法人幼老共生まちづくり支援協会

協 力 NPO法人大分県「協育」アドバイザーネット
大分県「協育」ネットワーク協議会 大分県生涯教育学会

会 場 「梅園の里」 〒873-0355 国東市安岐町富清 2244 Tel0978-64-6300

期 日 平成26年3月1日（土）～2日（日）

日 程（予定）

一 日 目	10:30 開会行事 10:50～基調提案「『世界農業遺産』の意義と子ども達へ継承する大人の役割」 講師 国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会長 (東国東地域デザイン会議会長) 林 浩 昭 氏 基調報告：今求められる「地域ネットワーク」の取り組み 講師 広島経済大学経済学部 准教授 志々田まなみ氏
	12:50～実践事例発表 ○第1分科会 学校教育等への地域・家庭からの支援・協力の事例（5事例） ○第2分科会 学校を中心とした読み聞かせ活動の事例（5事例） 16:30～17:10 特別講演 演題 「教育がつくりだす心の危機」（仮） 講師 三浦清一郎 氏（生涯学習・社会システム研究者）
二 日 目	9:30～11:50 大いに語ろう！ ～読み聞かせ・学校支援活動等のグループに分かれて交流会～ テーマ「子どもたちの未来のために活動する成果と課題」 (※ファシリテーターの進行でテーマに関する日頃の活動を班別に意見を自由に交換します)

会 場 ☆梅が咲き誇る三浦梅園生誕の地～「梅園の里」～☆（HP：<http://www.oct-net.ne.jp/~infbaien>）

参加費 無料（500円資料代等実費）※宿泊費等は別途必要です。

申込方法 ○別途「参加申込書」での詳細な参加内容を申し込み願います。

○平成26年2月19日（水）までに申し込み下さい。※当日参加も受け付けます。

広 報 HP：「大分大学高等教育開発センター」又は「大分県『協育』ポータル」を参照ください。

※手弁当で、地域の皆さんの活動を交流する機会です。夜の交流会で「物産見本市」を行いますので、地域の特産品などを当日お持ちいただき、寄付して頂ければ幸いです。これまでも本交流会の運営費として活用させていただいています。

問い合わせ・申し込み先

○東国東地域デザイン会議事務局・富永六男
TEL 0978-65-0396
FAX 0978-65-0399
住所：〒873-0355 国東市安岐町糸永2323

○大分大学高等教育開発センター・中川忠宣

TEL/FAX 097-554-6027

（教育支援課）TEL/554-7641 FAX/554-7445

住所：〒870-1192 大分市旦野原700番地

これまでの発表事例の概要

平成20年度の第2回交流会から主催者として大分大学高等教育開発センターが参画しました。以後の事例発表の中から「教育の協働」の推進に関する事例を紹介します。

【平成20年第2回交流会】

発表団体	団体名 杵築市 向野地区公民館 団体事務局等所在地 杵築市山香町大字向野
発表者	氏名・役職 豊田 潔（とよだ きよし）・地区館長 発表者連絡先
当日登壇者 (発表者除く)	氏名・役職 都甲 秀幸・社会教育主事 氏名・役職

【当日の冊子掲載内容】－発表：30分、協議：10分－

I. テーマ	向野地区公民館事業の取り組み～公民館と小学校との連携～
II. 発表者の職名 氏名	杵築市向野地区公民館長 豊田 潔
III. 発表内容	
1. 活動の目的	
合併前より“僻地”であった向野地区において、昭和50年代より地区が活性するためには地区公民館の充実が必要とし、地区民が自発的に地区公民館を設立し地区の発展・健康と融和のため地区公民館が活躍している。	
2. 活動のあゆみ	
昭和50年代より地区公民館を自主的に組織し、地区と小学校との連携した事業を長年にわたり実施。また地区公民館は、それぞれの地区民全員が企画に参加。運営できるための工夫として、各種専門部を儲け、専門部が地区のために自立したとりくみを継続している。	
3. 活動内容	
少子高齢化がすすみ、地区の小学校の児童数が激減する中、学校は存続するための、また地区は学校を残すために取り組みを実施。 運動会や文化祭の共催、老人クラブの学校事業への参画、スポーツ少年団や、消防クラブでの取り組み。すべてに学校が関わり、また地域が関わって活動している。 小学校や子ども達は地区の中での役割がはっきり認識されており、地域にはないといけない小学校となっている。	
4. 今後の方針	
止まらない少子高齢化。また地区公民館運営のための後継者。予算の縮小や自主的な公民館であるための保障のなさ・・・。 さまざまな問題を抱えているが、地区民が自主的にできることをして行こうとする風土がこの地区を発展させていく方向だと思う。	

発表団体	団体名 豊後大野市清川地区学校支援地域本部 団体事務局等所在地 豊後大野市清川町砂田 1795番地
発表者	氏名・役職：豊後大野市清川地区学校支援地域本部コーディネーター 藤原 勇 ：豊後大野市教育委員会清川支局副主幹 佐藤 君代 発表者連絡先 豊後大野市教育委員会清川支局 0974-35-2372

【当日の冊子掲載内容】－発表：30分、協議：10分－

- I. テーマ 「清川の子どもに、清川の大人ができること」
 II. 発表者の職名 氏名：豊後大野市清川地区学校支援地域本部コーディネーター 藤原 勇
 　　：豊後大野市教育委員会清川支局 副主幹 佐藤君代

III. 発表内容

1. 活動の目的

学校と地域の連携を図り、教育の現場に地域の人々がかかわることで、地域全体で学校教育を支援していく体制の構築をめざす。清川地区における、青少年の健全育成と安全・安心な街づくりから「地域の青少年は地域で守り育てる」という意識を高めていく。

2. 活動のあゆみ

清川地区においては、青少年の健全育成にかかる様々な施策は行政と社会教育が一体となつた取り組みを進めている。

平成20年度に、豊後大野市青少年健全育成市民会議の中に学校支援地域本部実行委員会が発足し、市内の7ヶ所中学校区を単位とした地区学校支援地域本部体制がスタートした。

平成20年度の事業の本格的な取り組みは7月以降となった。支援本部には、学校と地域の橋渡しをするコーディネーターが配置された。

清川地区においては2学期を前に学校と地域本部とが協議を重ね、2学期から小学校・中学校の要望と登録ボランティアの調整を図りながら、今まで事業を進めてきた。

3. 活動内容

9月1日にボランティア登録者の募集を開始し、平成21年2月末で76名の登録者となった。すでに、学校の環境整備等で個人的にライフワークとして実施している方々もいたが、事故等トラブルに対処できるために支援ボランティアに登録していただいた。そして、学校からの要望と登録者との調整をコーディネーターが行い、支援活動を行った。清川小学校では、社会科への支援活動は2件、持久走大会の練習期間の実施コースの安全確保、キラキラタイムでの学習支援（週2回～3回）遊具の安全点検と整備。伝統芸能の指導等が主な活動である。

清川中学校では、学校の校舎・校庭周辺の草刈、園庭の樹木の剪定作業が行われた。

これらは、全て学校と支援本部のコーディネーターが連絡調整を図りながら取り組みを進めてきた。学校、支援者にとって重くならない「さりげない支援」をモットーにして。

4. 今後の方向

ボランティアの支援可能なメニューの種別をふやすために人材の掘り起こしをする。さらに、ボランティアを対象とした研修会を実施し、その上で支援活動の検証を行い、次の支援活動につなげていき、清川に子どもたちの笑顔の花をたくさん咲かせたい。

発表団体	団体名	ゆふいん父ちゃん会
	団体事務局等所在地	由布市立由布院小学校内 学校支援ネット
発表者	氏名・役職	八川 徹 ・ 代表世話人
	発表者連絡先	090-8297-4936
当日登壇者 (発表者除く)	氏名・役職	山崎 充 ・ 学校支援ネット事務局 教諭
	氏名・役職	

【当日の冊子掲載内容】－発表：30分、協議：10分－

I. テーマ おやじが変わった！！学校が変わった！！～今、できること～

II. 発表者の職名 氏名 ゆふいん父ちゃん会 代表世話人 八川 徹

III. 発表内容

1. 活動の目的

- ・できることを、できる人が、できるときに、学校に関わっていこう！何かが変わるかも…
- ・父親や母親の子育ての悩みをぶつけ合って解消できたらいいなあ…
- ・保護者同士&先生との懇親を深め”本音（ひらくち）”で話せる仲になれば良いこともある？ 2

2. 活動のあゆみ

- ・H19年度「(仮称) おやじの会」として発足
- ・H20年度「ゆふいん父ちゃん会」に名称決定し活動中

3. 活動内容

<H19年度>

- ・教室の掃除道具入れ修繕
- ・図書室リフォーム
- ・砂場作り（移設）



父親の存在を知つてもらえた

<H20年度>

- ・校内草刈作業 2回 & 懇親会
- ・植木剪定&懇親会
- ・校内キャンプ&懇親会
- ・ゆふっ子まつり父親講師コーナー担当（4コーナー）
- ・とび箱運搬台車作り&懇親会
- ・給湯室、事務局リフォーム&懇親会



先生と児童
そして保護者の
距離が縮まった

4. 今後の方向

H20年度までは由布院小学校の父ちゃんの集まりだったが、H21年度以降は湯布院地域の「おやじ」が「子どものため」に「自分のため」に「地域のため」に楽しみながら出来る事をやって行く！そして湯布院の「おやじ」を繋ぐ活動を展開したい。

自己実現

伝承

コミュニケーション

クリエーション

【平成21年第3回交流会】

発表団体	団体名 由布市挟間中学校区地域協育ネットワーク会議 団体事務局等所在地 由布市挟間町挟間104-1
発表者	氏名・役職 梅野悦子 由布市挟間中学校区地域協育コーディネーター 発表者連絡先 由布市挟間町挟間104-1 はさまみらい館
発表テーマ と 簡単な活動内容	テーマ 「子どもが豊かに育ち、地域も元気になる地域協育」 活動内容 地域住民による、子どものための学校支援、地域活動支援をコーディネートしつつ、大人のネットワーク化を目指す活動

【当日の冊子掲載内容】－発表：30分、協議：10分－

I テーマ 「子どもが豊かに育ち、地域も元気になる地域協育」
II 発表者の職名 氏名 由布市地域協育挟間中学校区コーディネーター 梅野 悅子
III 発表内容
1 活動の目的 近年、価値観の多様化、個人主義の横行などに伴う社会の急激な変化の下、子どもたちの深刻な問題が生じている。また、連帯感や人間関係が希薄になっている地域社会や家庭・多忙化極まる学校が子どもの問題に拍車をかけているといわれている。由布市でも、地域で孤立した家庭、子どもや保護者の顔さえ知らない地域、ひきこもりや不登校の児童生徒など種々の問題がみられる。そこで、課題解決に向けて、学校・地域・家庭の3者が子どもを核にして共に向かい合い、教育の協働を進める「地域協育」をコーディネーターとして推進してきた。多くの方々に子どもに関わってもらうことで、子どもは心豊かに育ち、家庭・地域は活性化し、学校はほんの少し余裕を持てる、そんな社会であってほしいと願っている。そういう社会で育つ子どもたちが、またみんなで支え創る社会を築く一員になってほしいと思う。
2 活動のあゆみ ○平成19年6月 文部科学省事業調査研究のために地域協育を推進 ○平成20年6月～ 大分県地域協育推進事業をうけ、由布市の協育ネットワーク構築推進事業を実践
3 活動内容～コーディネーターとして (1) 学校の要望に添って応援団を増やす ①ゲストティーチャーとして地域の先生を学校に 1) 社会・理科・音楽・家庭科の専門的な指導 2) 福祉の体験学習 ②学習アシスタントとして先生をサポート 1) 習字・読み聞かせ・生活科・国語・家庭科などのアシスタント 2) 遠足・社会見学の引率補助、パソコン学習の補助 ③学校の施設整備に地域や父親の力を發揮 1) 学校の施設設備の補修 2) 父親主催のふれあい行事の実施 ④子どもを取り巻く環境整備 1) 通学路の整備、学校周辺の整備、通学安全パトロール (2) 地域や家庭の力を取り戻す～コーディネーターとしての発信 ①団体への学習会講師、地域や団体へのコーディネート ②1年間のあゆみ発信（公民館祭り）
4 今後の方向 (1) 成果と課題 ○豊かな教育活動がみられるようになってきたし、各校の父親部会の活躍もたくさんみられる。また、学校を開くことが少し進んできた。 ○まず学校が求めることが第1歩である。長続きし、質の高い支援を考えるステップに進むことが課題である。 (2) 22年度以降の方向

発表団体	団体名 中津市教育委員会生涯学習課 団体事務局等所在地 中津市豊田町14番地3
発表者	氏名・役職 山本 健吾 中津市地域協育振興プラン実行委員会事務局 発表者連絡先 中津市豊田町14番地3 中津市教育委員会生涯学習課
発表テーマ と 簡単な活動内容	テーマ 諭吉の里発「協育ノススメ」 活動内容 地域の教育力を活かし、子どもの健全な育成を図る

【当日の冊子掲載内容】一発表：30分、協議：10分－

I テーマ 諭吉の里発「協育ノススメ」
II 発表者の職名 氏名 中津市地域協育振興プラン実行委員会事務局 山本健吾
III 発表内容
1 活動の目的 学校、家庭、地域の協働による教育の必要性を啓発し、放課後対策事業、学校支援事業、公民館活動などにより教育の協働を実践し、地域ぐるみで子どもを見守り、育てる社会の創造を目的とする。
2 活動のあゆみ 平成16年、地域の教育力を活用した地域子ども教室を開始。公民館活動において、その目的のひとつである「学んだ成果を社会に還元する」ことの重要性を提起。平成20年、本実行委員会により「なかつスクスクプロジェクト事業」を協育ネットワークの構築を目指して開始。あわせて、中津市地域協育振興プラン策定に向けての調査研究を開始し、現在に至っている。
3 活動内容 (1) 放課後中津子ども教室 平成16年度3小学校で開始し、現在は市内21小学校区で実施。放課後や週末に地域の方々が安全管理員となり、子ども達に様々な体験活動の場を提供している。平成19年度より放課後中津子ども教室となり、放課後児童クラブとの連携を行っている。さらに、本年度より、子どもの学力の補充的な目的をもつ中津学びの教室を水曜日の放課後を中心に10小学校区で実施している。 (2) なかつスクスクプロジェクト 昨年度から市内10中学校区で開始。公民館を拠点とし、それぞれに校区ネットワーク会議を組織している。学校支援活動を通して、地域の学校、子どもを見守り育むためのネットワークの構築と子どもたちにとって安全・安心な地域づくりを目的としている。 学校支援活動として、学習支援、学校行事支援、環境整備支援、見守り支援などを実施している。 (3) 中津市地域協育振興プランの策定 平成19年に策定された県の「地域協育振興プラン」の基本理念を受けて、中津版プランの策定に着手している。アンケートや上記時事報告等で、調査、研究を進めている。 (H22策定予定)
(4) その他 1小学校区1公民館という利点を活かし、講座による啓発や人材確保を日常的に行っていいる。
4 今後の方向 中津市地域協育振興プラン「諭吉の里 協育ノススメ」を策定し実施していく中で、市民への周知、中津の地への定着を図る。そして、市内小中学校の中津独自のコミュニティースクールを創造していく。

【平成23年第5回交流会】

発表団体	団体名 国東市立安岐小学校 団体事務局等所在地 〒873-00231 住所 大分県国東市安岐町下原2071番地
発表者	氏名・役職 校長 岡松 寛 発表者連絡先 TEL0978-67-0336 E-mail 〒873-00231 住所 大分県国東市安岐町下原2071番地

【当日の冊子掲載内容】－発表：30分、協議：10分－

I. テーマ 地域連携を軸にした学校経営「安岐小プラン2011」

II. 発表者の職名・氏名 国東市立安岐小学校 校長 岡 松 寛

III. 発表内容

1. 活動の目的

授業不成立の現実など、児童の学習意欲・生活意欲に陰りが見られていた本校教育活動。児童の現実に学びながら、学校教育目標達成に向けて教職員によるプロジェクトチームを設け、地域協育ネットワークを立ち上げ、学校改善に取り組んだ。

2. 活動のあゆみ

本校に赴任した4月当初、徹底した児童・地域の現状分析を行い、明確になった課題からプロジェクトチームを設け、地域連携を軸にした「プラン2011」を設定し、実践に移した。

昨年4月から本年2月現在で、来校者は延べ800名を超える。学校満足度、地域連携の満足度ともに95%に達する。

3. 活動内容

- (1) 「はじめに子どもありき」の学校経営 – 「安岐小プラン2011」の設定 –
- (2) 地域が僕らの先生だ – 学校支援ボランティアの確立 –
 - ・地域興しグループ「あ」組との連携
 - ・読み聞かせボランティア・学習アドバイザー・ゲストティーチャーの充実
- (3) 「授業参観」から「授業参加」へ – 新たな教育活動の創造 –
 - ・学習サポーターとの連携が生んだ「幼・小連携」の取り組み
 - ・95%に達する児童の満足度
- (4) 届け「楓江小だより」 – 広報活動が深める地域連携への理解 –
 - ・毎月8号（現在80号）発行の校長室だより

4. 今後の方針

プロジェクトチームによる「プラン2012」の設定と完全実施を目指す。教科学習における学校支援ボランティアの活用モデルを提示することで、今後に生かす。

発表団体	団体名 直入放課後子ども教室 団体事務局等所在地 〒878-0402 住所 直入町大字長湯8208-6 竹田市直入公民館
発表者	氏名・役職 峰野希美(プロデューサー) 大塚千鶴／森田恵子／吉野聖子(指導者等) 発表者連絡先 TEL 0974-75-2240 E-mail <kyoiku-nao@city.taketa.lg.jp> 〒 住所 同上
発表形式	当日持ち込み資料 有り 無し 発表時の使用機器 有り 無し 機器種類 ノートパソコン

【当日の冊子掲載内容】一発表：30分、協議：10分－

I. テーマ 「直入放課後子ども教室」の実践報告

II. 発表者の職名 氏名

(プロデューサー) 峰野希美 (指導者兼見守り) 大塚千鶴／森田恵子／吉野聖子

III. 発表内容

1. 活動の目的

放課後や週末などに、子ども達の安心・安全な活動の拠点「居場所」を設ける。地域の方々の参画を得て、子ども達と共に、勉強やスポーツ・文化活動・地域住民との交流活動などの取り組みを実施することにより、子ども達が地域社会の中で心豊かに健やかに育まれるような環境を作る。

2. 活動のあゆみ

H20年度 放課後子ども教室スタート・12種類の体験型教室を実施
H21年度 初代コーディネーターより現コーディネーターに引き継ぎ
(翌年プロデューサーと名称変更)

H22年度 子ども達の学習習慣の定着を目的として、竹田市内全域で学びの教室がスタート

H23年度 13種類の体験型教室と学びの教室を実施・登録児童は全校の7割の68人(初年度の2倍)

3. 活動内容

◆子どもたちの活動

- ・学校や公民館で放課後や休日に活動。
- ・「体験型教室」年33回(各教室1~5回)
 - 【13種類】パソコン・うた・造形・英会話・レク・かきかた・絵手紙・茶道・そろばん
ハンドメイド・フラワーアレンジメント・料理・食育
- ・「学びの教室」年35回

◆プロデューサーの活動

教室全体の計画・準備および関係者・関係機関との連絡調整など

◆見守りの活動

会場準備・安全管理・プロデューサーの補佐など

4. 今後の方向

◆継続していきたいこと

- ①子どもたちに、いろいろな体験をさせたい。
- ②地域の人材による、魅力ある教室を続けたい。
- ③関係者同士の協力・連携を常に心がけ、チームの結束力と業務の効率アップを図りたい。
- ④多くの児童が楽しんで参加できるよう、また、指導者など大人の関係者も楽しんで取り組めるよう、アイディアを出し合い工夫したい。

◆新たに取り組みたいこと

- ①体験型教室のマンネリ化を回避したい。
- ②学びの教室の学習内容(とくにプリント)を精選したい。
- ③スタッフを増やしたい。

【平成24年第6回交流会】

発表団体	団体名 山国中学校区ネットワーク会議 団体事務局等所在地 〒871-0712	住所 中津市山国町守実130
発表者	氏名・役職 梶原豊美・山国中学校区協育コーディネーター 発表者連絡先 TEL 090 2507 5811 E-mail:yamakuni-chiiki@nk.oct-net.jp 〒871-0712 中津市山国町中摩4349	

【当日の冊子掲載内容】－発表：25分、協議：10分－

I. テーマ 「 山国っ子は地域の宝 広がれ支援の輪 」
II. 発表者の職名 氏名 山国中学校区協育コーディネーター 梶原 豊美
III. 発表内容
1. 活動の目的 地域の団体や個人の力を学校教育に活かし、学校・家庭・地域の協働によって心豊かな山国っ子を育むとともに学校支援を通じた地域づくりで地域の教育力を高める。
2. 活動のあゆみ 平成20年度学校支援地域本部事業「なかつスクスクプロジェクト事業」として中津市内すべての10中学校区にネットワーク会議が発足。そのひとつの山国中学校区は1つの中学校と1つの小学校からなる。学校からの支援要請計画に基づいて、年間を通して継続的な学校支援を実施している。平成21年度からは、学校と連携し、学校公開日の日に学校支援者研修会を開催。支援者が入った授業の参観や教職員、保護者、地域住民が同じテーブルに着き意見交換を行う分散会の開催などを通して、学校・家庭・地域の協働による三郷っ子の育成を進めている。
3. 活動内容 ①学校の依頼要請をうけて地域の団体や個人が支援 椎茸のこま打ち、椎茸狩り、椎茸の料理、梨狩りと生産者との交流、グリーンカーテンひょうたんの苗植えと収穫後のひょうたんの絵付け、運動会時の盆踊り、野菜植え、米づくり体験、家庭科ミシン学習支援、裁縫学習支援、体育科水泳指導支援、職場体験、花植え等環境整備支援、ふるさと現地探訪、昔のあそび体験、図工科絵手紙学習、平和授業、かかしづくり（かかしワールドに参加）等。 ②山国校区学校支援者研修会の開催 ・三郷小学校学校公開日と連携して開催 ・支援者が入った授業の参観 ・学校、家庭、地域の世代間意見交流分散会（4～5グループ） ・講演会 ③山中学びの広場 中学校の学校公開日にお世話になっている地域の方を生徒として迎えし、中学校理科の実験や美術の授業を体験していただいている。学校支援の逆バージョンとも言える。
4. 今後の方針 高齢化（山国地区高齢化率44.6%）、人口の減少が進む状況の中、支援者的人材確保が非常に厳しくなっていくが、支援者研修会や学びの広場などをさらに魅力のある取り組みにすることによって、地域住民に本活動のよさを知ってもらう機会をつくり、定年後のUターン者や保護者などの人材の掘り起こしを図っていく。

発表団体	団体名 玖珠町立玖珠中学校 団体事務局等所在地 〒879-4412 住所 玖珠郡玖珠町大字山田328番地の1
発表者	氏名・役職 梶原 敏明 玖珠町立玖珠中学校 校長 発表者連絡先 TEL 090-5739-3130 E-mail kajiwara-toshiaki`@oen.ed.jp 〒879-4412 住所 玖珠郡玖珠町大字山田328番地の1
発表形式	当日持ち込み資料 有り 無し 発表時の使用機器 有り 無し 機器種類 パソコンによるパワーポイント、プロジェクター、スクリーン

【当日の冊子掲載内容】－発表・協議合わせて35分－

I. テーマ 「地域とともにある学校づくり～玖珠中の提案」

II. 発表者の職名 氏名 玖珠町立玖珠中学校 校長 梶原 敏明

III. 発表内容

1. 活動の目的 「地域の活性化の循環システム」として

→ コミュニティ・スクールを導入すれば学校が変わる
教師が変われば → 子どもは変わる → 家庭が変わる → 地域が変わり
→ 町が変わる

2. 活動のあゆみ

本校では、永年、学校が荒れ、生徒たちが落ち着いて授業を受ける環境でなかった。このことが、学力・体力の低下の要因のひとつであった。
この課題解決のためには、学校だけでは限界があり、学校と保護者・地域住民が目標を共有し、一体となって地域の子どもたちをはぐくんでいくために、コミュニティ・スクール「学校運営協議会」を設置して、地域とともにある学校づくりを進めている。

3. 活動内容

毎月1回、学校運営協議会を開催し、保護者や地域の皆さんが学校運営に参画して、学校づくり、地域コミュニティづくりを進めている。

- ・校長が作成する学校教育目標や年間の指導計画などの学校運営の基本方針の承認
- ・学校教育活動への支援（地域人材ボランティアの学習支援、營繕・施設管理など）
- ・地域人材のネットワークを活用した職場体験学習などの職場開拓
- ・学校が「学校だより」等を活用して学校教育活動の情報提供
- ・保護者や地域の意見を教育活動に反映するための熟議
- ・地域の要請に応じて、子どもたちが地域の一員として、地域のお祭りなどへの参加

4. 今後の方向

学校を拠点とした「スクール・コミュニティ」が目標

コミュニティ・スクールを導入したことでの、学校と地域双方にメリットを生む。

学校が地域と融合＝協働＝パートナーシップ

- ①地域住民の学校運営への参画の促進、②地域力（地域の人材・資源）を活かした学校支援、③学校力を活かした地域づくり（地域貢献など）

【平成25年第7回交流会】

発表団体	団体名 豊陽中学校ネットワーク会議 団体事務局等所在地 〒871-0027 住所 中津市上宮永29-1（豊田公民館館長）
発表者	氏名・役職 加来久雄・豊陽中学校区協育コーディネーター 発表者連絡先 TEL 0979-24-6916 E-mail ph-toyoda@city-nakatsu.jp

I. テーマ 学校と協働した支援プログラムについて～豊陽中学校ネットワーク会議の実践より～

II. 発表者の職名 氏名 加来久雄・豊陽中学校区協育コーディネーター（豊田公民館長）

III. 発表内容

1. 活動の目的

中津市地域協育振興プラン推進事業の目的「地域ぐるみでもどもを見守り、育む安全・安心な地域づくり」のもと、豊陽中学校区のネットワークを構築し、学校・家庭・地域が協働して学校支援、放課後支援を行うことを通じて、豊陽中学校区の地域づくり活動を推進する。

2. 活動のあゆみ

平成20年度学校支援地域本部事業「なかつスクスクプロジェクト事業」として中津市内すべての10中学校区に校区ネットワーク会議が発足。そのひとつの豊陽中学校区は1つの中学校と2つの小学校（豊田小、沖代小）からなる。学校からの支援要請計画に基づいて、年間を通して継続的な学校支援を実施しており、学校支援活動は校区に定着してきている。その中で、中学校への支援活動について、校区ネットワーク会議から学校に学習プログラムを提案する『提案型』の支援活動と学校と協働しながら学習プログラムを形成していく『協働型』の支援活動が生まれてきている。

3. 活動内容

①「平和を願う集会（全校）」平和学習支援活動『提案型』

ネットワーク会議において、中学校から8月6日の平和集会の講師紹介の依頼を受けて検討を始める。例年戦争体験者を紹介していたが、今年は戦争を生徒が身近に感じることができるようになると、中学校からもよく見える山「八面山」の平和公園にまつわるものを考えた。三光地区の観光ボランティアと折衝し、学習効果をさらに高めるために語りだけでなく、紙芝居や平和公園の「平和の火」にちなんだ火おこし体験などの活動も取り入れ、学校に提案した。

②「職業人に学ぶ（1年）」進路学習支援活動『協働型』

中学校の担当教諭と計画の概要について打ち合わせをする中で、生徒の希望職種を把握することが必要であることを確認した。後日、学校から希望職種が提示され、その職種に基づき講師を選定していった。その中で、農業分野でお茶の生産で農林水産大臣表彰を受けた人は、生徒にぜひ聞いてもらいたい職業人の一人として提案した。

4. 今後の方向

学校や地域の理解も深まり、学校支援活動は定着をしているが、学校側からの一方的な要請に応えるだけでの御用聞き的な支援活動ではなく、地域が持つ人材・人脈を考慮しながら、地域の思いや子どもにつけたい力を学校と共有し、学校教育活動に反映できるような支援プログラムを実行することは、これからの中学校の教育の協働の推進において重要なことだと思う。そのためには、コーディネーターが学校の実情を十分把握し、連携・協議しながら支援できるプログラムを積極的に提案していくことが大切であると考える。

本年度、豊田公民館は開館20周年を迎え、記念式典において、あらためて地域づくりの拠点として公民館を位置づけることが確認できた。その記念事業の一環で、公民館ボランティアの人材登録を進めることとなった。今後さらに、支援の輪が広がっていくことによって、豊富な人材が確保でき、それらの人が生き生きと活動できる校区になることを期待している。

発表団体	団体名　由布市校区ネットワーク会議 団体事務局等所在地 〒879-5102 住所 由布市湯布院町川上3758-1
発表者	氏名・役職　湯布院中学校区コーディネーター 梅尾矢代畏 発表者連絡先 TEL 090-1922-4060 E-mail umeo-yayoi@city.yuhu.oita.jp 〒879-5114 住所 由布市湯布院町川北489-2

【当日の冊子掲載内容】一発表：25分、協議：10分ー

I. テーマ	「湯布院中学校区地域協育」
II. 発表者の職名 氏名	湯布院中学校区コーディネーター 梅尾矢代畏
III. 発表内容	
1. 活動の目的	
<p>子どもたちを取り巻く環境が急激に変化する中、学校・家庭・地域社会のそれぞれの機能が低下している、そこで「学校・家庭・地域の連携」それぞれの教育機能を補完・融合し協働して子どもを育てていくための体制づくり「協育」を行う。</p>	
2. 活動のあゆみ	
<p>町内2園75人・4小学校447人・1中学校250人 計772人の学校支援は平成15年より支援をしていたが、当時はなかなか学校現場には受け入れられず、ボランティアからは登録しちょんのに出番がないと言われたこともあった。平成20年より地域協育として始動していく中で、徐々に地域の人材を活用してくれるようになった。</p>	
3. 活動内容	
<p>今年度学校側から直接、ボランティア派遣をする以外に、地域協育への依頼があった時に紹介幼稚園育児サポートー支援は通年。由布院小1年国語読み聞かせ。湯平小全学年朝学習算数〇付け由布院小1年地域に出掛けての交流（昔の遊び）。4・5・6年クラブ活動生け花。5年田植え～稻刈り（無農薬栽培）。5年担任のつぶやきより家庭科ソーイング（エプロン縫い）。PTA活動親子食育湯平小「魚をさばく」川西小「煮込みハンバーグ&補食」。由布院小「石垣もちつき」。湯布院中「平和集会・満州より湯布院まで」由布院小「老人クラブのおじいちゃんと昔の遊び」。</p>	
4. 今後の方向	
<p>地域協育の学校支援は学校からの依頼があって紹介をしていたが、今後は「こういう方がいますよ」と学校に紹介をしながら、学校から帰った子どもたちが地域で安心・安全に過ごせる場づくりをめざす。学校の子どもたちが自治公民館に来たことがきっかけで、自治公民館に自分たちも元気に過ごせる食の学びやものづくりを楽しむ場・子どもたちも学校帰りに寄れる場・親も一緒に楽しめる場をつくろうと活動が始まる。これぞ、「地域の活性化」高齢者社会の元気の源。これからも進んで学校支援、そして保護者には子どもと関わるのは「今でしょう！」と伝えていきたい。</p>	

第2節 協働の主体として別府市で実施した文部科学省事業の推進事例

【事例1】

平成25年度文部科学省事業 「学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究」

本事業を受託するにあたり、別府市教育委員会等との連携により現状を次のように分析し、本事業の方向性を企画し、実施してきました。

1. 大分県別府市における解決すべき課題

1-1 別府市の現状

別府市の就業者数は56,629人（平成17年）であるが、そのうち46,102人（同）は3次産業へ就業しており、地元大学等の卒業生の多くは地元の観光業を主とする3次産業への就業を目指している。日本の温泉地を活性化させるにはふるさと意識の醸成と別府へ訪れる方へのおもてなしの心をもった人材の育成が求められている。

そもそも日本には3,100カ所を超える温泉地があるが、別府の源泉数は2,800ヶ所以上で日本の総源泉数の約10分の1を占め、日本を代表する温泉地といえる。また別府はアジアからのアクセスの良さにより韓国、中国といった外国からの観光客が多いことから、国際会議観光都市にも認定されている。このような立地特性の良さに加え、そもそも日本人が生まれながらにして持っている、相手に喜んでもらうために心を尽くすという「おもてなしの心」は世界に誇る「強み」といえる。

そこで、本事業においては子どもの頃から「別府を愛し、誇りに思い、訪れる方へのおもてなしの心を育成する」ためのカリキュラムづくりを行い、将来の地域を担う人材の育成をとおした地域の活性化を目指すものである。

しかし、別府市は観光の街として栄え、狭いエリアの街中に7中学校と14の小学校があり（僻地学校を除く）、全国的な傾向もあるが、子育てに関わりが薄い親の増加や地域住民の子どもへの無関心など、子どもを育てる環境が十分でないということも指摘されている。子どもたちはテレビやゲーム機・携帯電話に囲まれ、家族的には核家族化が進む中で、かつてのような血縁や地縁の関係が薄れた環境の中で育っている。また、地域の大人も、他人のことやよその家の事には関わらなくなっている。こうしたことから、別府市においても、小中学生の学力低下という課題や、中学生の非行、小学生の生活態度の問題など、多くの課題を抱えている。

1-2 学校教育における主な課題

①学力向上及びキャリア教育の推進

→地域にある大学や住民の学習活動への支援、ボランティア活動への協力、職場体験の受け入れ・指導など、地域からの積極的な教育支援活動が望まれる。

②「いじめ」「不登校」「問題行動」の解消

→家庭や地域において放課後や休日等の児童・生徒指導体制（システム）づくりや、年間を通した「安全・安心・環境浄化」の活動が望まれる。

③コミュニケーション能力と体力の向上

→家庭や地域において日常的なコミュニケーションを図ることや、部活動・保健体育科授業への

専門的指導者による支援等が求められる。

1-3 地域の特性

別府市には立命館アジア太平洋大学（A P U）、別府大学、溝部学園短期大学があり多数の外国人留学生が長期滞在しており、独自のコミュニティが存在する。異文化との融合が不可欠な情勢のなか、留学生のそれぞれの国の文化、言語、習慣を子ども達に提供し、グローバル化の推進を市内の小中学校に浸透しきことが求められている。

1-4 教職員の意識

これまでに日常的な学校支援のシステムや、子どもたちへの支援の効果などを十分に経験していない教職員が多い。「教職員」という立場上「まずは、自分たちがしなければ・・・」という使命感と、「子どもたちのために、保護者にもお願いしたいことが・・・」という保護者や住民への願いの間に立って悩んでいる。「こんなことを保護者や地域にお願いできない。してはいけない。」という思いと、目指す学校の姿、日常的な教育活動との中で、これからどうすればいいのか、どうしなければならないのかを悩んでいるのが学校の現状である。

(資料2 「地域からの学校支援に関する別府市立小学校教職員の意識」)

1-5 行政としての課題

学校の課題等の現状を踏まえ、地域総参加で子育てのまちづくりに取り組むために平成23年度より市内全地区公民館に市単独の専任コーディネーターが配属され、平成16年度の公民館設置及び運営に関する基準に沿った、公民館を拠点にした別府市地域教育力活性化事業に取り組んでいる。その取り組みにあたり、3つの観点から見る必要がある。

- ①公民館を拠点とした教育資源のネットワーク化とコーディネート機能の発揮が可能か。
- ②市内全域の地域人材の発掘・確保等の人材バンクの整備をとおしたボランティア人材の安定的な確保が出来るか。
- ③学校と共同して、子どものための学校支援活動のカリキュラムの提供を日常的にできるか。

さらに、平成23年度からの市単独の「別府市地域教育力活性化事業」の充実と、平成25年度からの3年計画での全ての公立小中学校のコミュニティ・スクール化への取り組みなどのへの効果的な方策の研究が緊近の課題である。

2. 実証検証の内容

①教育内容の充実のためのコーディネート機能の強化

別府市では、家庭・学校・地域社会が一体となり、地域ぐるみで 子どもを育てる体制づくりを目的とし「別府市地域教育力活性化事業」を実施してきた。さらに、平成25年度から3年計画で、全ての小中学校をコミュニティ・スクールに指定して、地域の教育力を活用して、家庭・学校・地域が一体となって子育てをする街づくりの取り組みを始めました。この施策を推進するためにはコーディネート機能をどう構築するかである。そのために、これまでコーディネート機能の中心であった公民館職員を始め、教職員、地域の関係者を対象とした「ボランティア活動を促進するための研修会」（コーディネーター養成）を開催した。

②放課後等の継続的・体系的なプログラム開発と提供の仕組みづくり

ふるさと別府を学び、お客様へのおもてなしの心が育つ児童生徒の育成をめざし、学校教育課程
放課後等で使用することができる教育プログラムの開発や実践的検証をおこなった。

③産学官民など多様な主体による学校と地域の双方の活性化のための仕組みづくり

① ②の実践を通じた、産学官民のネットワーク強化をめざす。

**テーマ：ふるさと別府を学び、愛し、別府への旅行者への最高のおもてなし
ができる人材の育成 *～別府の歴史と魅力の発見と発信～***



「泉都別府『協育』プロジェクト事業」第1回コーディネーター養成研修会

期日 平成25年12月4日（木）9：15～16：00

会場 大分県立社会教育総合センター

主催 おおんせん県おおいた泉都別府『協育』プロジェクト

1. 趣旨

青少年の健全育成についてこれまで、家庭、学校、地域社会がそれぞれの取り組みとして行うことになるとどまっており、別府市においても、それぞれの単独での取り組みでは対応できない様々な課題が多くあると言わざるをえない状況です。こうした中で、家庭、学校、地域社会の相互の連携協力を促し、それぞれの教育力を向上させるとともに、教育を協働して行う重要性が認識されてきました。

こうした現状を踏まえ、別府市では、家庭・学校・地域社会が一体となり、地域ぐるみで 子どもを育てる体制づくりを目的とし「別府市地域教育力活性化事業」を実施してきました。さらに、平成25年度から3年計画で、全ての小中学校をコミュニティ・スクールに指定して、地域の教育力を活用して、家庭・学校・地域が一体なって子育てをする街づくりの取り組みを始めました。本事業は、文部科学省事業「学校と地域の新たな協働体制の構築のための実証研究」を「泉都別府『協育』プロジェクト」というネットワーク組織が受託するもので、その1つの取り組みとして「ボランティア活動を促進するための研修会」（コーディネーター養成）を開催するものです。

2. 主催 泉都別府『協育』プロジェクト

参考：泉都別府『協育』プロジェクト委員関係者※（委員長：寺岡悌二別府市教育長）

別府市内の教育関係者、別府市PTA連合会、別府市退職校長会、立命館アジア太平洋大学

別府大学、大分大学高等教育開発センター、大分県中小企業家同友会、NPO法人ハットウ・オンパク、NPO法人大分県「協育」アドバイザーネットの各代表者、温泉研究関係者等

3. 参加対象

別府市内の公民館等社会教育関係者、学校教育関係者、PTA関係者、ボランティア活動者、

教育施設・機関関係者、自治会関係者 など

※別府市外の方の参加もお待ちしています。

4. 研修内容

（1）第1回研修会（12月5日（木）～6日（金））

1) 午前中は、教育関係者に加えて、一般の方に幅広く参加していただきました。

①別府市における「教育の協働」の取り組みの方向性

②「教育の協働」の推進に関する先進地（東京都杉並区を中心に）の事例

2) 午後は、社会教育や学校教育でのコーディネーターに関する方を中心参加していただきました。

③「教育の協働」の仕組みづくりとコーディネーターの役割

3) 2日目は、日常のコーディネートからの課題を具体的に考えました。

(2) 第2回研修会（2月26日（水））

- ①「教育の協働」推進事例と意識調査の報告
- ②コーディネーターが提案する学びのプログラムづくり

5. 参加申し込み先（「泉都別府『協育』プロジェクト事務局」です）

- ①郵送先：〒874-0834 別府市新別府2組-1 安達美和子 宛て
- ②E-mail 申込み：kyouikujimu@kyouiku-adviser.net (NPO法人大分県「協育」アドバイザーネット)
- ③問合せ/申込み：電話/FAX：097-554-6027(大分大学高等教育開発センター 教授中川忠宣)

6. 第1回目研修日程（12月5日（木）～6日（金））

時間	研修内容と講師
9:20～	研修1（講義）：別府市における「教育の協働」の取り組みの方向性 講師：別府市教育委員会 ※別府市の地域教育力活性化事業の現状や、今後のコミュニティ・スクールの導入に関する方向性について講義する
10:00～	研修2（講義）：「教育の協働」の推進に関する先進地（東京都杉並区を中心に）の事例を通して教育の協働の意義と方向性を考える 講師①：杉並区立杉並第一小学校学校支援地域本部長 伴野博美氏 演題：学校支援地域本部の取り組みから、その成果と地域社会の役割を考える ～学校運営協議会・PTA・放課後子ども教室等の事業から～ 講師②：特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク 理事長 生重幸恵氏 演題：「教育の協働」の意義と地域コーディネーターの重要性を考える ※国が示す方向性を基にして、コーディネーター機能や地域住民の参画の全国の事例から考える
12:10	研修3（熟議）：「教育の協働」の仕組みづくりとコーディネート機能を考えます 【模擬熟議】学校運営協議会（コミュニティ・スクール）と学校支援地域本部の協働への歩みを熟議（評価→企画→協働システム）をとおして考えます。 →まとめ：「別府市流のコミュニティ・スクール」支援システムを提案する チーフファシリテーター 生重幸恵氏 サブファシリテーター 伴野博美氏 サブファシリテーター 中川忠宣氏（大分大学高等教育開発センター教授）
13:00～	研修4（熟議）：コミュニティ・スクールのコーディネートの課題を考える。 ファシリテーター 中川忠宣氏（大分大学高等教育開発センター教授） 講師 生重幸恵氏 伴野博美氏
16:00	
10:00～ 12:00	

7. 第2回目研修日程（2月26日（水））

時間	研修内容と講師
9:20～	開会あいさつ
9:30～	研修1（講義） ：別府市におけるコミュニティ・スクールの取り組みの方向性を知る 内容：第1回研修会で説明・報告があった、別府市の地域教育力活性化事業をベースとした今後のコミュニティ・スクールの導入に関する説明等を行います 講師：別府市教育委員会
10:10～	研修2（事例報告） ：県内の実践事例から教育の協働を考える *実践による学校教育活動の成果と子どもたちの変容や、課題・今後の方策等について 県内の先進事例を報告します。 事例1 佐伯市立上堅田小学校の学校支援地域本部事業の取り組み 講師：佐伯市立上堅田小学校 伊東俊昭 教頭 事例2 玖珠町立玖珠中学校のコミュニティ・スクールの取り組み 講師：玖珠町立玖珠中学校 宗岡 功 校長
11:30～	研修3（講義） ：第1回コーディネーター研修から見えたもの *第1回目の研修で別府市内の教職員や地域住民が提案した「別府市流のコミュニティ・スクール」システムについて報告します。
12:10	講師：大分大学高等教育開発センター 教授 中川忠宣氏
13:00～	研修4（演習） ：コーディネーターが提案する学びのプログラムづくり 【熟議】 第1回の研修会で設定された3つのテーマについて、コミュニティ・スクールが求める課題対応への学校支援活動に関する提案型プログラムを考えます。
	テーマ1：いじめ・不登校・暴力等の生徒指導の課題を解決する テーマ2：学校と地域が連携して児童生徒の学習意欲を高める テーマ3：地域が学校に協力的になるための情報の共有を進める
	* ファシリテーター 特定非営利活動法人スクール・アドバイス・ネットワーク 理事長 生重幸恵氏 大分大学高等教育開発センター教授 中川忠宣氏
15:40	閉会挨拶

※事業報告書は別途作成しています。

【事例 2】

平成 25 年度「成長分野における中核的専門人材養成の戦略的推進事業」

※大分県における事業名：おんせん県おおいた・別府型ドリームプロジェクト事業

日本を代表する温泉地という地域特性を活かして、ホテルや旅館等の観光産業、医療、大学、経済団体、NPO 法人、行政といった”おんせん県おおいた・別府型ドリームプロジェクト”を形成し、「健康」、「療養」、「アンチエイジング」、「美容」、「ダイエット」という長期滞在型観光客が求める”最高の癒やしと健康”を提供し、加えて、地域住民の温泉による日常的な健康づくりに対応する別府温泉コンシェルジュの育成を目指す事業を受託しました。さらに、温泉地の新規産業や若者雇用を拡大する活性化モデルとして普及を目指すものです。その具体的な趣旨及び内容は以下のとおりです。

詳細は、別途「事業報告書」を作成します。

1. 当該分野における人材需要等の状況、それを踏まえた事業の実施意義

別府市の就業者数は 56,629 人（平成 17 年）であるが、そのうち 46,102 人（同）は 3 次産業へ就業しており、地元大学等の卒業生の多くは地元の観光業を主とする 3 次産業への就業を目指している。

しかしながら、長引く景気低迷、人口減少による需要減少、娯楽に対する消費者ニーズの高度化・多様化等といった外部環境に加え、団体客依存体质、過大投資による過剰債務、価格競争激化、後継者難といった内部環境があり、卒業生をはじめとする地域人材の地元観光産業等への就職は容易ではない状況にあることから、日本の温泉地を活性化させるには新たな基軸の専門人材育成が求められている。

そもそも日本には 3,100 カ所を超える温泉地があるが、別府の源泉数は 2,511ヶ所で日本の総源泉数の約 10 分の 1 を占め、湧出する湯量は 87,576 キロリットルにも及び、さらに温泉の泉質はその主成分によって大きく 9 (11) 種に分類されるが、別府にはそのうちの 8 (10) 種が湧き出る。

(参考HP) <http://www.city.beppu.oita.jp/01onsen/03hyakka/data.html>

また別府はアジアからのアクセスの良さにより韓国、中国といった外国からの観光客が多いことから、国際会議観光都市にも認定されている。

このような立地特性の良さに加え、そもそも日本人が生まれながらにして持っている、相手に喜んでもらうために心を尽くすという「おもてなしの心」は世界に誇る「強み」といえる。

そこで、本事業においてはこの「おもてなしの心」を持つ“別府温泉コンシェルジュ”へと育成するためのカリキュラムづくりを行い、日本の温泉地を牽引する新たな成長分野の提案と中核的専門人材の育成を育成する。

2. 取組が求められている状況、本事業により推進する必要性

別府は国籍や老若男女を問わず、誰もが楽しめる温泉観光地であるが、観光入込客をみると、平成 23 年は 7,881,241 人と前年の 7,932,851 人から割り込んでいる。しかしながら、観光客が求める声には「健康」、「療養」、「アンチエイジング」、「美容」、「ダイエット」が多く、総じて”最高の癒やし”を求める長期滞在型の観光客が増えていると言える。

このような長期滞在者に対する現在の受入体制は各事業者における点レベルにとどまっており、本来、日本人が持っている「おもてなしの心」という強みを活かした線や面レベルで”最高の癒やし”を提供しているとは言い難い状況にある。

さらに、100 万人マーケットである県民への対応、別府市民を中心とした温泉を通した日常的な健康づくりの市政が求められている。

温泉を中核とした観光都市づくりを進めるには、外国人へのおもてなしのための言語取得、別府の

特徴である温泉と医療、運動、文化、食等をトータル的に案内できる中核的専門人材の養成が求められ、専門人材となるための基礎知識と別府への愛着等を育成する義務教育も欠かせない。

3. 事業内容

(1) 会議（目的、体制、開催回数等）

①「おんせん県おおいたドリームプロジェクト」中央委員会議

目的：本事業目的の共有、事業進捗状況の確認、課題・問題点の共有、長期ビジョンの形成

体制：10名の委員を招聘し推進した。

開催回数：4回（9月、12月、2月2回）

②プログラム作成・評価委員会

目的：温泉コンシェルジュ育成に関する専門科目の作成・検討

体制：12名の委員を招聘し推進した。

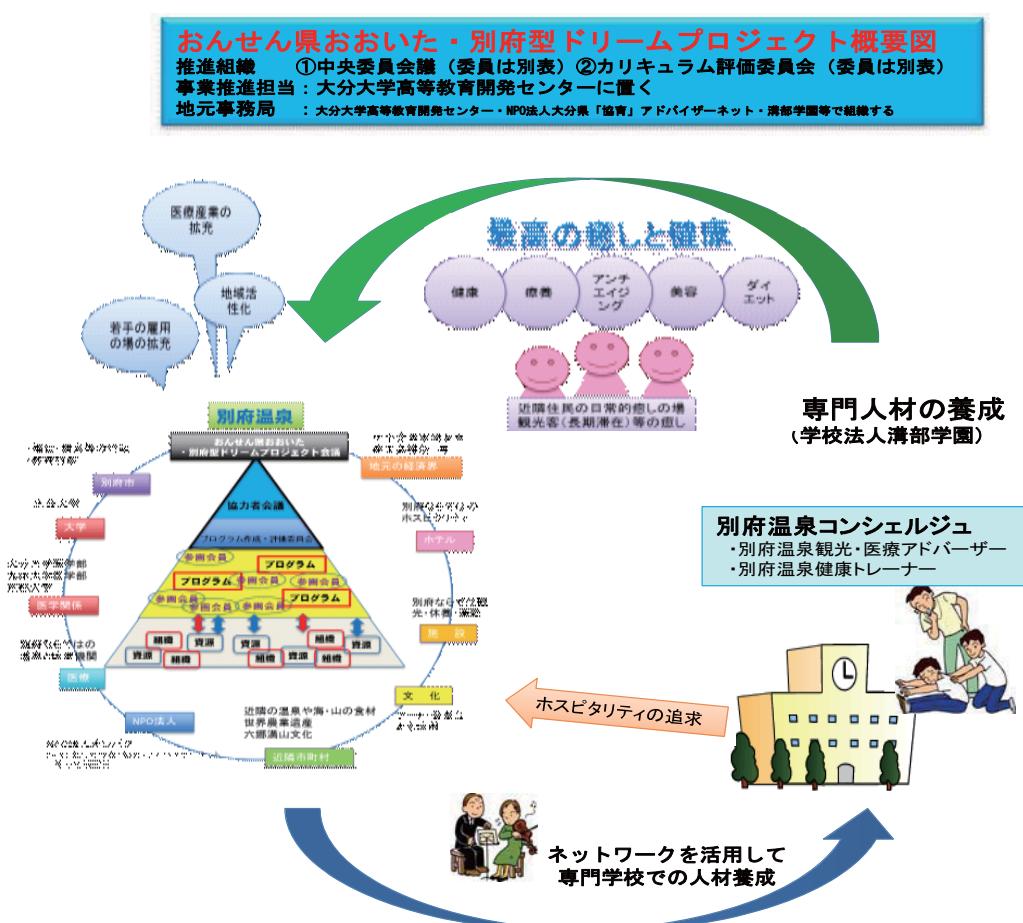
開催回数：3回（9月、2月、3月）

(2) カリキュラム作成及び広報媒体作成

①シラバス及び内容を詳細に計画した授業計画を作成した。

②啓発・募集のための「チラシ」及び「ガイドブック」を作成・配布した。

事業名：温泉と健康・医療をつなぐ別府温泉コンシェルズ養成事業
別府の温泉で地域と日本を元気に？別府の新しい魅力発見？



温泉コンシェルジュ養成専門科目一覧

【1年生対象科目】 * 別府に関する基礎的な学びをする

	科目名	履修内容	時間数	単位数
1科目目 金3時限	「温泉コンシェルジュ基礎」	温泉コンシェルジュに求められるものを理解し、別府の魅力を提供する総合的な接客サービスの内容を学びます。	講義 15コマ	2単位
授業計画	1. 温泉コンシェルジュに求められるものを学ぶ。 (1時限～11時限) ①コンシェルジュに必要なもの (1～6) ②(別府) 温泉コンシェルジュに必要なもの (7～11) 2. 顧客へのプログラムの提案演習 (12時限～15時限) ①温泉コンシェルジュの魅力 P R (12～13) ②温泉コンシェルジュが発信する別府の魅力 (14～15)			
2科目目 金4時限	「別府の歴史と発展」	別府の歴史から自然・人物・文化・産業に関する発展の知識を持ち、各種資料による別府の学びをします。	講義 15コマ	2単位
授業計画	1. 別府の発展の歴史を探る。 (1時限～13時限) ①別府を豊かにした自然を探る (1～3) ②別府に関わった人物を探る (4～5) ③別府が生み出した文化を探る (6～8) ④別府を発展させた産業を探る (9～13) 2. これからの別府の発展のポイントを考える。 (14時限～15時限)			
3科目目 夏季集中	「まちづくりと景観」	別府のまちづくりや景観についての一定の知識を持ち、他の地域と比較した特色を学びます。	講義 15コマ	2単位
授業計画	1. 「地域とは・都市とは」について学ぶ。(1時限～3時限) ①地域・都市の誕生と定義(1) ②地域・都市計画の機能と役割(2) ③別府の地域・都市計画の特徴(3) 2. 「まちづくりとは」について学ぶ。(4時限～6時限) ①まちづくりの定義と各地のまちづくり(4) ②別府のまちづくりの特徴(5) ③特定エリアを再生するまちづくりの要件(6) 3. 観光資源としての景観について学ぶ。(7時限～10時限) ①別府の地域資源や産業の特徴と景観の関係(7～8) ②別府の景観の特徴(9～10) 4. おすすめ風景カルテの作成と活用について学ぶ。(11時限～15時限) ①おすすめ風景カルテの作成方法の検討と作成(11～13) ②カルテを用いた情報提供の実践(14～15)			
4科目目 夏季集中	「温泉学」	温泉の泉質や効能等の基礎知識を学ぶとともに、温泉を活用した産業、世界の温泉情報を学びます。	講義 15コマ	2単位
カリキュラム 内容	1. 温泉学の概要を学ぶ。(1時限) 2. 温泉科学を学ぶ。(2時限～4時限) 3. 別府の温泉地としての魅力、温泉活用方法を学ぶ。(5時限～6時限) 4. 温泉と健康を学ぶ。(7時限～8時限) 5. 別府の地形と地質を学ぶ。(9～10時限) 6. 温泉学フィールドワーク(11時限～12時限) 7. 別府温泉とツーリズム(13時限～14時限) 8. (別府)温泉のまとめ。(15時限)			
5科目目 夏季集中	「おもてなし演習」	宿泊施設における職能別の職務を体験し、宿泊施設の業務と、業務ごとのおもてなしの心を学びます。	演習 30コマ	2単位
カリキュラム 内容	1. 宿泊施設の職能別の職務をおもてなしの心を学ぶ。(1時限～28時限) ①メンテナンス業務演習(1～7) ②食事サービス業務演習(8～14) ③厨房調理等補助業務演習(15～22) ④フロント業務演習(23～28) 2. 職場のなかのコンシェルジュの機能と役割を学ぶ。(29時限) 3. コンシェルジュとしての商品サービスの企画。(30時限)			

【2年生対象科目】 *専門的な学びと実習を行い、コンシェルジュとして資質・能力を養成する

	科目名	履修内容	時間数	単位数
1科目目	「温泉の基礎」	温泉の様々な利用を知り、別府における温泉産業、サービス、情報発信等を学びます。	講義 15コマ	2単位
カリキュラム 内容	1. 別府の温泉（観光）情報発信の方法を学ぶ。（1時限～6時限） ①必要とされるWeb上での情報発信法（1～3） ②街づくり、人づくり、場づくりに取組の手法と情報発信（4～6） 2. 別府温泉による癒しや美容を学ぶ。（7時限～8時限） 3. 別府の温泉産業を学ぶ。（9時限～13時限） ①地域に密着した職人技を磨く現場から伝統工芸に取り組む職人・施設（9～11） ②温泉熱を利用した産業（12～13） 4. 別府温泉のサービスメニューを学ぶ。（14時限～15時限）			
2科目目	「温泉コンシェルジュ実習Ⅰ」	別府市内の地理や交通手段を学び、温泉を活用した・PRするイベントや温泉体験等の別府案内ができる力を育成します。		演習 30コマ
授業計画	1. 別府・大分県の観光を知る。（1時限～6時限） ①別府市内の観光素材（1～3）②大分県内の観光素材（4～6） 2. まちあるき・温泉巡り体験（7時限～18時限） ①まちあるき体験（7～12）②温泉巡り体験（13～18） 3. 観光案内実習（19時限～30時限） ①対話の心得とシミュレーション（19～21）②観光現場での案内実習（2限～30）			
3科目目	「温泉コンシェルジュ実習Ⅱ」	別府温泉の観光・健康・医療・食等のコンシェルジュとしての総合的な企画プログラムを提案できる力を育成します。	演習 30コマ	2単位
授業計画	1. 宿の想いを知り過ごし方を提案する。（1時限～15時限） ①宿の想いを知る（1～3）②宿周辺のマップ作り（4～9） ③宿のニュースレター作り（10～15） 2. 宿の新しいプログラムを創る。（16時限～30時限） ①プログラム企画（16～24）②プログラム体験実習と交流会（25～30）			
4科目目	「温泉医療療養指導」	温泉による健康・医療について、温泉の様々な効能と泉質の関係を学びます。	講義 15コマ	2単位
授業計画	1. 温泉医療についての総論を学ぶ。（1時限～6時限） ①医療における温泉の意義（1～2）②日本の温泉の国際的な位置づけ（3） ③温泉の医療効果の根拠（4～6） 2. 温泉が個々の代表的な疾患に対して及ぼす影響について学ぶ。（7時限～15時限） *循環器系疾患、呼吸器系疾患、免疫・アレルギー疾患、ストレス、代謝性疾患、肝臓 ・消化器疾患、婦人科・泌尿器科疾患、呼吸器系疾患、骨・関節疾患（予定）			
5科目目	「健康トレーニング」	温泉を活用した健康トレーニングや温泉との関係に限らず広く癒しや健康増進のトレーニングプログラムを学びます。	講義 15コマ	2単位
授業計画	1. 健康・体力づくりやリハビリテーションに関する基本的な知識を学ぶ。（1時限～4時限） 2. 温泉プールを活用した健康・体力づくりやリハビリテーションの方法を学ぶ。（5時限～10時限） ①温泉プールを活用した健康・体力づくりの方法 ②温泉プールを活用したリハビリテーションの方法 3. 別府のトレーニング・医療・リハビリ施設の訪問学習（11時限～13時限） 4. 温泉を活用した健康・体力トレーニングやリハビリに関する個別の課題を想定して課題解決に向けたプログラム作成（14時限～15時限）			

評価規準

※【具体的な目標】の記載内容が「評価規準」のどの内容に近いかを検討して合致する項目を参考にして、具体的な到達目標を記載し、記号と数字を記載する。ない場合は(新)と記載する。

A 知識	①別府の歴史・人物・文化・自然に関する一定の知識がある。
	②別府の街づくりや特色ある産業についての一定の知識がある。
	③温泉の泉質や効能等の基礎知識がある。
	④日本の接客業における職務ごとや総合的なおもてなしの心や業務が分かる。
	⑤温泉コンシェルジュに求められるものを理解している。
	⑥温泉の様々な利用に関する温泉産業、サービス等の一定の知識がある。
	⑦別府市内の地理や交通手段の知識がある。
	⑧別府温泉の観光・健康・医療・食等を総合した企画ができる。
	⑨温泉による健康・医療について、温泉の様々な効能と泉質の関係の知識がある。
	⑩温泉を活用した健康トレーニングや、温泉との関係に限らず広く癒しや健康増進に関する知識がある。
B 問題解決力	①考え、生み出す力がある。(企画力・コンセプトワーク・柔軟な思考力)
	②物事をわかりやすく説明して伝えることができる。(プレゼンテーション能力)
	③情報や知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。(論理的思考力)
	④科学的な根拠(統計・分析等)に基づいて現象を分析・理解し表現することができる。
	⑤問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。
	⑥多様な情報を収集・分析して適切に判断して効果的に活用できる。
	⑦中長期的な視野に立ち「グランドデザイン」や「戦略」を立案できる。
	⑧地域の目指す方向に照らして、顧客へのプランを企画できる。
	⑨地域への理解に基づいて地域社会の置かれている状況を読み解くことができる。
C 対人関係能力	①他人の話に耳をよく傾けることができる。
	②他者を理解し、多様な価値観を受容することができる。(コミュニケーション力)
	③信頼関係を築き、親和的な態度で接することができる。
	④職場や地域での人的ネットワークを構築し、活用することができる。(ネットワーク力)
	⑤人々を説得し、動かすことができる。(リーダーシップ)
C 自己開発能力	⑥自分で選び、決定し、行動することができる。
	⑦自分の行動によって生じる責任を自分で背負うことができる。
	⑧多様な文化や価値観の中で状況を改善しようとすることができる。
	⑨既存の枠組み(態度・慣習・慣例等)にとらわれず、新たな変革を起こそうとすることができる
C 適正	⑩知識を生かし、職場や地域でのネットワークを活用した、より良いプログラムを提供をしようと努力する。
	⑪別府の街づくりや特色ある産業について他の地域と比較するなどして、特色を説明できる。
	⑫温泉を活用した産業、世界の温泉情報を説明できる。
	⑬日本や世界のおもてなしの心と作法(マナー)を基にした、窓口業務としての接客サービスができる。
	⑭別府の魅力を提供する総合的な接客サービスができる。
	⑮別府における温泉産業、サービス、情報発信等を説明できる。
	⑯温泉を活用した・PRするイベントや温泉体験等の別府案内ができる。
	⑰別府温泉の観光・健康・医療・食等の総合的な企画プログラムを提案できる。
	⑱温泉による健康・医療について、温泉の様々な効能と泉質の関係を説明できる。
	⑲温泉を活用した健康トレーニングや温泉との関係に限らず広く癒しや健康増進のトレーニングに関するプログラムを説明できる。

第3節 大分大学生の学びの事例報告

1. 地域住民の中で学ぶインターンシップ授業に関する調査分析の報告

【事例1】社会人基礎力の育成に係るインターンシップと学習ボランティアの比較研究

はじめに

本研究は、キャリア形成を目的として教養教育科目として平成20年度に開講した「学習ボランティア入門」と、平成24年度に開講した「インターンシップ授業」の効果に関する比較研究の一端を報告するものです。1つは「学習ボランティア入門」で設定した「キャリア形成」に関する調査項目（山口県立大学を参考）の比較と、「インターンシップ授業」で調査した「社会人基礎力」に関する調査項目（キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会へ委託）による比較から、2つの授業において形成される共通に育成される力を考察することとしました。

1. 本授業で規定した用語の範囲

幅広い様々な解釈がされている2つの用語について、本授業では以下の意味に限定し、先進的研究を参考にして、それぞれの一定範囲に関する調査をおこなったものです。

- ①キャリア形成に関しては「自分で考え、判断し、実践できる力」という、生きて行くうえで身につける基本的な資質・能力を一定の観点から調査したものです。
- ②社会人基礎力に関しては「自分で考え、判断し、実践する」力に加えて、職業人として社会から求められる基礎的な力としての「前に踏み出す力」「考え方」「チームで働く力」の3つの力に関して、その一部を調査したものです。

2. 取り組みの経緯

(1) 教養教育科目「学習ボランティア入門」の開講の経緯と内容

全国の大学で開講している授業から「ボランティアに関する授業」を探し、山口県立大学の取り組みを参考にして、本学として「学習ボランティア」に関する授業を開講するために、次の観点から整理しました。

- 1) 学習ボランティアのとらえ方 2) 高等教育における学習ボランティア
- 3) 学生主体のボランティア活動 4) 授業の狙いと展開（カリキュラム）

(2) 教養教育科目「中小企業の魅力の発見と発信」の開講の経緯と内容

平成24年度からの文部科学省の「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業」に係る実践的インターンシップを行う教養科目として開講しました。講義・職場体験・取材活動・企業の魅力の発信の4つで構成し、キャリアの基礎的な力を学ぶ授業です。

3. 平成25年度の取り組みからの社会人基礎力の育成に係る比較

(1) キャリア形成に関する調査から概要を見る

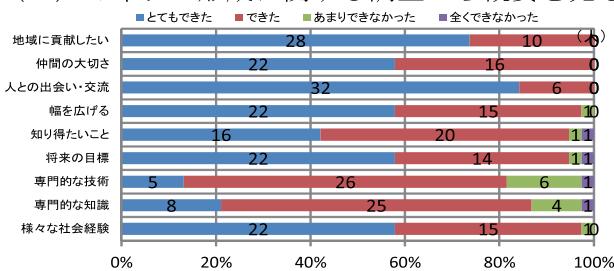


図1 学習ボランティア入門における期待達成度 (N=38)

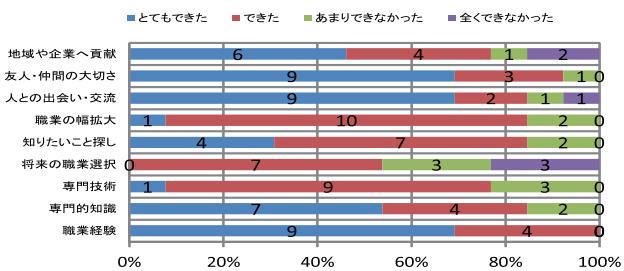


図2 インターンシップ授業における期待達成度 (N=13)

「キャリア形成」に関する項目（山口県立大学参考）について考察すると、図1及び図2からわかるように、キャリア形成に関する項目の大まかな傾向として、両授業ともほぼ目的が達成できていると言えると

考えます。「専門性」に関する内容は両授業とも達成度が低くなっています、「選択の幅」「将来の職業や目標」に関する達成度も他の項目に比べて若干低くなっています。

(2) 社会人基礎力に関する調査から見る

2つの授業の1時限目の調査と、講義及び実地体験、事後学習終了後の社会人基礎力に関する項目の比較について、「意識の変化」と3つの「力」毎に例を1つずつ示したものが図3～図6です。事後の赤グラフが「とても」「まあ」(左側)へ増加していることが効果を見る視点です。

※■ 事前調査 ■ 事後調査

①意識の変化：「大学での学びの関係性」

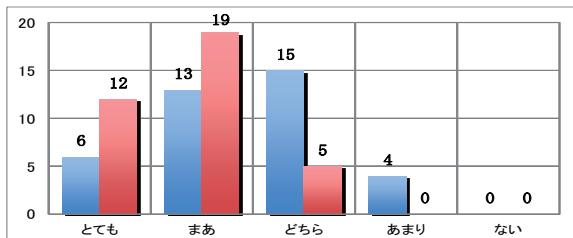


図3-1 学習ボランティア入門

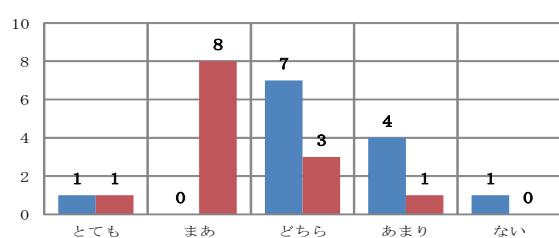


図3-2 インターンシップ授業

この図から、2つの授業とともに、授業前はあまり意識が強くなかった「これからの大学での学びとの関係性」が、事後には「わかった」という方向へ(左側)の大きな変化があったことがわかります。この傾向は平成24年度のインターンシップ授業でも全く同様でした。

②前に踏み出す力：「失敗を恐れずやってみる」

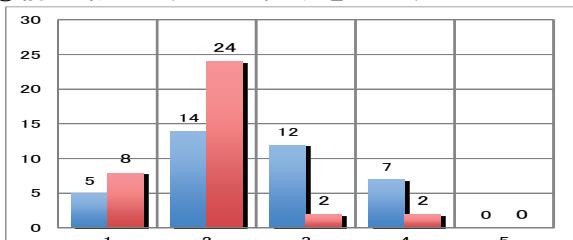


図4-1 学習ボランティア入門

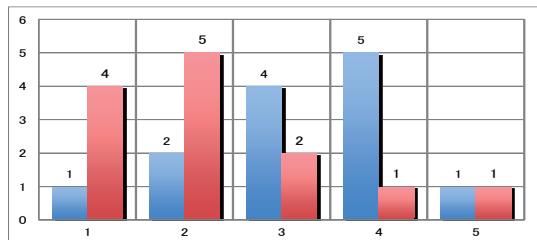


図4-2 インターンシップ授業

③考え方：「他者の意見を積極的に求める」



図5-1 学習ボランティア入門

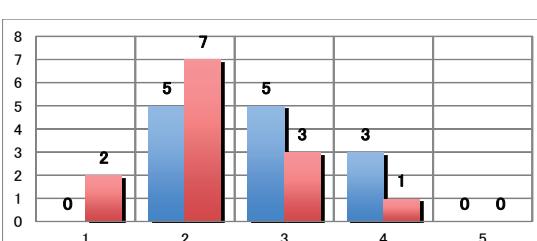


図5-2 インターンシップ授業

④チームで働く力：「相手の意見を正確に理解する」

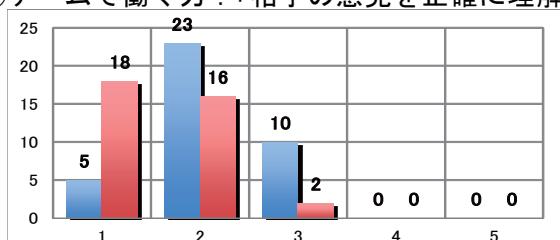


図6-1 学習ボランティア入門

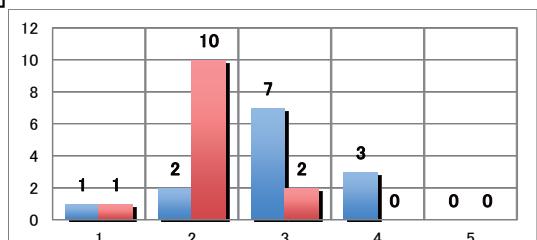
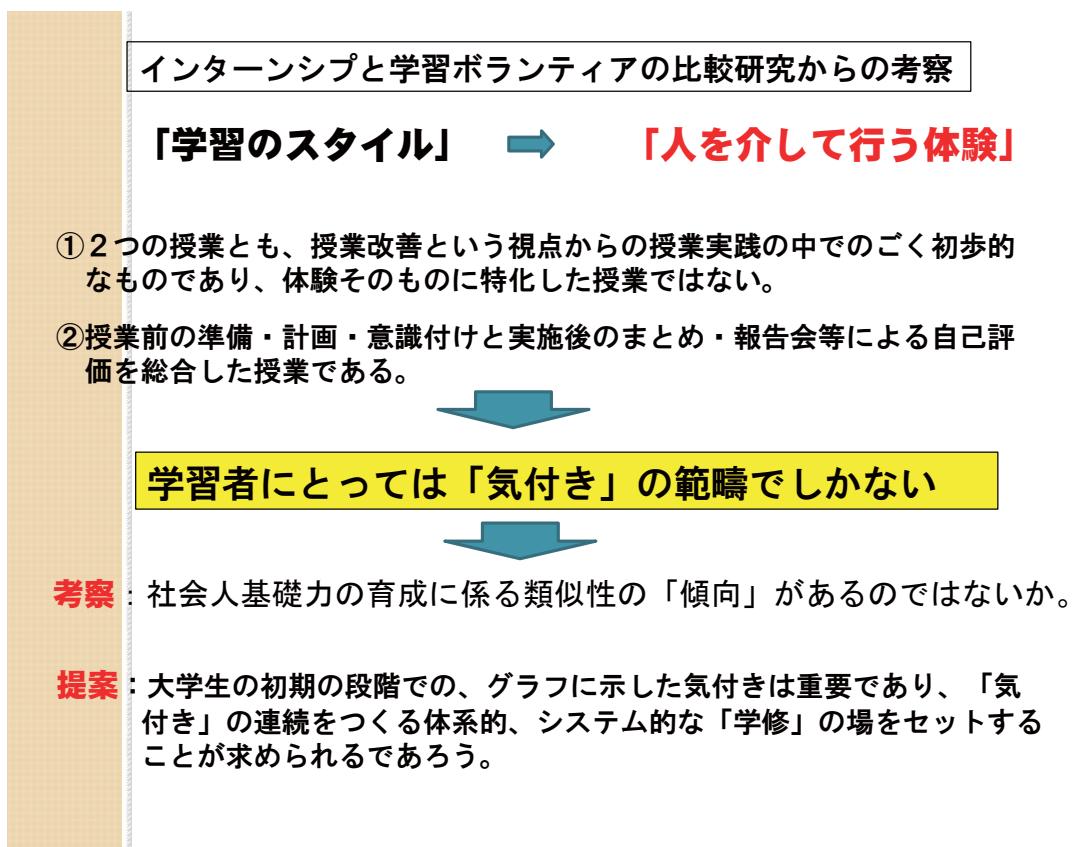


図6-2 インターンシップ授業

図4から図6は、社会人基礎力としてあげた3つの力に関して、本授業で育成できるであろうとする内容について、2つの授業共に社会人基礎力の形成へ効果があったと考えられるものを1つだけ示した。各グラフから見てわかるように、事後の調査によって「とても」「まあ」が増加していることや、項目によっては、事前から大きな期待があったが「期待どおり」「期待以上」という成果も見られることがわかった。

4. 考察

今回の分析はデーター数が少ないので「傾向と考えられる」ことについて報告しました。しかし、「人を介しておこなう体験」という共通性から、本データーを考察しても「学習ボランティア」と「インターンシップ」による学びの成果の類似性があると言えるのではないでしょうか。今回の比較研究は、授業改善という視点からの授業実践の中でのごく初步的なものであり、体験そのものに特化した授業ではなく、授業前の準備・計画・意識付けと実施後のまとめ・報告会等による自己評価も一括したものであるために、学習者にとっては「気付き」の範疇でしかないところが考えられます。しかし、この「気付き」が大切であり、「気付き」の連続をとおして成長していくと考えます。今回見ることができた、大学生の初期の段階での、グラフに示した気付きは重要であり、大学教育としての体系的、システム的な「学修」の場をセットすることが求められるのではないでしょうか。



【事例2】 キャリア形成に有効的に働くインターンシップ授業に関する研究

本研究は、学生のキャリアデザインの基礎的な力を学ぶための教養教育の授業を有効的に実施するための1つの方策を提案したものであり、1点目にカリキュラムの構成と学生の評価、2点目にインターンシップを可能にする条件整備について報告するものです。

学生の進路選択等の視野を拡大し、自分自身の将来についてキャリアをデザインしていくための実践的な学びをし、就職におけるミスマッチをなくすこと、ないし是正することをねらいとしています。未だ職業に関心の無い学生も含めて、単に職業体験ということではなく、インターンシップ（就業体験）を効果的に実施するには、企業や関係団体等との連携を密にすることが重要です。そのことによって、学生のニーズと企業のニーズをマッチングさせ、授業の目的が達成できるという前提で、講義・職場体験・取材活動・企業の魅力発信の4つで構成しており、事前、事後の活動も含めて分析することとした。

1. 科目名 「中小企業の魅力の発見と発信」

2. 対象 全学部1年生～2年生

3. 授業の時期及び事前説明会、受講者数

○集中講義 平成25年8月20日（火）～9月13日（金）

○受講生数 H25年度：13名

4. 授業の到達目標

- ① 授業を通して身につけることができる社会人基礎力（別途評価資料）を有する。
- ②十分な学びの足跡（活動、成果、自己評価、他者評価など）として記録し、職業選択に関する基本的な考え方を、職業と関連づけながら自分の生き方を他者に説明できる。
- ③「職場の魅力、職場の楽しさの重要性、人とのコミュニケーションの大切さ」に関する気づきを、職場体験の関係者・他の受講生との交流をもとに他者へ説明できる。
- ④魅力発信に必要な素材を適切に収集し、受け手（就職活動をしようとする者）にアピールするメディアを制作できる。

5. インターンシップ全体の学習プログラムの概要

(1) 事前説明会及び職場体験先との打合せ

(2) 講義（3時間）

第1活動：大学教員等による事前指導及びインターンシップに関する基礎学習

第2活動：中小企業家による中小企業に関する講義と職場体験先との打ち合わせ

(2) 職場体験

第3活動：中小企業家同友会選定企業（20社選定中、学生が選択）

①1企業あたり2～3名で、3日以内の職場体験（製造・運搬・販売等）

②半日～1日の取材

(3) 演習とまとめ

第4活動：体験先企業の魅力を発信するメディア（ポスター・スライド）の作成

(5) 事後活動：成果発表会（評価）

①作成したメディアの紹介とグループディスカッション

②学習報告ノート「中小企業の魅力の発見と発信の記録」の提出

6. 学生の授業評価

社会人基礎力がどう形成されたか後述することとして、まず、授業への評価について報告します。図1は事前及び授業の4つの構成毎の内容、事後の活動等に関する評価であり、ほとんどの項目で高い評価であることがわかります。特に「職場体験の打合せ」から成果発表会までの項目が高くなっています。また、図2の授業全体の評価においても全ての学生が肯定的に評価しており、期待以上の成果を得られた学生が多くなっていることもわかります。

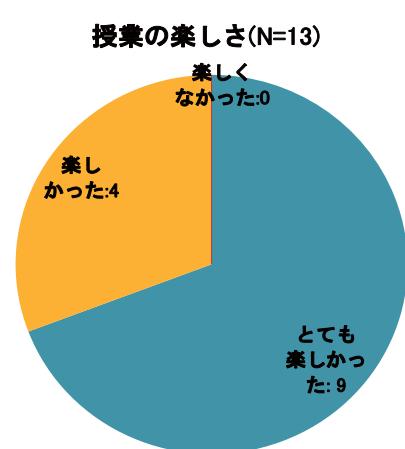
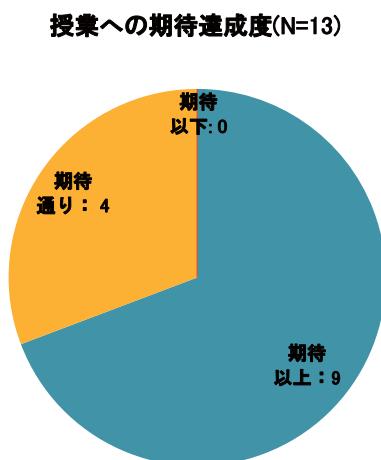
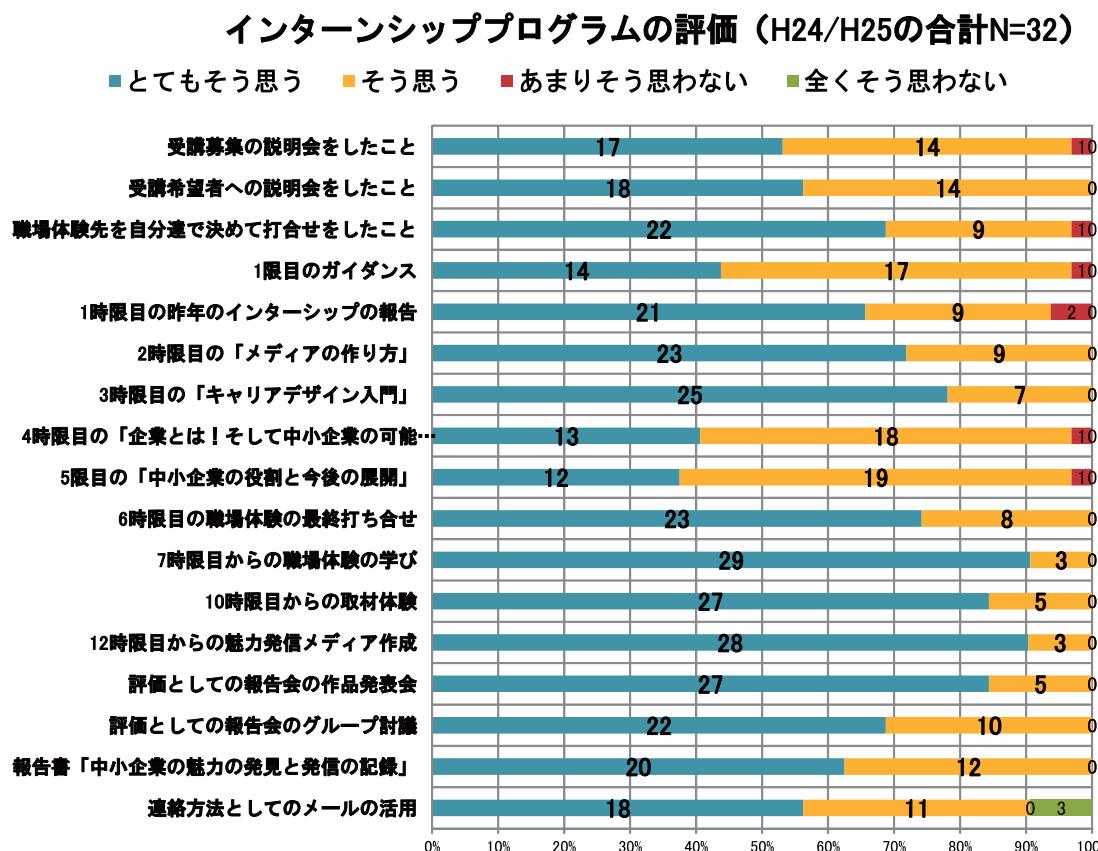


図1 学習プログラム毎にに関する評価

図2 授業全体への評価

「具体的な学び」の内容は、授業ノートの「特に、自分にとって学べたこと」の欄から次の内容に整理することができます。改善点も指摘されていますが、後述します。

①就職活動支援 (ex. 専門科目外を知る・仕事への考え方) になった (57.9%)。

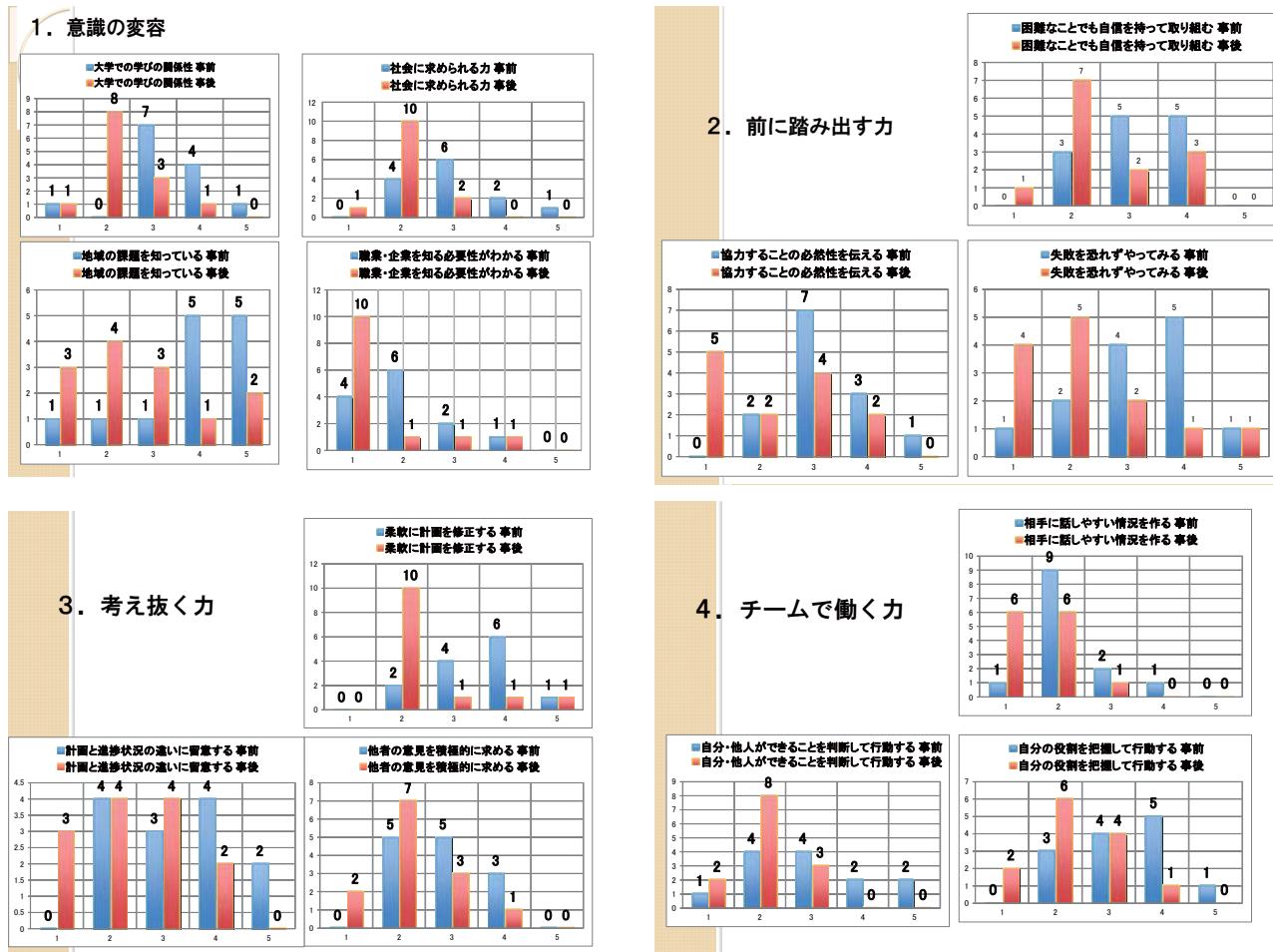
②職業選択の視点 (考え方) を変えることができた(52.6%)。

③中小企業に目を向けることが出来た(47.4%)。

その他、「多くの人(ex. 社会人・学生etc...)と関わることができた(21.1%)」、「社会力 (ex. 調べる・行動・プレゼンetc...) がついた(15.8%)」、社会人のマナー等を学ぶことができた(15.8%)」、「責任の重さ・働くこと (必要なこと) を考えた」(10.5%)」などがあります。

7. 授業前後の調査から見る変化

今回の調査内容は①意識の変容、②前に踏み出す力、③考え方抜く力、④チームで働く力の4つの観点から授業の効果を分析しました。以下、効果が見られた例として、授業開始時と終了時の変化を示した図ですが、授業終了時には「とてもそう思う」「そう思う」が増加している（赤い棒グラフが左に移動している）ことがわかります。このグラフで示した項目以外の多くの項目に、同様の変化がありました。



8. インターンシップ推進体制

(1) 授業の実施体制と役割

こうした地域社会の企業等の教育力を生かした学習プログラムを実施するのは、大学と企業等との日常的な協力体制と相互のメリットを共有していくことが大切です。本授業においてはその前提に立って、以下のような体制によって実施しました。

- ①大分大学高等教育開発センターは、企画・運営、関係機関への依頼・調整等
- ②中小企業家同友会は、講師の選任、職場受け入れ企業の選定、評価活動への参加
- ③大分県「協育」ネットワーク協議会は大学が直接依頼する講師以外の外部講師の選任

(2) 本授業への、大分県中小企業家同友会の願い

中心的に協力していただいた大分県中小企業家同友会とは3年前からの協働体制があり、同友会として以下のような願いに対応できる学びを作っていくことが求められています。

- ①働く事の意義、楽しさを知る。
- ②アルバイトと違う「職業観」を養う。
- ③コミュニケーションの大切さを理解する。
- ④地域の中小企業（中小企業の役割）を知る。
- ⑤経営者の生きざまから企業家精神を学ぶ。
- ⑥生きることや働くことについて、主体的に考える機会とする。

最終的には、企業に就職してすぐに生かされる（職務遂行）の力と、グレードアップしようとする人間性を求めていることが分かります。

9. まとめ

以上のようなインターンシップ授業をおこなって、最終的な考察を次のようにまとめることとした。

大学関係者を含め、教育者は、学習者にとっては「気付き」の範疇でしかない授業を、どう継続的に積み重ね、社会人基礎力として学修できるカリキュラムを構成するかが、求められているのではないかでしょうか

- ①授業改善という視点からの授業分析で、ごく初步的な考察である。
- ②社会人基礎力という観点からのキャリア形成を、授業プログラムを基にして作成した「見込まれる効果」を考察したものである。



考察 : ①社会人基礎力の育成に係る一定の効果が推測される。

- ②キャリア形成につながるカリキュラムと継続的な学修の必要性
- ③地域社会との日常的なネットワークが必要

課題 : ①インターンシッププログラム（目的と方法）とは何か

- ※座学と体験（新しい体験？専門的な学びを生かした体験？）をどうセットするかが課題
- ②「インターンシップ」と「職場体験」と「実習」の関係
- ③「キャリア形成」と「社会人基礎力」「学士力」との関係の総合的な概念図

2. 大分大学生学習ボランティアサークル「フォーバル」の紹介

【事例1】 読み聞かせサークル「結（ゆい）」

「ゆい（結い）」人と本を結ぶ読書支援プロジェクト事業

「結（ゆい）」指導者 佐藤 真由美

平成25年10月30日、大分大学高等教育開発センターと大分大学学術情報拠点（図書館）主催による講演会に共催として携わりました。これは高等教育開発センターの「協育」ネットワーク推進事業及び図書館の1周年記念イベントとして行われたものです。

子どもと本を結ぶあなたへ あまんきみこ氏 童話作家の想い～一冊の本ができるまで～

この講演会には定員をはるかに超える申し込みがあり、参加を受け入れさせていただいた方々にもお断りさせていただいた方々にも大変ご迷惑をおかけしました。また、「あまん」氏にも、中津での講演会の後、大変無理なお願いをして大分まで来ていただきました。限られた時間の中での企画になってしまいましたが、読み聞かせのボランティアの皆さん方及び学生さんたちの熱い想いに触れさせていただき、我々のこれから活動に大きな力をいただきました。

講演会終了後の交流会にも多くの方が参加してくださいました。その出会いを大切に、読み聞かせ及び読書支援の輪を広げていきたいと思っています。また、我々の活動が「子どもと本を結ぶ人たち」の『いつでもどこでも繋がることのできる交流の場』の足掛かりになれればと考えています。

講演会及び交流会の詳細につきましては、

第1章 教育の創造～地域「協育」のススメ・その3～

～童話作家 あまんきみこ氏の世界から学んだもの～ をご覧ください。

～読み聞かせボランティアグループ「ゆい（結い）」～

「ゆい（結い）」人と本を結ぶ読書支援プロジェクトには、「協育」アドバイザーネットの活動のひとつである人材育成事業から結成された「ゆい（結い）」読み聞かせボランティアグループ（2012年結成）があります。大学の学習支援ボランティアの講義の中で「読み聞かせ」の講習を受けた学生さんたちを中心に活動しています。毎月第2土曜日に2時間





大学開学祭にも積極的に参加しています。「子どもルーム」や「公民館」での読み聞かせは、土曜日ということで平日に比べて参加者は少ないですが、お父さんに連れられたお子さんたちもいて、緊張しながらも楽しい時間を過ごしています。

今年度は、自作の絵本の読み聞かせも体験しました。来てくれるお子さんの年齢が直前までわからないので、不安もあったようですが、一生懸命聞いてもらえて感動していました。

また、「梅園の里」で開催された第6回地域発『活力・発展・安心』デザイン実践交流会で活動発表し、その夜には、参加者の方々に絵本の読み聞かせをしました。

さらに「あまんきみこ」氏の講演会においても受付をはじめ、講師紹介、謝辞などを担当しました。また、講演会後の交流会においては、各グループのファシリテーターとして活躍し、役目を果たしながら、地域で活躍しているボランティアの方々から生の声を聞くことができ、とてもよい勉強になったと思います。

の勉強会を行い、自分たちが読んだ絵本やお薦めの絵本を紹介したり、絵本への想いを語り合ったり、また絵本の評論などを読み合うなどして勉強を続けています。

実際の活動としては、大分市の府内子どもルームを中心に公民館や小学校、育成クラブなどで、絵本の読み聞かせをしています。また、「協育」アドバイザーの事業である「パパ出番です！育メン読み聞かせ講座」や別府市立朝日中学校での「朝日村フェスタ」、大分



【事例2】地域住民との交流を進める「WITH」

学生団体 WITH 代表 大分大学 教育福祉科学部 2年 梶原里穂

学習ボランティアフォーバルに所属している「WITH」というボランティアグループです。このグループは今年ご卒業される社会福祉コースの先輩方3人が2年前に立ち上げました。先輩方が当時受けていた講義の中に、「地域福祉論」というものがあり、その講義の内容に触発されて、自分たちで立ち上げたそうです。「WITH」というグループの名前には、「地域の人たちと“一緒に”地域をつくっていく」という意味が込められています。活動の目的は、大きく分けて2つあります。1つ目は、大学生と地域のつながりをつくるということです。つながるきっかけを与えるという意味です。そして、2つ目は、災害時に助け合いの出来る地域づくりを行うことです。これは、単に防災訓練や、災害マップをつくる、という意味ではなく、災害があったときにお互いを助け合えるような関係性の構築をしていく、という意味です。

現在、メンバーは、1年生6名、2年生3名、3年生1名の計10名です。週1回のミーティングでイベントの企画や準備、イベント後の反省を行っています。今年度は、WITHのメンバーでの研修、昔の遊び教室、地域座談会などの活動を企画しました。また、地域で行われるイベントへの参加も積極的に行ってきました。

● WITH メンバーでの研修



新メンバーが入った5月、WITHのメンバーで研修を行うことになりました。これまで行ってきた「浴衣の着付け教室」や「焼き芋工作教室」などの活動がどのような内容だったのか、また、どのような反省点が見つかったのか共有しました。また、なぜWITHの活動が必要であるのか、WITHの目的や意義についても考えました。

● 昔の遊び教室



むそじ会と呼ばれる老人会の方と大学生で行いました。

「けん玉・コマ」「カルタ」「おはじき」の3つのブースをつくって、ローテーションしながら行ってきました。

大学生も真剣になって遊んでいました。

● 地域座談会



これまで、自分たちが「やってみたい」と思うイベントを企画してきたのですが、一度、地域の「声」を聞いてみよう、ということで、むそじ会、サロン、子ども会の親御さんを招いて、地域座談会を開催することになりました。「現在の旦野原地区の問題点について」「どのような地域を望むか」という論点で話し合いました。ここで得られた地域の「声」を今後の活動に生かしていきたいと思っています。

● 挨拶ポスターの作成



地域座談会で出た意見を基に、地域の方と一緒に挨拶ポスターの作成に取り組みました。座談会では「挨拶をしても返してくれない大学生がいる」「こちらから声をかけるのにも勇気がいる」という地域の方の意見がある一方で、「大学生、高齢者関係なく、地域住民ひとりひとりが、自分から挨拶をしよう、という意識が大切なではないか」という意見も出了しました。そこで「そのような意見を活かそう」という地域の方の呼びかけがあり、このような挨拶ポスターをつくる流れになりました。このポスターは、大学生がデザインしたもので、近日中に地域に掲示される予定です。

● 地域イベントへの参加



だんご汁づくり、餅つき大会など、地域で行われるイベントにも積極的に参加しました。写真はだんご汁づくりの様子です。だんご汁の具には、白菜と里芋と大根、ニンジンなどが入っていました。地域の方に作り方を教えていただきながら、楽しく活動することができました。

来年度も地域で行われるイベント把握に努め、積的に参加していきたいと思います。

これまで様々なイベントを企画し、私自身は、地域の方との交流も増えてきました。これまで、イベントの度に、大学生に参加を呼び掛けてきましたが、なかなか人が集まりませんでした。WITHのメンバー以外の大学生にも地域の人とつながりをもってもらうために、私たちにどのようなことが出来るのか、これからしっかり考えていきたいと思います。

【事例3】別府市出身の学生による、後輩の小中学生の学びを支援する「コネクト」

サークル名 「コネクト（繋がり）」

リーダー 吉野 葵（経済学部）

私たちは今年の2月から、別府市の小学校や中学校への学習支援を行っています。学習支援を行っている大学生は、別府出身の大分大学の学生です。同じ別府市で育った後輩である子ども達の成長に、私たちが携わることで何か子ども達に良い影響を与えられたらという思いがサークルの発足に繋がりました。私たちの小学生や中学生時代に気づかなかったことなど、今になって「そう一か・・」と思うことなど、子どもたちと関わりながら伝えていきたいと思っています。

サークル名は「コネクト」。この「コネクト」という名前には、「人と人との繋がりを大切にしていきたい」という思いを込めました。学習支援といつても、勉強を教えるだけではなく、子どもたちと一緒に遊ぶことで思いやりの心を育てたり、私たちの子どもの頃の遊びを教えたりと、勉強や遊びを通して友達の大切さや、別府の素晴らしさなど、様々なことを子ども達に伝えることを目標にしています。

～これまでの活動の感想～

子ども達とのふれあいを通じて、私達も学ぶことがたくさんあります。本当に子どもは素直で、私達が大人に近づいていくにつれて言えなくなってしまったことを「さらっ」と言ってくれます。その中で私自信、先生や大学の友人から何度か注意を受けたことを子ども達に指摘されることがあり、とてもためになりました。また、子どもの人を見る目には驚かされることが多々ありました。子ども達は「このお姉さんにはこれをして大丈夫」「このお兄さんにはこれはしてはいけない」というような、人に接する時のコツを短時間で発見することに非常に長けています。このことから第一印象がとても大切なことを私は学びました。さらに、私たちの性格にあわせた子どもたちの気遣いも感じられ、心温まることがあります。

もちろん、私たちが子ども達の輪の中に参加することで、子ども達のためになることも沢山あります。最初に、子ども達と一緒にお弁当を食べた時に、私がどこのテーブルでお弁当を食べるのかという事で女の子達が揉めてしまいました。しかし、私が困っている姿を見て、高学年の女の子は譲り合いが出来ない低学年の女の子を注意し、低学年の女の子は一番小さな女の子に譲ってあげることが出来ました。私は、結局2つの机を行き来することにし、譲ることの出来た女の子を「偉いね」と褒めました。すると、譲られたほうの女の子は、今度は私が譲って褒められたいという気持ちにならしく、次にお弁当を食べる時には友達に譲っていました。し



かし、これは学校の先生がしてしまうと子ども達は素直に受け取ることが出来ないこともあります。大学生という立場は非常に子ども達と接しやすい立場です。また、学校の先生達には相談できないような話も、大学生には相談することが出来るようです。

子ども達の成長に携わり、自分も成長したいと考えている大学生！ 参加を心よりお待ちしています。

別府出身の大分大学生の皆さんへ

サークル名「コネクト（繋がり）」

★ 別府市内の「小・中学生の学び支援サークル」へのお誘い ★

【内 容】 学習支援 スポーツ活動 野外活動支援 ピア活動

お楽しみ会企画運営 など

※サークルのメンバーで考えましょう

【活動時期】 長期休業 土曜日 日曜日 その他

※できる人ができる時にできることをしましょう

一緒に活動してくれる仲間を募集しています
別府の子ども達の教育に携わってみませんか？

【リーダー事務局】 大分大学経済学部2年 吉野貴

〒870-1192大分市大字豊野原700番地

【指導教員】 大分大学高等教養開発センター

※連絡先 教授 中川忠宣

電話/FAX: 097-554-6027 E-mail: nakagawa@oita-u.ac.jp

【支援団体】 NPO法人 大分県「協育」アドバイザーネット

※事務局長 宮道栄和子

電話 / 090-8225-3659

E-mail: kyotaku@nuukyaku-u-advisor.net

○● 事務局は毎週水曜日に打合せを行っています ●○

【場 所】 教養教育棟の2階高等教育開発センター室1

【申し込み】 切り取り欄から下の用紙に必要事項を記入して、気軽にお送り下さい。

※都合の悪い方は指導教員までメールまたは持参お願いします。

——切り取り欄——

名前(ふりがな)	
住所	〒
メールアドレス	
電話番号	自宅:
	携帯:
活動の可能な曜日・日程	

第3章大分県教育委員会が進める「協育」ネットワークの推進について

第3章では、まず1では、大分県教育委員会が進める「協育」ネットワーク構築に関する、市町村事業や県事業の現状、研修事業を報告します。さらに2では、大分県立社会教育総合センターの調査研究の報告を紹介します。

1 大分県における地域「協育」推進の取り組み

＜大分県内の「協育」ネットワークの状況等について＞

大分県教育委員会では、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たすとともに、三者が連携・協働して子どもの育成に取り組むため、「協育」ネットワークの充実、深化に取り組んでいます。

(1) 「協育」ネットワークの構築状況

	23年度	24年度	25年度
「協育」ネットワーク数	115	118	124
「協育」ネットワーク 小学校カバー率	83% (250/301校)	87% (251/288校)	91% (258/282校)

＜「協育」ネットワークの基本的枠組み＞

- ①中学校区を基本としたネットワークであること。
- ②公民館等に学校・家庭・地域の協働に係る関係者によるネットワーク会議を組織していること。
- ③学校・家庭・地域の教育の協働を推進する「協育」コーディネーターが配置されていること。
- ④学校支援活動や子どもたちの安心安全な居場所づくり等の具体的な活動を計画的・継続的に行っていること。

(2) 「協育」ネットワークの設置場所（平成25年度）

設置場所	内 訳				
	公民館	教育委員会	自治会館等	小学校	中学校
124	85	3	4	29	3

(3) 「協育」ネットワークの中核となるコーディネーター等の状況（平成25年度）

コーディネー トする人材	内 訳				
	コーディ ネーター	公民館長又は 公民館主事等	社会教育主事 又は指導主事	その他教育委 員会職員等	教諭 又は教頭
153	82	30	13	5	23

(4) 「協育」ネットワークを活用した主な取組の状況

取組	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
学校支援 学校の求め により学習 支援や登下 校時の見守 り活動等を 実施	本部数	55	56	57	60	62
	活動件数	8,120	9,201	13,721	15,701	—
	支援者数	60,136	61,266	68,703	66,459	—
放課後 子ども教室 放課後や休 日等に様々 な体験活動 等を実施	教室数	119	120	151	150	150
	参加者数	3,443	4,273	4,496	5,829	—
	支援者数	1,967	1,985	2,088	2,633	—
学びの教室 放課後等に 国語や算数 等の補充学 習を実施	教室数	22	59	71	75	66
	参加者数	631	1,590	1,990	2,278	—
	支援者数	66	342	540	462	—

※平成25年度の「活動件数」「参加者数」「支援者数」については年度末
に確定

(5) 地域との連携を推進する担当教員の配置状況

校種	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
小学校		93%	95%	97%	99%	100%
中学校		92%	94%	96%	98%	98%

<「協育」コーディネーター等研修会>

平成25年度 第1回「協育」コーディネーター等研修会 実施要項

- 1 趣 旨 学校支援活動や放課後子ども教室、学びの教室等の教育の協働に係る事業を効果的に実施するため、推進の核となる「協育」コーディネーターを対象に、講義や発表、協議等をとおして、資質の向上と相互の連携を図る。
- 2 主 催 大分県教育委員会
- 3 期 日 平成25年6月4日(火)
- 4 会 場 大分県立社会教育総合センター 多目的ホール他
(別府市野口原3030-1 TEL 0977-22-7763)
- 5 参加者 各市町村で活動する「協育」コーディネーター及び市町村事業担当者
※第1回及び第2回は、「協育」コーディネーターのみを全員対象とします。
- 6 日 程

時 間	内 容
9:30~10:00	受 付
10:00~10:10	開会行事(主催者あいさつ、日程説明、諸連絡)
10:10~10:50	研修1 説 明 「地域ぐるみで子どもを育てる協育の推進体制について」 説明者 大分県教育庁社会教育課 指導主事 池田 喜隆 主任社会教育主事 多田 千栄 大分県福祉保健部 こども子育て支援課 主 事 中川 竜哉
11:00~12:00	研修2 発 表 「『協育』コーディネーターの役割とやりがい」 発表者 鶴見地区公民館鶴見校区コーディネーター 塩月 和子 氏 本匠地区公民館本匠校区コーディネーター 川野 敦子 氏 直川地区公民館直川校区コーディネーター 曽宮 恒子 氏
12:00~13:00	昼食・休憩
13:00~14:00	研修3 協議① 「協育ネットワークの推進に必要なこと ～各地域における現状と課題～」 進 行 大分県教育庁社会教育課職員
14:15~15:15	研修4 協議② 「協育ネットワークの推進に必要なこと ～各地域における現状と課題～」 進 行 大分県教育庁社会教育課職員
15:15~15:30	閉会行事(アンケート記入)

平成25年度 第2回「協育」コーディネーター等研修会 実施要項

1 趣 旨 学校支援活動や放課後子ども教室、学びの教室等の教育の協働に係る事業を効果的に実施するため、推進の核となる「協育」コーディネーターを対象に、講義や発表、協議等をとおして、資質の向上と相互の連携を図る。

2 主 催 大分県教育委員会

3 期 日 平成25年9月27日（金）

4 会 場 大分県立社会教育総合センター 多目的ホール他
(別府市野口原 3030-1 TEL 0977-22-7763)

5 参加者 各市町村で活動する「協育」コーディネーター及び市町村事業担当者
※第2回は、「協育」コーディネーターのみ全員対象とします。

6 日 程

時 間	内 容
9:30～10:00	受 付
10:00～10:10	開会行事（主催者あいさつ、日程説明、諸連絡）
10:15～11:45	研修1 講 義 「『協育』ネットワークの充実による地域活動の活性化」 講 師 愛媛県新居浜市 市民部 部長 関 福生 氏
11:45～12:45	昼食・休憩
12:45～13:45	研修2 発 表 「地区公民館を拠点とした『協育』ネットワークの構築」 発表者 日出町豊岡校区ネットワーク会議 「協育」コーディネーター 土師 真寿美 氏
14:00～15:20	研修3 協 議 「『協育』ネットワークを活用した効果的取組について ～課題解決のヒントを探る～」 進 行 大分県教育庁社会教育課職員
15:20～15:30	閉会行事（アンケート記入）

平成25年度 第3回「協育」コーディネーター等研修会 開催要項

- 1 趣 旨** 学校支援活動や放課後子ども教室、学びの教室等の教育の協働に係る事業を効果的に実施するために、推進上の核となる「協育」コーディネーター等の指導者を対象に、講義や事例発表、意見交換等をとおして、資質の向上と相互の連携を図る。
- 2 主 催** 大分県 大分県教育委員会
- 3 期 日** 平成26年1月24日（金）
- 4 会 場** 大分県立社会教育総合センター 多目的ホール他
(別府市野口原3030-1 TEL 0977-22-7763)
- 5 参加者** 各市町村の「協育」コーディネーター、教育活動推進員（旧学習アドバイザー）、教育活動サポート（旧安全管理員）、放課後児童クラブ指導員、各市町村事業担当者、等

6 日 程

時 間	内 容
9:30～10:00	受付
10:00～10:10	開会行事（主催者あいさつ、日程説明等）
10:10～11:10	研修1（事例発表） 発表① 「由布市における家庭教育支援の取組について」 発表者 由布市教育委員会社会教育課 係長 長谷川美由紀 氏 発表② 「地域と共に育つ子どもたち」 発表者 南山田放課後児童クラブ 指導員 工藤涼子 氏
11:10～11:20	移動
11:20～12:30	研修2（協議） 「今後の子ども支援の在り方について」 進行 大分県教育庁社会教育課職員
12:30～13:30	昼食・休憩
13:30～15:00	研修3（講義） 「『協育』ネットワークの現状と今後に向けて ～学校から家庭・地域・行政に期待すること～」 講 師 佐伯市立上堅田小学校 教頭 伊東俊昭 氏
15:00～15:20	研修4（説明） 「『協育』ネットワークの充実・深化に向けた取組」 説明者 大分県教育庁社会教育課生涯学習推進班参事（総括） 兼社会教育班参事（総括） 曽根崎 靖
15:20～15:30	閉会行事（アンケート記入）

2 大分県立社会教育総合センター調査研究事業

「教育の協働」推進のためのコーディネート機能等の現状 ～県内公民館等への聞き取り調査から～

大分県立社会教育総合センターでは、平成24年度・25年度の2か年にわたり、「教育の協働」を推進する上で核となる「コーディネート機能向上に向けた条件整備の在り方」を柱とした調査研究を実施しました。

平成24年度調査では、「教育の協働」に関する市町村教育委員会の方針及びコーディネート機能を果たしている公民館等機関における取組の現状を調査するとともに、全国の優れた取組を行っている市区町村や機関との現状比較も行いつつ、「教育の協働」推進上の本県の特徴や今後の推進の視点を整理しました。

平成25年度調査では、前年度の調査からみえてきた課題等を整理した上で更に調査研究を進めるために県内の5公民館等機関に対する聞き取り調査を行い、日常のコーディネート体制や地域の教育資源情報の収集・提供システム、プログラム提案型のコーディネート等に関する詳細な現状把握を行いました。

各公民館等機関においては、コーディネーターを中心に優れた取組が行われており、各市町村教育委員会及び公民館等の機関においては、地域の実情等も踏まえ、今後の取組の参考としていただきたいと考えています。

なお、今回の調査研究を踏まえた、コーディネート機能向上に向けた条件整備の在り方に関する提言については、「『教育の協働』の効果的な推進（最終報告）」（平成26年3月発行）をご参照ください。

1 日常のコーディネート体制について

(1) コーディネーターの勤務環境及びコーディネート体制

参考となる取組	公民館等の名称
公民館等の事務室に専用のデスクを配備	豊田公民館、杵築中央公民館 湯布院公民館、弥生地区公民館
専用のパソコンを配備	豊田公民館、杵築中央公民館 湯布院公民館、弥生地区公民館 玖珠町教育委員会
コーディネーターと他の職員の複数でコーディネート	杵築中央公民館、湯布院公民館 弥生地区公民館

①取組の現状

- 円滑なコーディネートを行う上で必要な専用のデスクやパソコンについては、多くの公民館で整備されている。
- コーディネートについては、コーディネーターと他の職員の複数で行っている公民館もあり、コーディネーターが不在の際には、他の職員が学校等への対応を行っている。
- 公民館を利用する各種サークルの代表や地域の自治委員と連携して人材情報の収集や人

選を行っている公民館もある。

- コーディネーターが学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）における学校運営協議会の委員になるととともに、自治会館と連携してコーディネートを行うケースもある。
- コーディネーターの勤務状況については、概ね週3日の半日勤務という例もあり、限られた勤務時間内の中で複数の小中学校を支援対象としている。

②現状から見えてくるもの

コーディネーターとしての意識を高めるとともに、日常のコーディネートを円滑に行うための環境整備として、専用のデスクや電子メールやインターネットが利用できるパソコン等の配備は有効であると思われる。

また、コーディネーターが不在の際に、学校や学校教育活動への支援に参加する団体・個人等との連絡調整を公民館の他の職員が行うなど、公民館全体でコーディネート機能を担う体制づくりが必要である。このことにより、コーディネーターの孤立を防ぐとともに、日常的・継続的なコーディネート機能を発揮することに繋がると思われる。

なお、コーディネーターが一人でコーディネート業務を担当するケースにおいては、公民館を利用する各種サークルや学級・講座生、地域の諸団体の代表等と緊密に連携をとるなど、コーディネーターのパートナーといえる人材を確保しておくことが必要と思われる。

（2）学校との打合せ

参考となる取組	公民館等の名称
原則、コーディネーターが対応するが可能な限り担当職員も対応	杵築中央公民館
申請書による支援要請の受付	玖珠町教育委員会

①取組の現状

- 学校との打合せについては、多くの場合、コーディネーターが一人で対応しているが、用務等が入っていないときには、担当職員も同行して複数で対応している公民館もある。
- 学校からの支援要請やその後の連絡調整は、主に電話やメールを使ったり、学校に出向いたりして行っている。また、学校の担当教職員が公民館を来館の上、コーディネーターと打合せを行うこともある。
- 学校からの支援内容の事前相談をコーディネーターが受けた後、当該校から教育委員会の担当課に支援要望書を提出するシステムがとられている事例もある。教育委員会の担当課への支援要望書の提出は、学校教育活動への支援に係る保険加入及び事故発生時の保険適用の証拠書類としても活用している。

②現状から見えてくるもの

学校との入念な打合せは、学校が行う活動と求める人材をコーディネーターが正確に把握し、より良い活動へと展開する上で当然重要である。その際、学校からの支援要望は一定の様式により受け付けるとともに、コーディネートの進捗状況を細かに記録しておくことが有効である。

このことにより、いわゆる「言った、言わない」といった行き違いによるトラブルを防ぐことができる。また、学校からの支援要望の内容や進捗状況を公民館の関係職員と共有すること

ができれば、コーディネーターが不在の際の学校との連絡調整、コーディネート上の課題や困り事に職員全体で対応できる体制づくりへと繋がるようと思われる。

なお、本県では、地域との連携を推進する担当を校務分掌上に位置づける取組を進めており、多くの小中学校において、担当教職員が学校の要望を取りまとめコーディネーターと打合せを行うなど、学校内のコーディネーターとしての役割を担っている。

したがって、地域の教育力を活用した学校教育活動をより充実したものとするためには、担当教職員が「教育の協働」の意義や効果、担当者としての役割等について理解を深めることが学校としてのニーズを発信するために重要であり、地域の教育力を活用した学校教育活動の充実に不可欠であると考えられる。

上記（1）及び（2）について整理すると、日常のコーディネート体制をより充実したものとするためには、コーディネーターの執務環境を整えるとともに、コーディネーターを中心とした複数でのコーディネート体制のもと、学校からの支援要請の内容やコーディネートの進捗状況等を共有することが大切である。

また、学校の担当教職員を対象とした「教育の協働」の推進に関する研修の機会を設けることも大切である。

2 地域の教育資源に関する情報収集・提供システムについて

（1）地域の教育資源に関する情報収集・保管・活用

参考となる取組	公民館等の名称
情報収集・保管・活用をコーディネーターと他の職員の複数で実施	杵築中央公民館、湯布院公民館 弥生地区公民館

①取組の現状

- 学校教育活動への支援に係る人材情報等の収集及び保管は、主にコーディネーターが行っている。
- 収集した情報はパソコンや冊子・台帳などで整理・保管しているケースが多い。収集した情報をコーディネーター以外の職員も共有・活用できる公民館も多い。
- 放課後子ども教室やその他の公民館主催事業に関連する情報も含め、職員全体で共有・活用している公民館もある。

②現状から見えてくるもの

収集した情報を職員間で共有・活用することは、それだけ多くの情報をもってコーディネーターが行えることから、学校教育活動への支援のみならず放課後子ども教室等の放課後の子どもの活動の充実にも繋がっていると思われる。

このため、収集した情報はパソコンの共有フォルダの活用や紙媒体で公民館事務室に設置するなど、個人情報の保護に留意しつつ、全職員が活用できるようにすることが有効であり、このことにより、公民館における情報の一元化が進むと思われる。

(2) 市町村内の他の公民館等との情報交換・共有

参考となる取組	公民館等の名称
コーディネーター等関係者による定期的な会議を実施	豊田公民館、杵築中央公民館 弥生地区公民館、玖珠町教育委員会

①取組の現状

- 市町村内のコーディネーターが一堂に会し、学校教育活動への支援の実施状況に関する情報交換を定期的に行っている。
- 市町全域での人材情報の交換も行われており、学校が求める人材が担当地区内で見つけることができない場合に他地区の人材を紹介してもらうなど、有益な情報の交換・共有が図られている。
- コーディネーターのみが集まる会議に加え、年度当初にコーディネーターと学校支援地域本部関係者、学校関係者の三者による合同会議を実施している事例もある。

②現状から見えてくるもの

人材をはじめとした教育資源情報を多く持っていることが、より良い活動をコーディネートする上で欠くことができない条件の一つである。したがって、市町村内のコーディネーター等関係者が日常の取組を持ち寄るとともに、人材等の教育資源に関する情報の交換を定期的に行うことは有効であると考えられる。

このことにより、コーディネートの質及び量の一層の充実に繋がると思われる。

上記（1）及び（2）について整理すると、地域の教育資源に関する情報収集・提供システムをより充実したものとするためには、子どもの活動のために活用できる地域の教育資源情報を一元的に整理・蓄積し、すべての関係者がいつでも活用できるようにしておくことが大切である。

また、より良いコーディネートを行うために、市町村内の公民館等の機関やコーディネーターの活動情報を知るとともに、人材をはじめとした地域の教育資源に関する情報交換・共有を図ることが大切である。

3 学校教育活動への支援の地域住民の関わりについて

(1) 人材等の教育資源の情報バンク

参考となる取組	公民館等の名称
学校教育活動への支援に参加した団体・個人等の人材情報をデータベース化	豊田公民館、杵築中央公民館 湯布院公民館、弥生地区公民館 玖珠町教育委員会

①取組の現状

- 人材に関する情報のデータベース化はすべての公民館で行われている。事前の登録制度は採用しておらず、活動に参加した団体や個人の情報を蓄積していく形をとっている。

- 教育委員会の担当課が年間の学校教育活動への支援の実施状況を冊子にまとめ、すべてのコーディネーターに配付する事例もある。
- 自治委員と連携し、公民館で把握できていない様々な特技や技能等を有している人材情報を取り組む公民館もある。
- 地域の歴史・文化、自然、施設といった子どもの活動に活用できる教育資源に関する情報のデータベース化は行われていない。

②現状から見えてくるもの

人材情報に関する登録制度の考え方については、すべての公民館で共通している。「登録したのに、一度も声がかからない」という登録者の疑念や不信感を回避するとともに、「最適な人材情報を学校に提供したい」というコーディネーターの思いなどから、事前登録制度は採用せず、実際に学校教育活動への支援に参加した団体や個人等の情報を整理・蓄積している。

なお、地域の教育資源とは、人材はもちろんのこと、地域の歴史・文化、自然、施設なども含むものであり、子どもの活動のために活用できる教育資源をジャンル分けして蓄積・活用できるようにしておくことが有効であると考えられる。

(2) 学校教育活動への支援に参加する地域の団体・グループ、個人等との情報交換・共有

参考となる取組	公民館等の名称
学校教育活動への支援の実施後に参加者の意見・感想等の聞き取りを実施	豊田公民館、杵築中央公民館 湯布院公民館、弥生地区公民館 玖珠町教育委員会

①取組の現状

- 学校教育活動への支援には可能な限りコーディネーターも出向き、活動の様子を観察したり、ボランティアと一緒に活動に参加したりしている。活動が終了した後、参加者の意見や感想を聞き取るとともに、児童生徒の気になる様子などについては、遅滞なく学校に報告するなど、学校との連絡も密に行われている。
- 参加者から聞き取った意見や感想等を整理し、活動報告書に記載して次年度の活動の参考とする事例もある。
- 校区ネットワーク会議の実施によって、学校関係者と地域の社会教育関係団体等の代表者が情報の交換・共有を行う場合が多い。
- 学校教育活動への支援の参加者が一堂に会して情報交換を行うなどの横の繋がりを作る取組はない。

②現状から見えてくるもの

学校教育活動への支援を行った参加者の意見や感想を聞き取るとともに、その内容を文書で残すことにより、次の活動へ生かすことができるよう思われる。このため、一定の様式により活動の記録をまとめておくことが有効である。

また、学校教育活動への支援に参加する地域の様々な団体やグループ、個人が日ごろの活動実践や情報を交換できる場を設けることは、横の繋がりを深め、人的ネットワークの広がりを生み出し、ひいては、新たな学校教育活動への支援の展開が期待できるものと思われる。

上記（1）及び（2）について整理すると、学校教育活動への支援の地域住民の関わりにつ

いては、人材に関する情報の把握は行われているが、これに加えて、「歴史・文化」や「自然」、「施設」などに関する情報も地域の教育資源情報として蓄積し、活用できることが有効である。

また、学校教育活動への支援の参加者の意見や感想等を含めた活動報告書を作成し、関係者で共有しておくことが、その後の活動をより充実したものにする上で大切である。

さらに、人的ネットワークのためには、学校教育活動への支援に参加する団体やサークル、個人等が相互に情報交換・共有できる場を設定することが有効であると思われる。

4 学校の求めに最大限に応えるプログラムの企画・提案について

(1) 学校と協働で企画したプログラム

参考となる取組	公民館等の名称
学校との打合せにおいて、より良い活動に向けた提案を行い学校と協働でプログラムを企画	豊田公民館、杵築中央公民館 湯布院公民館、弥生地区公民館 玖珠町教育委員会

①取組の現状

- すべてのコーディネーターが、前年度の課題や反省事項等を踏まえ、より良い活動となるよう地域の教育資源情報を的確に組み合わせたプログラムの提案を行い、学校の求めに応じたプログラムを学校と協働で企画している。

<プログラム例>

テーマ	内容	公民館等の名称
職業人に学ぶ	キャリア教育の一環として、生徒が興味関心をもつ職業をリサーチした上でブースを設置し、職務内容について詳細な話を聞く（中学校）	豊田公民館
カブトガニ観察会	地域の宝であるカブトガニの生態観察と干潟の保全をテーマとした環境保護に関する学習（小学校）	杵築中央公民館
親子食育	育ち盛りの子どもにとっての「補食」の大切さに着目し、バナナのホットケーキ作りを親子で実施（小学校）	湯布院公民館
手作り味噌づくり	総合的な学習の時間における手作り味噌づくりと団子汁づくり（小学校）	弥生地区公民館
昔の遊び	お手玉やあやとりなどの遊び方を知らない若い世代の教員や保護者に替わって地域の高齢者等が指導（小学校）	玖珠町教育委員会

②現状から見えてくるもの

学校と協働でプログラムを企画することは、学校の求めに応じて人材をコーディネートするというこれまでのコーディネートの在り方から一歩進んだ高度なコーディネートである。

学校の要請に対して、「それであれば、ここにこんな人がいますよ。こんなことができますよ」といった提案を返していくコーディネーターの情報量の多さと企画力が求められる。

この積み重ねによって、公民館やコーディネーターに対する信頼感とパートナー意識を学校が深め、さらなる地域の教育力の活用へと繋がるものと思われる。

(2) 学校教育活動のプログラムの企画・提案

参考となる取組	公民館等の名称
地域の教育資源を活用した学校教育活動のプログラムを企画・提案	弥生地区公民館

①取組の現状

- 学校の年間計画が年度が明けた5月頃に示される場合も多く、その時点で新たな提案を行うことが困難である。
- コーディネーターから学校に対して学校教育活動のプログラムの提案を行うことは、「学校に負担をかけ、多忙化に拍車をかけることに繋がる」との考え方から、積極的な働きかけを行っていない。

<プログラム例>

テーマ	内容	公民館等の名称
蚕の飼育と繭の糸取り	蚕の飼育を提案するとともに、繭の糸取りを生糸工場に勤めた経験のある地域の高齢者の指導により実施（小学校）	弥生地区公民館

②現状から見えてくるもの

今後、コーディネーターに求められる役割の一つとして、プログラムの企画・提案型のコーディネートが考えられる。このことは、上記(1)の「学校との協働によるプログラムの企画」と同様に非常に高度なコーディネートである。

そのためには、コーディネーターが学校の教育課程等も理解しつつ、先に述べたように豊富な情報量と企画力、提案のためのプレゼンテーション力が求められる。

一方、取組の現状で述べたとおり、コーディネーターサイドからの提案が却って学校に負担を強いてしまうことを懸念する傾向も見受けられる。

したがって、次年度を見越したプログラムの提案という提案のタイミングを考慮するとともに、学校からの要請に対して、提案できる材料をコーディネーターが常に準備して持つておくことが必要と思われる。

上記(1)及び(2)について整理すると、学校の求めに最大限に応えるプログラムの企画・提案について、その機能を高めるためには、コーディネーターを中心とした関係者は、学校や児童生徒への理解を深めるとともに、学校からの要請に的確に対応できるよう、より多くの教育資源情報の収集・蓄積と、企画力の向上に努めることが求められる。

【資料1】 コミュニティースクール実施のための資料

① H24年度ちいきとともにある学校づくり推進協議会資料より

場所：文部科学省（東京会場） 期日：H24年12月4日

②文部科学省初等中等局学校運営支援担当部署での聞き取り資料より

場所：文部科学省初等中等局 期日：H24年12月5日

大分大学高等教育開発センター

教授 中川忠宣

概要

○日本のモデルは、1990年代にイギリスにおいて始まった制度である「学校理事会」

○日本はH16年度にコミニティースクール（和製英語）を実施

- ・学校教育に地域の願いを反映させる
- ・日常からの地域と学校のつながりが基盤となる
- ・今後5年間で1割（3,000校）を指定する
- ・学校の課題を共有し、その解決のための1つのツールである
- ・個別の対応、個別の学校評価が前提となる

【21世紀に求められる人づくりと学校の役割】

1. いいコミュニティーの中で次のような子どもを育てる

- ①マニュアルに頼らない ②ミスを恐れない ③指示を待たない

2. 大人のつながり、意識改革

- ①まちづくり ②人づくり ③親づくり

【コミニティースクール関連法規】: 重要用件抜粋

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第四十七条の五

1. 教育委員会規則で定めるところにより学校運営協議会を置いた学校
2. 校長が作成した学校運営に関して、教育課程の編成その他教育委員会規則で定める事項に関する方針は運営協議会が承認する
3. 運営協議会は運営に関する事項について教育委員会又は学校に意見を述べることができる
4. 職員の採用その他の任用について、任命権者に意見を述べることができる

【コミニティースクールとは】

1. 考え方の基本→「学校評価」を基盤にした学校経営を行う

(1) 問題を抱えている学校がそれを解決する（解決の一歩を踏み出す）1つのツール（システム）である。

(2) 熟議を通して「何がコミニティースクールのテーマであるか」を明確・共有化する。

①教職員全体の共有 ②学校と地域住民の共有
→テーマコミニティーを作る

(3) 学校経営の主体は校長であり、校長の学校経営をやりやすくするために、地域住民の願いも反映させながら学校運営するための支援組織（学校運営協議会）を置くものである

2. コミュニティースクールの3つの要素

(1) 熟議：多様な当事者が、それぞれのコミュニティーが抱える課題を共有する

※原点：学校に何が足りないのか

改善方策を考える（繰り返し）

①複数の視点が大切

②真のコミュニティーを創る

(2) 協働：地域住民が責任をもつ

①問題に対して教職員は全てはできない

②住民みんなで汗をかくことが必要

③中核的ボランティアの存在が重要

(3) マネージメント：学校組織の力を引き出す※現実的にはコーディネーターが必要

①運営への支援によって本来の学校機能を引き出す

②教職員の協働体制づくりへの支援

3. 地域のために地域住民の願いを反映させるシステム（仕組み）づくり

(1) 学校運営協議会の設置

①学校運営に関する協議組織である・・「何を！」

②学校教育活動支援とのセットというシステムが重要・・「どうする」

(2) 「1つのツールとして」という考え方

解決のために「何を！」の協議組織

コミュニケーションスクール

- ・子どもと大人の斜めの関係づくり
- ・トピックスの体験・個別指導
- ・安心と喜び
- ・教職員の本業外の対応
- ※住民関係を基盤にした課題への
その場での対応を可能にする

→ そのために「どうする」の実行部隊

学校支援隊の組織化

1. 支援組織の現状

- ①学校支援本部事業 (28.1 %)
- ②その他の支援組織 (16 %)

※運営協議会内に設置 (55 %)

- 2. コーディネート機能の確立
- ・コーディネートシステム

(3) メンバー構成への配慮

①ほとんどの協議会では校長もメンバーである

②名士なのか実働部隊なのかの考え方を明確にする

4. 学校だけでは抱えきれない様々な課題への地域住民の教育力の導入

① H 11 当時：不登校や学校の荒れ、学力問題への対応が日本におけるコミュニティースクールの発端

② 住民関係を基盤にした課題へのその場での対応を可能にする

③子どもへの関わりを通して、大人が学び、大人がつながる「まちづくり」

5. 学校の役割と住民の役割の明確化

(1) 両者の関係の日常的なつながりのシステム作り

(2) 継続できる体制づくり ※住民は代わらないが、教職員は短期間に代わる（異動）

(3) 教職員の負担（多忙化）にならないこと
※「多忙化」の定義や意識についての共通認識が必要

【コーディネートシステムの整備】

1. 人材の発掘と確保と支援システム

- (1) コーディネートシステムづくり
- (2) コーディネートチームづくり
 - ①コーディネーターの複数化
 - ②専任と専任を支援するコーディネーター等の体制

2. 教職員とコーディネートチーム（システム）との連携システム

【教育行政として押さえるべきこと】

1. 教育委員会のリーダーシップが重要

- ①教育行政が目指すものを示すこと
- ②心配事、基本事項、計画等は条例で規定する
- ③小中一貫教育の推進と連動させた推進が効果を發揮する
- ④学校評価（内部評価や外部評価）と連動させた推進が必要

2. 柔軟なコミュニティスクール（システム）づくり

- ①地域・学校の現状・課題に沿った多様な形がある
- ②子どもも大人も、学校も地域も、みんなが元気になる

3. 課題解決のためのコミュニティースクールの学校運営は

- ①サポート型→②連携型→③協働型へと発展させることが望まれる

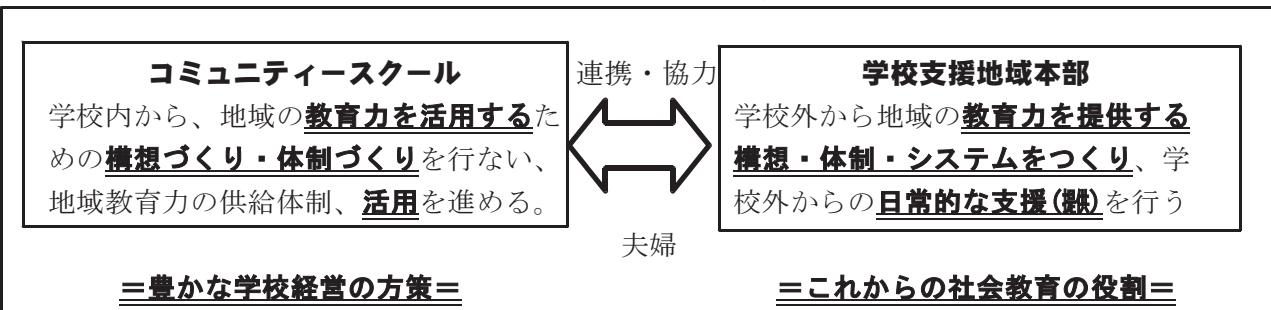
【コミュニティースクールの成果】

1. 子どもへの効果：基礎学力の向上やいじめ・不登校、児童生徒の自主性

2. 学校への効果：地域住民との共同体制、授業力の向上、教職員の意識の共有やネットワーク 小中一貫教育の推進

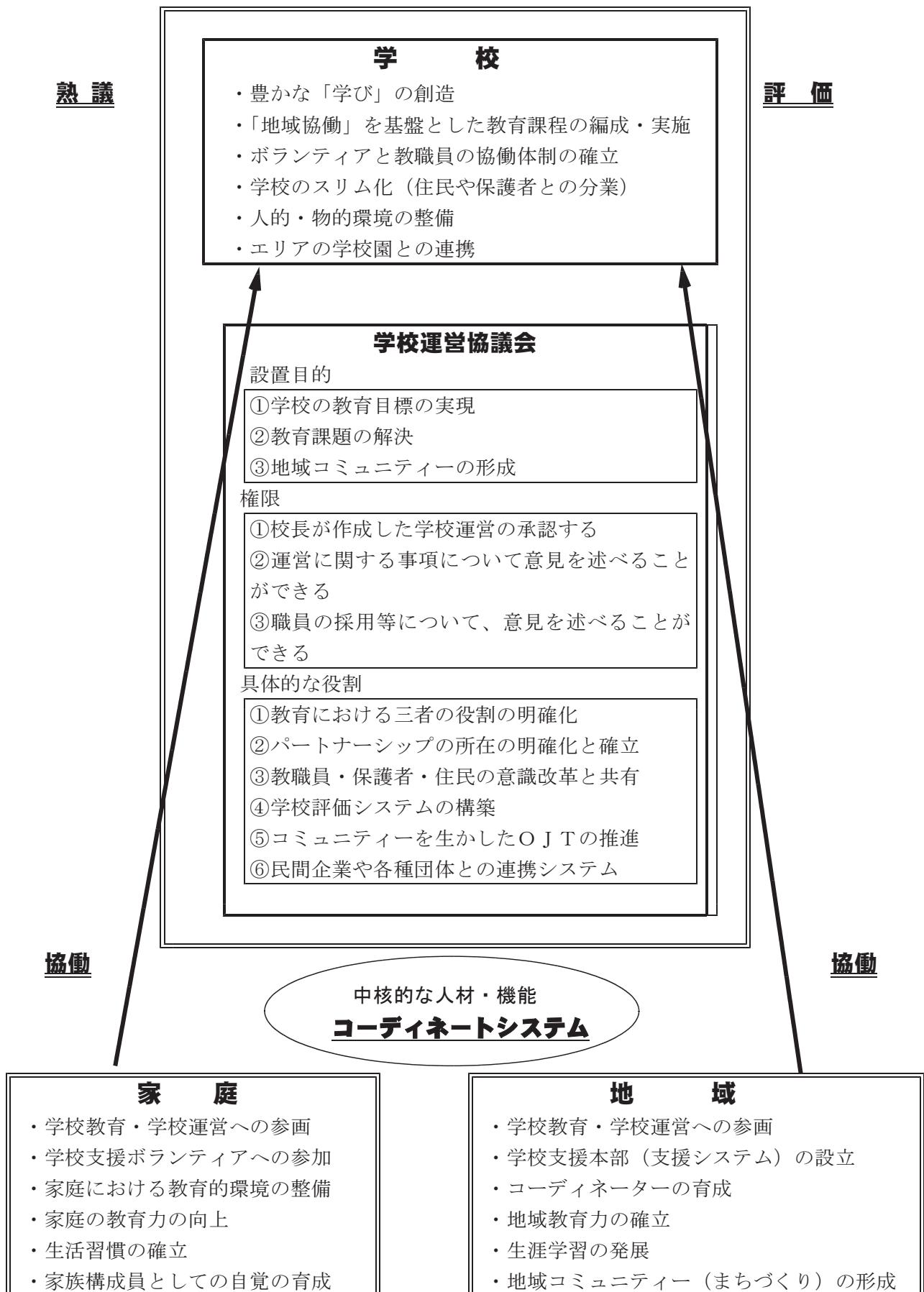
3. 地域住民への効果：大人同士の繋がり、地域づくりと活性化、親の子育て意識の向上

=コミュニティースクールと学校支援本部との関係=



新しい学校運営（コミュニティースクール）の創造

参考：玉川大学教職員大学院教授 小松郁夫



【資料2】

大分大学から発信する おおいた「協育」ポータル Webサイトの紹介

平成18年12月、60年ぶりに教育基本法が改正されました。その改正で、「生涯学習の理念」（第3条）、「家庭教育」（第10条）、「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」（第13条）などが新たに条文化されました。生涯学習は生涯を通じた個々の学習活動と見られがちですが、そこにとどまらず、大人の学びを生かして、地域の子どもを地域のみんなが協働して育てることの重要性が認識されてきました。近年は全国各地でこのような家庭、学校、地域社会の連携を基盤にした子どもたちへの支援活動が多様に展開されています。

本ホームページは、上記の活動を支援することを目的として、大人の学び、地域の子育てに関する活動情報、「大人が学び、子どもが育つ」教育の協働（これを「協育」と言う）に関わる情報の収集・蓄積・提供を一元的に集約し、発信していく窓口となるように運営することを目的としています。既存の「大分大学高等教育開発センターのホームページ」では、本センターが提供する学習情報の提供をしています。本ホームページはその情報に加えて、県内外の、各種団体や個人の「教育の協働」や「学習活動」を進めるための、県内外の各種情報を体系的に整理し、「大分大学の情報」「県内外の学習情報」「協育の推進情報」などに分類して提供する「協育」全体のポータルサイトとなることを目指しています。本ホームページの趣旨にご賛同いただき、県内の各種活動情報、イベント情報、調査研究資料等の情報をいただきますようお願いします。

★「おおいた『協育』ポータル」ロゴマーク★



3つの「力」は学校・家庭・地域社会を意味しており、赤・青・黄・緑は光・色の3原色であり、うまく配合されることによって生まれる白（光）と 黒（色）を意味し、様々な彩りをつくる可能性を示しています。

さらに、大分大学旦野原キャンパスから別府方面を望むと、新緑の由布岳（春）、子どもたちをしつかり地域に繁茂させる学びの場として青々と茂る鶴見山（夏）、紅葉で染まる高崎山（秋）は最終的に輝く社会人を育てる企業を象徴しています。この3山の連なりと、県鳥であるメジロ（ウグイス色）が3山に広く生息している様子を図案化したものです。

大分大学高等教育開発センターが、この3連山のように家庭、学校、地域社会が繋がって、大分県の発展のために教育の協働を推進していく役割を担っていきたいという思いを表しています。



☆「協育」事例集☆
教育の創造～地域「協育」のススメ（第3巻）～

発 行 平成 26 年 3 月
大分大学高等教育開発センター
〒870-1192 大分市大字旦野原 700 番地
Tel/Fax(097)554-8509
<http://www.he.oita-u.ac.jp>